

台太郎遺跡

—「フローラルアベニュー向中野2丁目」宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書—

2015. 9

徳清倉庫株式会社

盛岡市教育委員会

例 言

1. 本書は、岩手県盛岡市向中野二丁目6番2地内に所在する台太郎遺跡の発掘調査報告書である。

台太郎遺跡第80次調査にかかる野外調査は、平成25年7月22日から12月2日まで実施し、調査面積は1,155㎡である。室内整理作業は平成25年12月3日から平成26年6月30日まで行った。

2. 本調査は、土地所有者である佐藤重昭氏（徳清倉庫株式会社 代表取締役社長）と盛岡市教育委員会との間に締結された協定書に基づき、盛岡市遺跡の学び館が野外調査、出土資料整理及び報告書編集を実施した。本調査にかかる費用は、事業主体者である佐藤重昭氏から支出された。
3. 本書は遺構及び遺物の実測図などの資料呈示を意図して、編集は花井正香が担当し、神原雄一郎、佐々木紀子、千田和文、室野秀文、菊地幸裕、津嶋知弘、鈴木俊輝が協力した。
4. 遺構の平面位置は、日本測地系を用い、平面直角座標X系を座標変換した調査座標で表示した。

$$\begin{aligned} \text{調査座標原点} \quad X - 35,500.000 &= R X \pm 0.000 \\ Y + 26,500.000 &= R Y \pm 0.000 \end{aligned}$$

5. 高さは標高値をそのまま使用している。
6. 土層図は堆積のあり方を重視し、線の太さを使いわけた。土層註記は層理ごとに本文でふれ、個々の層位については割愛した。なお、層相の観察にあたっては『新版標準土色帖』（2013 小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業(株)発行）を参考にした。
7. 遺構の名称及び記号は次のとおりである。また「竪穴建物跡」の名称については、『発掘調査のてびきー集落遺跡発掘編ー』（2010 文化庁文化財部記念物課・独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所編集）に倣っている。

遺 構	記号	遺 構	記号
竪穴建物跡	R A	土 坑	R D
建 物 跡	R B	溝 跡	R G

8. 遺構番号は、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（以下、「県埋文センター」という。）調査遺構番号との整合を図り、以下のとおりとした。

本調査精査遺構：3桁または4桁の遺跡内連続番号

（基本的に県埋文センター調査遺構番号に連続、一部欠番あり）

9. 使用した地図は国土交通省国土地理院発行の5万分の1「盛岡」「日詰」の地形図である。
10. 土器の区分は、縄文土器・須恵器・あかやき土器・土師器・かわらけに分類した。「あかやき土器」の名称は、ロクロ使用の酸化煙焼成土器（坏類、甕類）に使用し、ロクロ使用の内面黒色処理の坏類は「土師器」に分類した。
11. 出土遺物の実測は、神原雄一郎、佐々木紀子が行った。
12. 発掘調査に伴う出土遺物及び諸記録は、盛岡市遺跡の学び館で保管してある。
13. 本調査の一部については、現地公開資料等により報告しているものがあるが、本書の記載内容をもって訂正する。

14. 調査体制 —平成 25・26 年度—

[調査主体]	盛岡市教育委員会	
	教育長	千葉 仁一
	教育部長	鷹觜 徹
	教育次長	柴田 道明 (～平成 25 年度)
		豊岡 勝敏 (平成 26 年度)
[調査総括]	歴史文化課 遺跡の学び館	
	課長兼館長	袖上 寛
	主幹兼館長補佐	千田 和文 (～平成 25 年度)
	館長補佐	北田 牧子 (平成 26 年度～)
[調査]	副主幹	菊地 幸裕 (平成 26 年度～)
	文化財主査	室野 秀文
	文化財主査	菊地 幸裕 (～平成 25 年度)
	文化財主査	津嶋 知弘
	文化財主査	神原 雄一郎 (平成 25 年度大船渡市へ派遣) ※資料整理
	文化財主任	花井 正香 (平成 26 年度大船渡市へ派遣) ※調査・資料整理
	文化財調査員	佐々木 紀子 (～平成 25 年度) ※資料整理
	文化財調査員	鈴木 俊輝
	文化財調査員	樋下 理沙 (平成 26 年度～)
[管理・学芸]	主査	田山 淳一 (～平成 26 年度)
	主任	江本 敦史 (～平成 25 年度)
	文化財主任	千田 和文 (再任用：平成 26 年度)
	学芸調査員	山岸 佳澄
	文化財調査員	木幡 里美
	学芸調査員	山野 友海

[発掘調査・室内整理作業]

阿部正幸，阿部有子，天沼芳子，泉山紀代子，伊藤敬子，内山陽子，長内理恵，
及川京子，春日真恵，川村久美子，熊谷あさ子，小林勢子，小松愛子，佐々木紀子，
佐藤和子，佐藤公一，佐野光代，谷藤貴子，千葉智子，千葉留里子，袴田英治，
日野杉節子，藤原亮子，細田幸美，山田聖子

[御指導・御協力]

岩手県教育委員会，公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
佐藤重昭，徳清倉庫株式会社，株式会社北進測量設計

(五十音順，敬称略)

目 次

例 言	
目 次	
表 目 次	
挿 図 目 次	
写真図版目次	

I. 遺跡の環境	
1. 地理的環境	1
2. 歴史的環境	2
II. 調査内容	
1. これまでの調査	4
2. 調査経過	10
3. 遺跡の基本層序と遺構検出状況	10
4. 検出された遺構と遺物	
(1) 奈良時代の遺構・遺物	11
(2) 平安時代の遺構・遺物	14
(3) 古代以降の遺構・遺物	41
III. 調査のまとめ	53

表 目 次

第1表 台太郎遺跡調査成果一覧	9
第2表 出土遺物観察表 古代土器(1)	57
第3表 出土遺物観察表 古代土器(2)	58
第4表 出土遺物観察表 古代土器・縄文土器(3)	59
第5表 出土遺物観察表 土製品(1)	60
第6表 出土遺物観察表 土製品(2)	60
第7表 出土遺物観察表 石製品	60
第8表 出土遺物観察表 鉄製品	60
第9表 出土遺物観察表 磁器	60

挿 図 目 次

第 1 図	台太郎遺跡位置図 (1 : 100, 000)	1
第 2 図	地形分類と周辺の遺跡分布	3
第 3 図	台太郎遺跡全体図 (1 : 2, 000)	5
第 4 図	台太郎遺跡第 80 次調査全体図	7
第 5 図	台太郎遺跡第 80 次調査全体図 (溝跡, ピット)	8
第 6 図	R A 671・672 竪穴建物跡	63
第 7 図	R A 673 竪穴建物跡	64
第 8 図	R A 674 竪穴建物跡	65
第 9 図	R A 675 竪穴建物跡	66
第 10 図	R A 676 竪穴建物跡	67
第 11 図	R A 677 竪穴建物跡	68
第 12 図	R A 678 竪穴建物跡	69
第 13 図	R A 679・681 竪穴建物跡	70
第 14 図	R A 680 竪穴建物跡	71
第 15 図	R A 682・684・685 竪穴建物跡	72
第 16 図	R A 683 竪穴建物跡	73
第 17・18 図	R A 686 竪穴建物跡 (1)・(2)	74・75
第 19 図	R A 687 竪穴建物跡	76
第 20 図	R A 688 竪穴建物跡	77
第 21 図	R A 689・691 竪穴建物跡	78
第 22 図	R A 690 竪穴建物跡	79
第 23 図	R A 692・693 竪穴建物跡	80
第 24 図	R A 694 竪穴建物跡	81
第 25 図	R A 695 竪穴建物跡	82
第 26 図	R A 696 竪穴建物跡	83
第 27 図	R A 697・698 竪穴建物跡	84
第 28 図	R A 699 竪穴建物跡	85
第 29 図	R A 700 竪穴建物跡 (I 期)	86
第 30 図	R A 700 竪穴建物跡 (II 期)	87
第 31 図	R A 701 竪穴建物跡	88
第 32 図	R B 142 掘立柱建物跡, R D 2186~2189 土坑	89
第 33 図	R D 2190~2197 土坑	90
第 34 図	R D 2198~2204・2211 土坑	91
第 35 図	R D 2205~2210・2212 土坑	92

第 36 図	R G 616・618・619 溝跡	93
第 37 図	R G 617 溝跡	94
第 38 図	R G 620～622 溝跡	95
第 39 図	ピット土層断面	96
第 40 図	R A 671～673 竪穴建物跡出土土器	99
第 41 図	R A 674・679 竪穴建物跡出土遺物	100
第 42 図	R A 675 竪穴建物跡出土遺物	101
第 43 図	R A 676 竪穴建物跡出土土器	102
第 44 図	R A 677 竪穴建物跡出土土器	103
第 45 図	R A 678 竪穴建物跡出土土器	104
第 46 図	R A 680～682 竪穴建物跡出土土器	105
第 47 図	R A 683・685 竪穴建物跡出土土器	106
第 48 図	R A 686 竪穴建物跡出土土器	107
第 49 図	R A 687・688 竪穴建物跡出土遺物	108
第 50 図	R A 690～694 竪穴建物跡出土遺物	109
第 51 図	R A 695～698 竪穴建物跡出土土器	110
第 52 図	R A 699・701 竪穴建物跡出土土器	111
第 53 図	R A 700 竪穴建物跡出土遺物	112
第 54 図	R D 2186・2187・2191・2212 土坑, R G 621 溝跡, 遺構外出土遺物	113

写 真 図 版

第 1 図版	盛南開発地区航空写真
第 2 図版	第 80 次調査区南全景, 調査区北全景
第 3 図版	R A 671～675・679 竪穴建物跡全景, R A 674 竪穴建物跡貯蔵穴遺物出土状況, R A 675 竪穴建物跡柱材検出状況
第 4 図版	R A 676～678・680～683 竪穴建物跡全景, R A 678 竪穴建物跡カマド全景
第 5 図版	R A 684～691 竪穴建物跡全景
第 6 図版	R A 692～698 竪穴建物跡全景, R A 696 竪穴建物跡床下ピット遺物出土状況
第 7 図版	R A 699～701 竪穴建物跡全景, R A 700 竪穴建物跡Ⅱ期カマド全景, R B 142 掘立柱建物跡全景, R D 2186～2188 土坑全景
第 8 図版	R D 2189～2196 土坑全景
第 9 図版	R D 2197～2204 土坑全景
第 10 図版	R D 2205～2212 土坑全景
第 11 図版	R G 616～622 溝跡全景
第 12 図版	R A 671～675・679 竪穴建物跡出土土器・土製品, R A 675 竪穴建物跡出土土師器坏 墨書「木」, R A 675 竪穴建物跡ピット 2 出土柱材

- 第13 図版 R A676～678・680～683 竪穴建物跡出土土器，R A676 竪穴建物跡出土土師器坏 刻書「+」
- 第14 図版 R A686～688・690・692・694・695 竪穴建物跡出土土器，R A691 竪穴建物跡出土小刀
- 第15 図版 R A673・696・697・699～701 竪穴建物跡出土土器，R A675・688・700 竪穴建物跡出土砥石，
R D2186・2191 土坑出土土器，R G621 溝跡出土土器
- 第16 図版 R D2187 土坑出土土器，土製品，R D2212 土坑出土磁器染付「別當塚」，遺構外出土縄文土器，
調査風景，盛岡市立向中野小学校見学会

《遺物の表現について》

(1) 土器

- a. 出土土器の区分は，縄文土器・須恵器・あかやき土器・土師器・かわらけに大別した。
- b. 縄文土器の拓本は1/2スケールとし，古代土器の実測図・拓本は1/3スケールとした。
- c. 挿図の土器配列については，器種・器形・文様モチーフ及び施文技法でまとめた。
- d. 土師器の黒色処理されたものは，網目（スクリーントーン）で表現した。

(2) 土製品・石製品・鉄製品・磁器

- a. いずれも1/2スケールとし，場合によっては1/3スケールとしている。
- b. 挿図の配列は出土した層位順とし，さらに器種ごとにまとめた。

(3) 挿図中の記号・番号は遺物の出土位置及び出土層位を表している。

(例) R A871 C層 →R A871 竪穴建物跡内埋土C層より出土

(例) H 2 - T 5 IV層

↓ ↓ ↓

※1 ※2 ※3

※1 調査座標原点R X ± 0 R Y ± 0を起点として，X・Y両軸を50m毎に区切る大グリッドを設定し，X軸線上を西から東へA・B・C…W・X・Y（原点から東から西への場合は-A・-B・-C…-W・-X・-Y），Y軸線上を北から南へ1・2・3…23・24・25（原点から南から北への場合は-1・-2・-3…-23・-24・-25）と付し，北西隅のこれらのアルファベットとアラビア数字の組合せを，大グリッドと呼称した（第3・4図）。

※2 大グリッドを2m毎に細分割し，小グリッドを設定し大グリッドの呼称を再び用いた。よって，大グリッド-小グリッドという組合せで，遺物の平面出土地点を2mごとに表示した。

※3 遺物の出土層位を表している。

《遺構の表現について》

遺構の挿図中，説明する当該遺構については，実線で表現した。なお説明遺構と切り合った遺構については一点鎖線で表現した。

I 遺跡の環境

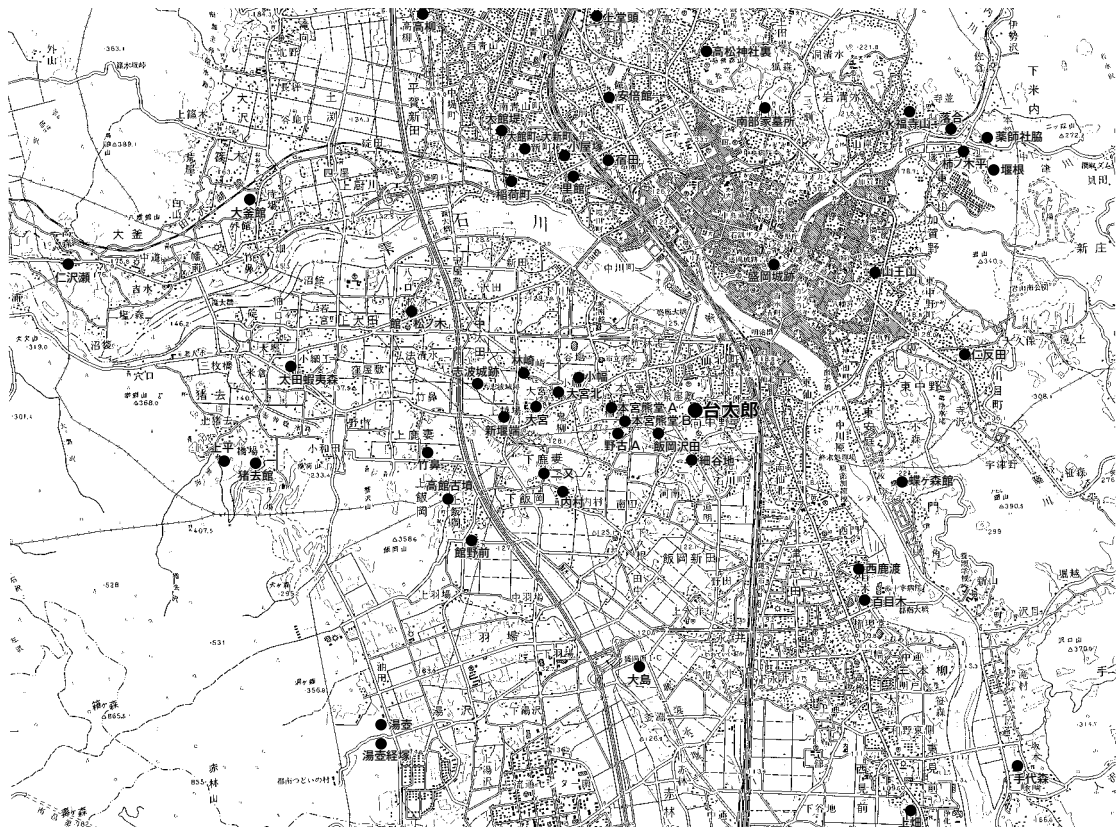
1 地理的環境

遺跡の位置 台太郎遺跡は、盛岡市街地より南西約2kmの向中野地内に所在する(第1図)。かつては水田・畑・宅地などの農地が主体を占めていたが、近年は盛岡南新都市開発整備事業(以下、「盛南開発」という。)に係る土地区画整理事業のため、急速に宅地化が進められている。遺跡の範囲は東西約800m、南北約500mと推定され、標高は119~123mである。現況は宅地、学校及び商業地である(第3図)。

地形・地質 盛岡市は東に北上山地、西に奥羽山脈を擁し、北西には岩手山(2,038m)を望む。中央の北上平野には東北一の大河である北上川が流れる。北上山地と奥羽山脈は、構成する地質やその形成年代が異なるため、東西の地形の様相は大きく異なる。また、岩手山を含む八幡平火山地域の火山活動も盛岡の地形・地質に大きく影響を及ぼしている。

雫石川は奥羽山脈より東流し、その流れは烏泊山と箱ヶ森に挟まれた北の浦(市内上太田)で急激に挟められ、その狭窄部を抜けて北上川と合流する。雫石川はこれまでに何度も流路を変えており、雫石川南岸に広がる沖積段丘の形成に大きな影響を及ぼしている。台太郎遺跡はその沖積段丘上に立地している(第2図)。

この沖積段丘は、水成砂礫層を基底とし、その上層に水成シルト、さらに表土が覆っている。このシルト層は旧河道などの低地形ばかりでなく、微高地上にも堆積している。これは沖積段丘が、河道の定まらない雫石川の下刻が周辺山地からもたらす砂礫やシルトによって形成され、何度も堆積が繰り返されたことによるものである。雫石川の旧河道は幾筋も確認されており、大きなものは4条、そのほかにも網目状に細かな旧河道が沖積段丘に広がっている。それらに画された微高地上に古代を中心とした遺跡が点在している。



第1図 台太郎遺跡位置図(1:100,000)

2 歴史的環境

周辺の遺跡 本遺跡の立地する沖積段丘上では、縄文時代～古墳時代にかけての遺構・遺物の発見は少なく、遺跡のほとんどは7世紀中葉以降の集落遺跡といえる。

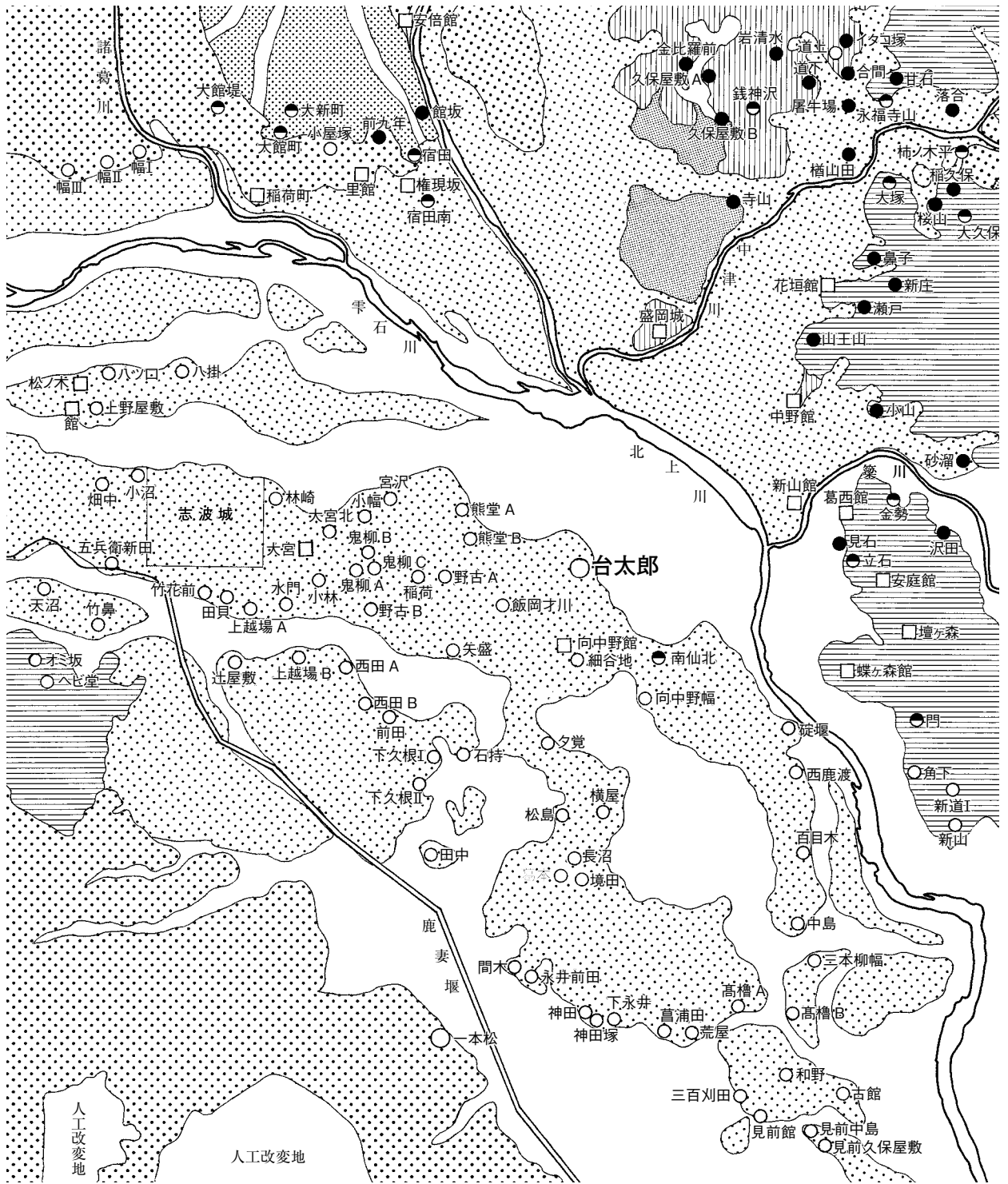
縄文～弥生 縄文・弥生時代の遺構・遺物は、本宮熊堂A遺跡、台太郎遺跡及び細谷地遺跡で縄文時代晩期を中心とする竪穴建物跡や遺物包含層が検出されている。その他の各遺跡からは遺物が散見する程度であり、主体的なものではない。また、詳細な時期を特定する要素は乏しいが、飯岡才川遺跡など多くの遺跡で縄文時代の陥し穴が確認されている。

古 代 古墳時代末、7世紀中葉の遺構・遺物は、数は多くはないが台太郎遺跡などで確認されている。これ以降集落が継続的に営まれる。奈良時代、8世紀中葉以降竪穴建物跡を主体とした集落跡が増加する。この時期の集落は、大型竪穴建物跡を中心としてその周囲に小～中型の竪穴建物跡が数棟ずつまとまりをもって分布する傾向がある。

9世紀、平安時代初頭の延暦22年(803)には、本遺跡の西方約1.2kmに「志波城」(下太田方八丁他)が造営される。志波城は東北経営のために朝廷が造営した古代城柵であり、当時「蝦夷(エミシ)」と呼ばれていた人々の社会に大きな影響を与えたと考えられる。征夷大將軍であった坂上田村麻呂が朝廷の命を受け造営した志波城は、北側を流れる雫石川の度重なる洪水の被害を受け、およそ10年で文室綿麻呂の建議により徳丹城(矢巾町西徳田)に移転したことが記録に見られる。その後、徳丹城は9世紀中葉までにはその機能を停止し、本地域も含む北上盆地一帯は、鎮守府胆沢城(奥州市水沢区九蔵田)による一城統治の体制となる。以降、9世紀中葉から本地域では竪穴建物跡を主体とした集落数が増加の一途をたどる。それにともない竪穴建物跡の規模の大小差は縮小するようになり、重複が著しく見られるようになる傾向がある。その中でも、向中野館遺跡の低湿地から古代の祭祀に関係すると考えられる遺物の出土や、飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡の円形周溝墓群や火葬骨蔵器など、本地域内の集落機能の分化もみられる。また、9世紀後葉から10世紀中葉にかけては、地区の拠点的な集落も姿を現すようになる。細谷地遺跡では、微高地の南斜面に沿うように2×2間の総柱の掘立柱建物跡が東西に並立し、倉庫群が存在したと考えられる。また大宮北遺跡や、志波城跡の北東に隣接する林崎遺跡で、規模の大きな官衙的な掘立柱建物を計画的に配置した集落も発見されており、在地有力者の拠点と考えられる。

中 世 11～12世紀にかけての、様相ははっきりしないが、12世紀末～13世紀初頭頃のものと考えられるかわらけが、大宮遺跡の大溝跡から多量に出土している。13世紀後半には、台太郎遺跡で不整長方形の平面形となる居館が営まれ、地域を支配した豪族の存在が想定される。さらに同遺跡では、土坑墓群や宗教施設と考えられる遺構も検出されており、出土遺物から15世紀頃までの存続が考えられる。また向中野館遺跡や矢盛遺跡でも、堀跡が検出されており、出土遺物やその平面形から16世紀代を中心とする居館と考えられている。

近 世 江戸時代には、雫石川は現在の流路となり、旧河道の東側には奥州道中(街道)や仙北組丁が開かれ、本地域は水田地帯に農家が点在する農村地帯となる。各遺跡からは曲屋などの掘立柱建物跡や土坑墓、南仙北遺跡では道路跡などの近世の遺構が発見されており、この姿は盛南開発が行われる直前の本地域の様子と大きく違いが無いものと考えられる。



第2図 地形分類と周辺の遺跡分布

Ⅱ 調査内容

1. これまでの調査

発見の経緯 台太郎遺跡は、昭和 60 年度の仙北西地区土地区画整理事業時の工事現場にて、平安時代の竪穴建物跡が発見され周知された遺跡である。平成 5 年度からは、盛南開発に伴う発掘調査が主体を占め、以後平成 26 年度末で 81 次にわたって調査されている。

これまでの県埋文センター・市教委の発掘調査により、7～10 世紀の古代集落、中世の居館を中心とした集落跡や墓域、近世の村落跡などが確認されている。

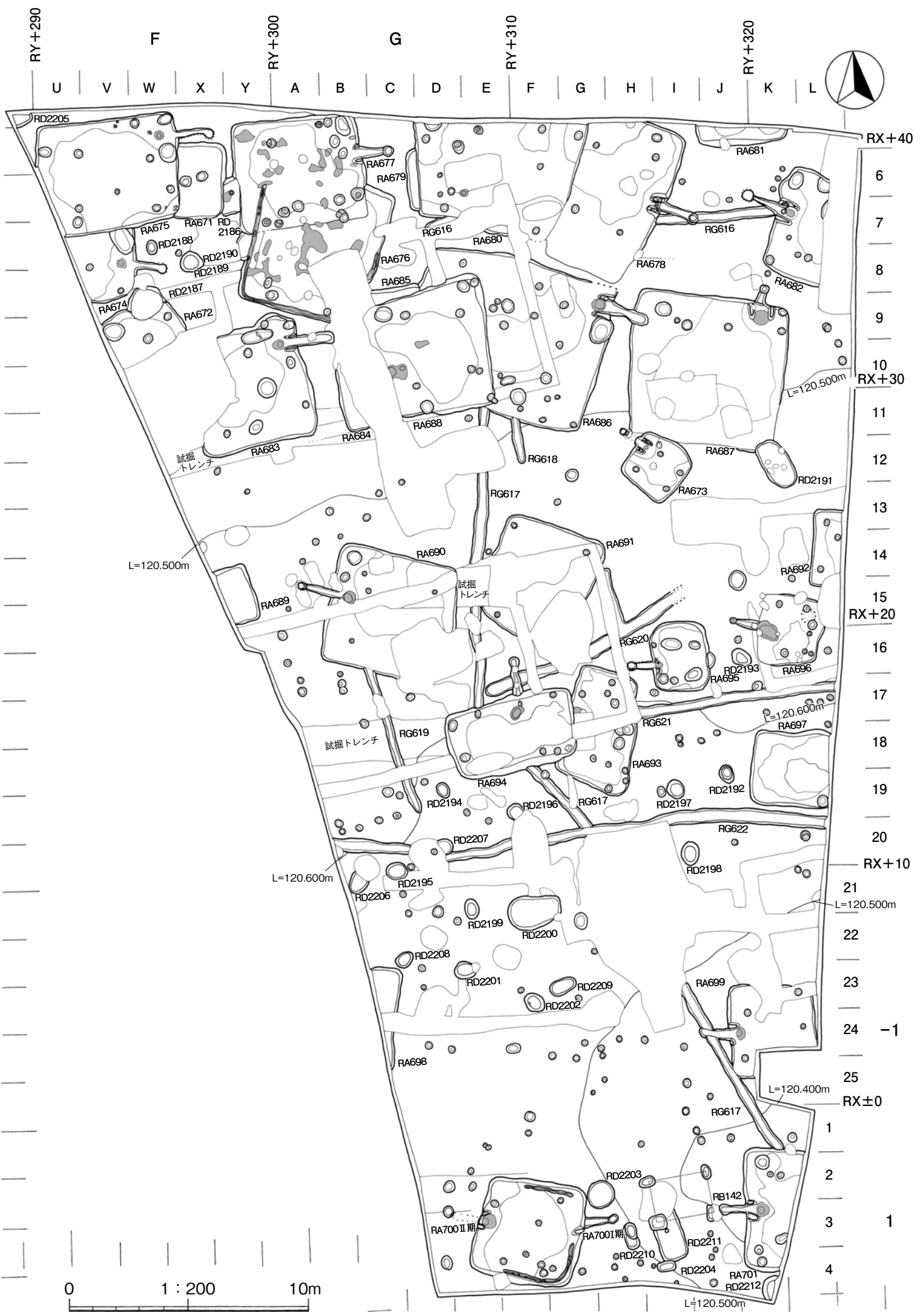
古 代 古代（奈良・平安時代）の竪穴建物跡は平成 26 年度末で 700 棟以上を数え、そのほかに掘立柱建物跡（2×2 間総柱）や大溝跡などが確認されており、当時の「志波（斯波）」地域最大の集落といえる。遺構の分布をみると、7 世紀末～8 世紀の竪穴建物跡は、いくつかの群をつくりながら南西部を除く遺跡全域に分布し、重複はみられない。それに対し、9～10 世紀の竪穴建物跡は、遺跡の西部と中央～北部の段丘縁辺部に分布が集中し、多くの重複がみられる。個別の竪穴建物跡の特徴をみると、7 世紀末～8 世紀は北西カマドが圧倒的で北東～南カマドもわずかにあるが、カマドの造り替えは少ない。9～10 世紀は北西～北カマド、南東カマドなどさまざまで、大型竪穴建物跡にカマドの造り替えが多い。

中 世 中世（鎌倉～戦国時代）になると、12 世紀後半の渥美窯産の灰釉小型壺が遺跡北東より単独出土している。遺跡の立地状況と遺物の年代から推測すると、経筒外容器として経塚に納められていたものと考えられる。ほぼ同時期に、遺跡南東部では堀跡によって、方形に南北 2 つに区画して、その内側には掘立柱建物跡が並立する。堀跡からは奥州藤原氏と同時期の手捏ねのかわらけや渥美窯産の陶器が出土し、後述する居館に先行する施設と考えられる。13 世紀後半には、遺跡中央部に不整長方形プランの在地領主の居館が営まれ、周辺域にはこれに関連する区画溝や道路跡、掘立柱建物跡、竪穴跡等が分布している。また、遺跡南部には中世の土坑墓群、掘立柱建物跡、竪穴跡、さらに現在の「諏訪神社」の周囲を囲むような堀跡や、社殿または仏堂らしい掘立柱建物跡も確認されている。これらは出土した陶磁器の年代から 15 世紀頃まで存続したと考えられる。居館北東側には幅 6 m 内外で並行する道路側溝状の溝跡があり、この溝の東側には並行して区画整理工事前の道路も存在していた。この道は、遺跡北東部の段丘崖や居館の堀、周辺の区画溝とも並行しており、居館や周辺村落と並存していた道路跡と考えられる。また、本遺跡の南方には、向中野館遺跡（北館、南館）が存在しているが、館跡を構成する曲輪が方形を基調としたプランであることや、北館付近では堀や土橋、小さな曲輪などの複雑な配置であることから、およそ 16 世紀を中心とした年代が考えられる。

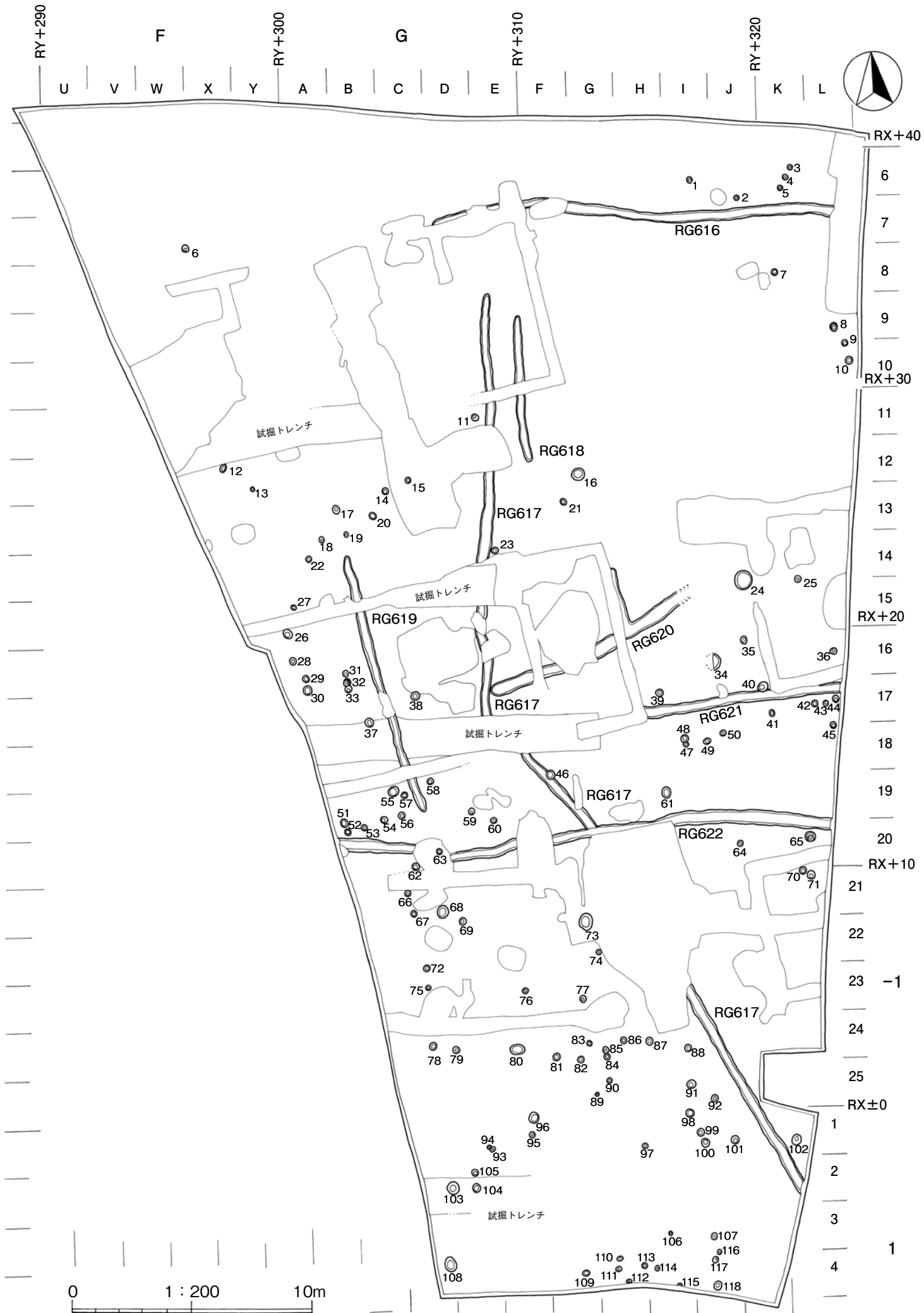
近 世 近世（江戸時代）には雫石川は現在の流れとなり、旧河道の東側には奥州道中（街道）が通じ、城下の玄関口にあたる仙北組丁が開かれる。これにより向中野はこの町の郊外となった。この時代の遺構としては、掘立柱建物跡の曲屋跡や直屋跡などが遺跡内に点在するようになる。水田地帯の中に農家が点在する近世の「向中野村」の一部と考えられる。



第3図 台太郎遺跡全体図



第4図 台太郎遺跡第80次調査全体図



第5図 台太郎遺跡第80次調査全体図（溝跡,ピット）

次数	所在地	調査原因	面積 (㎡)	期間	検出遺構・遺物	調査主体
1	向中野字台太郎7-1	土地区画整理	734	1985.5.24-6.25	平安堅穴建物跡3, 土坑1, 溝跡1	市教委
2	向中野字台太郎7-1	土地区画整理	515	1985.7.1-7.31	平安堅穴建物跡6, 堅穴跡1ほか	市教委
3	向中野字台太郎18-1	倉庫建設	125	1985.11.13-11.30	奈良堅穴建物跡1, 平安溝1	市教委
4	向中野字台太郎18-3	共同住宅等	1,130	1986.6.2-7.29	堅穴建物跡(奈良7, 平安5)ほか	市教委
5	向中野字台太郎11-7, 71-7	個人住宅建築	50	1989.5.10-5.11	平安堅穴建物跡1	市教委
6	向中野字台太郎7-1 外	個人住宅建築	302	1990.5.7-5.26	平安堅穴建物跡7, 土坑12ほか	市教委
7	向中野字向中野36-3	個人住宅建築	138	1991.4.25-5.8	奈良堅穴建物跡1, 溝2	市教委
8	向中野字台太郎12-2 外	事務所建設	830	1991.6.17-6.27	堅穴建物跡(奈良3, 平安2, 古代3)ほか	市教委
9試掘	向中野字向中野40	小屋建築	50	1993.5.11	遺構・遺物なし	市教委
10試掘	向中野字向中野地内	盛南開発	1,200	1995.4.4-4.6	奈良堅穴建物跡8, 土坑7, 溝跡12ほか	市教委
11試掘	向中野字台太郎9-3 外	倉庫建設	320	1995.6.19-6.27	遺構・遺物なし	市教委
12試掘	向中野字八日市場地内	盛南開発	5,174	1995.9.1-11.30	古代堅穴建物跡53, 土坑34, 溝跡58ほか	市教委
13試掘	向中野字向中野1-45 外	盛南開発	4,064	1996.10.14-10.25	平安堅穴建物跡11, 土坑21, 溝跡38ほか	市教委
14	向中野字台太郎18-1	下水管理設	25	1996.11.25-11.29	平安堅穴建物跡1, 平安溝跡1	市教委
15	向中野字八日市場33-2 外	盛南開発	12,906	1997.4.4-11.26	堅穴建物跡(奈良10, 平安52), 土坑43ほか	県埋文
16	向中野字向中野36-1 外	盛南開発	790	1997.8.1-8.29	奈良堅穴建物跡2, 溝跡2, 堀跡1ほか	県埋文
17試掘	向中野字向中野地内	下水管理設	10	1997.8.23	遺構・遺物なし	市教委
18	向中野字向中野26-6 外	盛南開発	26,404	1998.4.15-11.20	堅穴建物跡(古墳~奈良42, 平安65)ほか	県埋文
19	向中野字向中野16-6 外	盛南開発	4,755	1998.7.2-8.31	奈良・平安堅穴建物跡20, 堅穴跡5ほか	県埋文
20	向中野字向中野地内	盛南開発	1,400	1998.9.17-12.21	古代掘立柱建物跡4, 柱列跡1, 土坑12ほか	市教委
21試掘	向中野字台太郎18-7	車庫建築	28	1998.9.25	遺構・遺物なし	市教委
22	向中野字向中野39-1 外	警察宿舍建設	2,500	1999.9.1-11.2	縄文土坑1, 奈良堅穴建物跡1ほか	県埋文
23	向中野字向中野16-15	盛南開発	27,800	1999.4.16-11.15	堅穴建物跡(古墳~奈良35, 平安27)ほか	県埋文
24	向中野字向中野地内	盛南開発	3,425	1999.5.6-7.16	堅穴建物跡(奈良・平安20)ほか	市教委
25	向中野字八日市場地内	盛南開発	3,674	1999.7.7-12.15	堅穴建物跡(奈良・平安73)ほか	市教委
26	向中野字向中野16-15 外	盛南開発	13,662	2000.4.19-10.30	堅穴建物跡(古墳~奈良34, 平安34)ほか	県埋文
27	向中野字八日市場地内	盛南開発	2,513	2000.6.12-11.14	奈良・平安堅穴建物跡21, 土坑23ほか	市教委
28	向中野字八日市場地内	盛南開発	460	2000.6.29-9.8	平安堅穴建物跡9, 掘立柱建物跡2ほか	市教委
29	向中野字向中野20-2	盛南開発	125	2000.7.19-8.25	奈良堅穴建物跡1, 近世土坑3ほか	市教委
30	向中野字八日市場43-1	盛南開発	35	2000.7.25-7.31	平安堅穴跡1, ビット	市教委
31	向中野字八日市場45-2	盛南開発	128	2000.8.1-8.8	奈良・平安堅穴建物跡2, 溝跡2	市教委
32	向中野字八日市場42 外	盛南開発	1,030	2000.9.18-10.20	奈良・平安堅穴建物跡6, 土坑7ほか	市教委
33	向中野字八日市場50	盛南開発	695	2000.9.22-10.13	古代堅穴建物跡3, 溝跡3	市教委
34試掘	向中野2丁目4-1 外	共同住宅建設	156	2000.11.20-11.22	古代堅穴建物跡3, 溝跡1	市教委
35	向中野字向中野37-3 外	盛南開発	4,394	2001.4.17-8.2	堅穴建物跡(奈良5, 平安10), 土坑4ほか	県埋文
36	向中野字向中野37-3 外	盛南開発	290	2001.5.22-6.5	ビット4	県埋文
37	向中野字向中野20-1 外	盛南開発	872	2001.5.28-6.22	奈良堅穴建物跡1, 土坑5, 溝跡2	市教委
38	向中野字向中野15-1, 3-4	盛南開発	309	2001.6.1-6.15	遺構・遺物なし	市教委
39	向中野字向中野20-1 外	盛南開発	1,302	2001.8.1-11.2	奈良・平安堅穴建物跡12, 土坑10ほか	市教委
40	向中野字八日市場41-2	個人住宅建築	300	2001.8.1-9.19	平安堅穴建物跡3, 土坑4, 堅穴跡1ほか	市教委
41	向中野字八日市場45-9	個人住宅建築	220	2001.8.2-9.19	堅穴建物跡(奈良4, 平安2), 土坑3ほか	市教委
42	向中野字八日市場28-4	盛南開発	123	2001.11.26-12.12	平安堅穴建物跡1, 土坑2, 溝跡3	市教委
43	向中野字向中野22 外	盛南開発	112	2001.11.26-12.12	遺構・遺物なし	市教委
44	向中野字八日市場41-1	盛南開発	2,907	2002.4.9-8.5	堅穴建物跡(古墳~奈良11, 平安9)ほか	県埋文
44補	向中野字向中野22 外	盛南開発	42	2002.4.22	遺構・遺物なし	市教委
45	向中野字八日市場30-2 外	盛南開発	1,618	2002.5.7-8.9	平安堅穴建物跡13, 堅穴跡4, 土坑36ほか	市教委
46	向中野字向中野35-2 外	盛南開発	334	2002.10.11-11.12	奈良堅穴建物跡2	市教委
47試掘	向中野2丁目1-7	共同住宅建設	184	2002.11.6	遺構・遺物なし	市教委
48試掘	向中野2丁目5-8・9	店舗建設	326	2002.11.21-11.22	古代堅穴建物跡12, 土坑3, 溝跡6ほか	市教委
49試掘	向中野一丁目17-2の一部	共同住宅建設	48	2002.12.24-12.25	遺構・遺物なし	市教委
50	向中野字向中野37-5 外	盛南開発	540	2003.6.2-11.10	古代土坑2, 溝跡2, ビット	県埋文
51	向中野字八日市場8-4 外	盛南開発	6,616	2003.4.11-11.10	堅穴建物跡(縄文4, 奈良~平安22)ほか	県埋文
52	向中野字八日市場7-1 外	国道建設	595	2003.8.1-9.3	平安堅穴跡1, 溝跡8	県埋文
53	向中野字向中野37-3 外	盛南開発	240	2004.5.6-6.2	古代溝跡5, 土坑1	県埋文
54	向中野字向中野19 外	盛南開発	5,052	2004.4.12-8.6	堅穴建物跡(古墳~奈良4, 平安9)ほか	県埋文
55	向中野字向中野35-26	個人住宅建築	203	2004.6.7-7.9	古墳~奈良堅穴建物跡1, 堅穴跡1ほか	市教委
56	向中野字向中野20-2 外	盛南開発	50	2005.6.20-6.21	平安土坑1	市教委
57	向中野字向中野9 外	盛南開発	1,047	2005.6.6-8.5	平安堅穴建物跡6, 掘立柱建物跡2ほか	市教委
58	向中野字向中野40-16 外	盛南開発	3,945	2006.8.7-11.24	堅穴建物跡(奈良10, 平安1)ほか	県埋文
59	向中野字向中野9 外	盛南開発	1,830	2007.7.5-9.26	奈良堅穴建物跡2, 掘立柱建物跡2ほか	市教委
60	向中野字向中野40-8 外	盛南開発	791	2007.8.1-9.6	土坑4, ビット	市教委
61	向中野字向中野17-4 外	盛南開発	610	2007.10.26-11.16	奈良堅穴建物跡1, 土坑4, ビット	市教委
62	向中野字向中野40-7 外	盛南開発	862	2008.6.18-7.9	土坑1, ビット	市教委
63	向中野字向中野17-1 外	盛南開発	1,698	2008.7.3-10.31	古代堅穴建物跡2, 堅穴跡1, 土坑4ほか	市教委
64	向中野字向中野21-2 外	盛南開発	621	2008.11.19-12.12	土坑1	市教委
65	向中野字向中野40-16 外	盛南開発	330	2009.4.17	遺構・遺物なし	市教委
66	向中野字向中野42-25 外	盛南開発	11,911	2009.6.1-11.27	古代堅穴建物跡5, 掘立柱建物跡72ほか	県埋文
67	向中野字八日市場23-1 外	盛南開発	856	2009.5.7-7.28	古代堅穴建物跡2, 土坑2, 溝跡1	市教委
68	向中野字八日市場30-1 外	盛南開発	1,234	2009.7.1-11.6	古代堅穴住居跡13, 堅穴跡3, 土坑10ほか	市教委
69	向中野字向中野18-4 外	盛南開発	76	2009.10.1	遺構・遺物なし	市教委
70	向中野字向中野13-1 外	盛南開発	1,914	2009.10.21-12.24	古代堅穴建物跡4, 堅穴跡4, 溝跡2	市教委
71試掘	向中野一丁目10・15 外	店舗建設等	1,341	2010.8.9-8.12・18	古代堅穴建物跡32, 土坑7, 溝跡8ほか	市教委
72	向中野字向中野35-34 外	盛南開発	506	2010.10.21-12.17	奈良堅穴建物跡1, 堅穴跡2, 土坑5ほか	市教委
73試掘	向中野一丁目15, 16-12 外	宅地造成	587	2011.4.4-4.5	古代堅穴建物跡7, 溝跡2	市教委
73			4,360	2011.5.9-7.21	平安堅穴建物跡8, 堅穴跡7, 土坑21ほか	市教委
74	向中野字八日市場30-1 外	盛南開発	1,120	2011.5.30-7.15, 9.6-11.11	堅穴建物跡(奈良7, 平安3), 土坑16ほか	市教委
75試掘	向中野一丁目9-19	共同住宅建設	21	2012.11.22	遺構・遺物なし	市教委
76試掘	向中野2丁目6-2	宅地造成	177	2013.3.12-3.13	古代堅穴建物跡10, 溝跡1	市教委
77	向中野2丁目7-2	店舗建設	516	2013.5.1-6.4	平安堅穴建物跡2, 掘立柱建物跡1ほか	市教委
78	向中野2丁目3-11	個人住宅建築	55	2013.6.12-6.21, 7.4-7.24	平安堀跡1, 古代土坑1, 溝跡1	市教委
79	向中野2丁目3-3	個人住宅建築	67	2013.6.12-6.21, 7.4-7.24	奈良堅穴建物跡1, 土坑1ほか	市教委
80	向中野2丁目6-2	宅地造成	1,155	2013.7.22-12.2	堅穴建物跡(奈良4, 平安27), 土坑27ほか	市教委
81試掘	向中野2丁目3-8	賃貸住宅建築	63	2014.10.8	遺構・遺物なし	市教委

第1表 台太郎遺跡調査成果

2. 調査経過

試掘調査 平成24年11月、当市教育委員会において、当該地を含む向中野二丁目6番2（開発面積約1,628㎡）について土地所有者 佐藤重昭氏から宅地造成に関する事前協議が持たれた。この協議を受け、平成25年3月12・13日にかけて開発予定地内を試掘調査した結果（第76次調査）、予定地内から古代の遺構・遺物が多数検出されたことから工事着手前の緊急発掘調査が必要とされた。

発掘調査 当該地については、戸建住宅用地の宅地造成として、平成25年6月19日付けで発掘届が提出され、平成25年7月16日、土地所有者 佐藤重昭氏と当市教育委員会教育長との間で「埋蔵文化財に関する協定書」が締結された。遺跡の学び館が本調査を実施し、調査期間は平成25年7月22日～12月2日、調査面積は1,155㎡である。

成果公開 土地所有者 佐藤氏の協力を得て、平成25年9月26日には報道機関に公開し、10月23日には盛岡市立向中野小学校3年生22名が総合学習の一環で見学に訪れた。

3. 遺跡の基本層位と遺構検出状況

台太郎遺跡第80次調査区は、遺跡中央部から東に向かって緩やかに傾斜する遺跡東部に位置し、第8次調査区の北と第48次調査の西に隣接する。調査地は調査開始まで月極駐車場として使われ、盛土されている。調査区内は中央部がやや高く、北方向と南東方向に緩やかに傾斜する地形で、検出面の標高値は120.400～120.600m前後である。

基本層序 調査区内で確認された基本層序は以下のⅠ～Ⅳ層に大別される。Ⅰ層はa～d層に4細分され、Ⅰa～c層は碎石、礫及び土による盛土で、層厚は一定しないが約50～80cmである。Ⅰd層は畑または水田の耕作土、Ⅱ層は古代遺物を微量に含む暗褐色土の漸移層である。Ⅰd層及びⅡ層は調査区内では部分的に確認された。Ⅲ層はやや粘性がある褐色～黄褐色シルト層（地山）で、その上面が遺構検出面である。これより下部は低位段丘を構成する砂礫層（Ⅳ層）となり、確認された遺構の底面等で確認している。Ⅳ層の下部は本調査で確認していないが、周辺の調査事例からシルト層と砂礫層の互層となることが確認されている。

検出状況 過去の農地開発時に削平されており、耕作土のⅠd層及びⅡ層を除去したⅢ層上面で検出作業が行われた。検出された遺構は、奈良時代の竪穴建物跡4棟（RA671～673・679）、土坑2基（RD2186・2187）、平安時代の竪穴建物跡27棟（RA674～678・680～701）、掘立柱建物跡1棟（RB142）、土坑5基（RD2188～2192）、古代以降の土坑20基（RD2193～2212）、溝跡7条（RG616～622）、ピット118口である（第4・5図）。

出土遺物の時代・時期は、平安時代（9世紀中葉～10世紀初頭）にかけての須恵器、土師器、あかやき土器が主体で、奈良時代（8世紀後葉）の土師器も出土している。その他、古代の土製品、石製品、鉄製品、近世～近代にかけての陶磁器も出土している。遺物総数は収納コンテナ（54cm×34cm×15cm）26箱分である。

4. 検出された遺構と遺物

(1) 奈良時代の遺構・遺物

RA671 竪穴建物跡 (第6図)

位置	調査区北西 (F-1-X6区)	平面形	方形	主軸方向	—
規模	西—東 2.10m以上, 南—北 3.20m	重複関係	RA675 (新), RD2186 (古)		
掘込面	削平	検出面	Ⅲ層上面		
埋土	自然堆積でA～D層に大別され, B・D層はさらに2層に細分される。 A層—粒状のにぶい黄褐色シルトを少量含む, 黒色土と暗褐色土の混合土。粒状の焼土を少量含む。 B層—黒褐色土を主体とする層で, B ₁ 層は粒状の黄褐色シルトを少量含み, B ₂ 層は塊状の褐色シルトを多く含む。 C層—黒色土と黒褐色土の混合土で, 粒状のにぶい黄褐色シルトを多く含む。 D層—黄褐色シルトを主体とし, 粒～塊状の暗褐色土を含む。D ₂ 層は暗褐色土の割合が高い。				
壁の状態	検出面から床面までの深さは0.36～0.38mで, 外傾して立ち上がる。				
床の状態	ほぼ平坦で, 構築土 (L層) はにぶい黄褐色シルトと明黄褐色シルトの混合土を主体とし, 塊状の黒褐色土を含む。層厚は0.08～0.10mである。				
カマド	不明 (調査区外)				
柱穴	ピットを床面上に2口検出している。柱痕跡は確認されず, 埋土はE層が暗褐色土に黄褐色シルトを含み, F層は暗褐色土を少量含むカーボン層である。各ピットの規模・深さは, P1—径0.46～0.50m, 深さ0.20m, P2—径0.40～0.42m, 深さ0.18mである。				
出土遺物 (第40図1～2)	1はロクロ未使用の小型の土師器坏で, 内外黒色処理とヘラミガキが施され, 平底風丸底である。2は土師器甕で, 体部下半～底部にかけて欠損しており, 頸部と体部の境に段が確認される。内面に輪積痕, 外面に煤状炭化物が付着している。その他, 土師器球胴甕の破片が出土している。				
時期	8世紀後葉				

RA672 竪穴建物跡 (第6図)

位置	調査区北西 (F-1-W9区)	平面形	方形	主軸方向	—
規模	北西—南東 2.20m以上, 南西—北東 3.18m以上 (調査区外)				
重複関係	RD2187 (新)	掘込面	削平	検出面	Ⅲ層上面
埋土	自然堆積でA・B層に大別され, B層はさらに2層に細分される。 A層—黒褐色土と暗褐色土の混合土で, 少量のカーボン粒と粒状のにぶい黄褐色シルトを微量含む。 B層—暗褐色土を主体とする層で, B ₁ 層は小塊状の黄褐色シルトを多量含み, B ₂ 層は粒～小塊状の明黄褐色シルトを少量含む。				

- 壁の状態** 検出面から床面までの深さは0.14～0.20mで、外傾して立ち上がる。
- 床の状態** ほぼ平坦で、構築土(L層)はにぶい黄橙色シルトに粒～小塊状の黒褐色土を多く含む。層厚は0.06～0.12mである。
- カマド** 不明(調査区外)
- 貯蔵穴** 埋土はC・D層に大別され、C層はさらに2層に細分される。C層は黒褐色土に塊状の黄褐色シルトを含み、下層ほどシルトの割合が多い。D層は暗褐色土を主体ににぶい黄褐色シルト小塊状を含む。平面形は不整な楕円形で、規模は径0.76～0.90m、床面からの深さ0.28mである。
- 柱穴** ピットを床面上に2口検出している。明確な主柱穴は不明であるが、柱痕跡はP2で確認された。柱痕跡埋土は黒色土主体に小塊状の暗褐色土を少量含む。掘方埋土はにぶい黄褐色シルトを主体に黒褐色土粒を微量含む。各ピットの規模・深さは、P1—径0.30～0.38m、深さ0.12m、P2—径0.28～0.30m、深さ0.16mである。
- 出土遺物(第40図3～4)** 3・4は土師器甕である。3は頸部と体部の境にわずかに段が確認される。4は頸部と体部の境に段がなく、体部から口縁部に向かってやや外反する器形で、内外面に輪積痕がある。その他、土師器坏の破片が少量出土している。
- 時期** 8世紀後葉

RA673 竪穴建物跡(第7図)

- 位置** 調査区中央北(G-1-H12区) **平面形** 方形 **主軸方向** N50°W
- 規模** 北西—南東2.40m、南西—北東2.44m **重複関係** RA687(新)
- 掘込面** 削平 **検出面** III層上面
- 埋土** 自然堆積でA～D層に大別され、C層はさらに2層に細分される。
 A層—黒褐色土と暗褐色土の混合土で、少量のカーボン粒と粒状のにぶい黄褐色シルトを微量含む。
 B層—暗褐色土を主体とし、粒～小塊状の黄褐色シルトとカーボン塊を多く含む。
 C層—黒褐色土を主体とする層で、C₁層は粒状の黄褐色シルトを含み、C₂層は塊状の黄褐色シルトを多量含む。
 D層—黒色土を主体とし、粒状の暗褐色土、粒～小塊状のカーボン及び焼土粒を含む。
- 壁の状態** 検出面から床面までの深さは0.21～0.24mで、外傾して立ち上がる。
- 床の状態** ほぼ平坦で硬化面が広がる。構築土(L層)はにぶい黄橙色シルトを主体とし、粒～小塊状の黒褐色土を含む。層厚は0.06～0.18mである。
- カマド** カマドは北西壁北寄りに位置し、煙道は割り貫きのトンネル状で天井部が残存する。煙道平面形は不整な溝状で、火床面から煙出しに向かって緩やかに傾斜し、深くなっている。規模は北西壁から煙出しの先端までの長さ0.92m、幅0.22～0.24m、検出面からの深さ0.16～0.34mである。カマドはにぶい黄褐色シルトに粒状の黒褐色～暗褐色土と礫を含む混合土(K_{1,2}層)で構築し、規模は南残存部が長さ0.32m、幅0.22m、高さ0.18m、北残存部が長さ0.52m、幅0.20m、高さ0.10mである。火床面(J₉層)は径0.26～0.30mの不整楕円形で、熱浸透層は厚さ0.08mである。カマド崩壊土(J_{1～8}層)は8層に細

分され、粒～塊状の褐色～黄褐色シルトを含む暗褐色土である。J_{4.5}層以外は焼土とカーボンを含み、とくにJ_{7.8}層は多量の焼土粒～塊とカーボン粒を含む。

柱 穴 床面上に支柱穴P 1～4を検出している。柱痕跡はP 3・4で確認され、柱痕跡埋土は黒褐色土を主体に塊状の暗褐色土を多量含む。掘方埋土はにぶい黄褐色シルトを主体に粒～小塊状の黒褐色土を少量含み、堅く締まっている。各ピットの規模・深さは、P 1－径0.18m、深さ0.10m、P 2－径0.18～0.22m、深さ0.12m、P 3－径0.20～0.22m、深さ0.12m、P 4－径0.20m、深さ0.10mである。

出土遺物 (第 40 図 5～8) 5は内面に黒色処理が施される土師器の坏で、体部下半に緩い段が確認され、丸底である。6は竪穴建物内の最終堆積層(A層)から出土した手捏ねのかわらけで、周辺からの流入と考えられる。7は土師器小型甕で、口縁部と体部の境に段が確認される。体部の内外面に煤状の炭化物が付着する。8は土師器甕で、口縁部と体部の境に段が確認され、底面には木葉痕が残る。

時 期 8世紀中葉

RA 6 7 9 竪穴建物跡 (第 13 図)

位 置 調査区北 (G-1-C 6 区) **平 面 形** 方形 **主 軸 方 向** ー

規 模 北-南 2.57m、西-東 0.48m以上 **重 複 関 係** RA 680 (新)

掘 込 面 削平 **検 出 面** III層上面

埋 土 自然堆積でA～C層に大別され、A層はさらに2層に細分される。

A層－暗褐色土を主体とする層で、A₁層は粉～粒状の褐色シルトを含み、A₂層は粒～小塊状の黄褐色シルトを多量含む。

B層－暗褐色土粒を僅かに含む黒色土。

C層－黒褐色土を主体とする層で、粒～塊状の黄褐色シルトを多量含む。

壁の状態 検出面から床面までの深さは0.13mで、外傾して立ち上がる。

床の状態 ほぼ平坦で、構築土(L層)は黄褐色シルトを主体とし、塊状の暗褐色～黒褐色土を多く含む。層厚は0.06mである。

出土遺物 (第 41 図 1～5) 1～3は土師器の坏で、内面に黒色処理が施される。1は体部下半に段があり、底部は丸底で底面に「+」と墨書される。2は体部下半に緩い稜を持つ丸底である。3は平底でヘラミガキが全面に施される。4・5は土師器甕で、口縁部と体部の境に段を持ち、体部内面に輪積痕が確認される。4は体部外面に炭化物が付着する。

時 期 8世紀中葉

RD 2 1 8 6 土坑 (第 32 図)

位 置 調査区北西 (F-1-Y 6 区) **平 面 形** 不整円形か

規 模 長軸-上端 1.50m、下端 1.25m、残存部短軸-下端 0.73m

重 複 関 係 RA 671・677 (新) **掘 込 面** 削平 **検 出 面** III層上面

埋 土 自然堆積でA～C層に大別され、A層はさらに2層に細分される。

A層－黒褐色土を主体とする層で、A₁層は粉～粒状のにぶい黄褐色シルトを微量含み、

A₂層は微量のカーボン粒・焼土塊，粒～小塊状の黄褐色シルトを多く含む。

B層－黄褐色シルトを主体とし，粒状の黒色土を含む。

C層－黒色土を主体とし，粒状のにぶい黄褐色シルトを多量含む。

壁の状態 検出面から底面までの深さは0.17～0.22mで，外傾して立ち上がる。

底の状態 ほぼ平坦であるが，中央に土師器甕を倒立の状態に埋設し，その南西には熱浸透層が確認される。掘方埋土（L層）は褐色～黄褐色シルトと暗褐色土の混合土である。甕内部の埋土（D層）は微量のにぶい黄褐色シルト粒を含む黒褐色土と暗褐色土の混合土で，土師器甕の体・底部破片を含む。熱浸透層は厚さ0.08mで，にぶい赤褐色を呈す。

出土遺物（第54図1） 1は土坑底面に倒立の状態に設置されていた土師器甕でほぼ完形である。頸部と体部の境に段を持ち，体部外面には煤状炭化物，内面には輪積痕が確認される。その他，土坑底面から内面に黒色処理を施す土師器坏の破片が出土している。

時期 8世紀

RD2187土坑（第32図）

位置 調査区北西（F-1-W8区） **平面形** 不整楕円形

規模 長軸－上端1.72m，下端1.32m，短軸－上端1.53m，下端1.25m

重複関係 RA672（古） **掘込面** 削平 **検出面** III層上面

埋土 自然堆積でA～D層に大別され，B層はさらに2層に細分される。

A層－黒褐色土を主体とし，粉～粒状の黄褐色シルトとカーボン・焼土粒を微量含む。

B層－暗褐色土を主体とする層で，B₁層は少量の礫と粉～塊状のにぶい黄褐色シルトを多量含み，B₂層は小塊状の黄褐色シルトを含む。

C層－塊状の黒褐色土とカーボン・焼土粒を多く含む，にぶい黄褐色シルト。

D層－褐色シルトを主体とし，粒～塊状の暗褐色土とカーボン粒を少量含む。

壁の状態 検出面から底面までの深さは0.10～0.27mで，外傾して立ち上がる。

底の状態 中央がやや深くなる。

出土遺物（第54図2～4） 2・3は土師器甕である。2は口縁部～体部上半を欠損し，体部外面には煤状炭化物，内面は輪積痕が確認され，底面には木葉痕が残る。3は体部下半～底部を欠損し，頸部と体部の境に段を持つ。4は土製の紡錘車である。断面は台形で，中央部に穿孔が施される。その他，D層から内面黒色処理を施す土師器坏の破片が出土している。

時期 8世紀

（2） 平安時代の遺構・遺物

RA674 竪穴建物跡（第8図）

位置 調査区北西（F-1-V7区） **平面形** 方形か **主軸方向** E6°S

規模 東－西2.60m以上（調査区外），北－南2.90m以上 **重複関係** RA675（新）

掘込面 削平 **検出面** III層上面

埋土 自然堆積でA～C層に大別され，A層は3層，C層は2層に細分される。

A層－黒褐色土を主体とする層で、A_{1.3}層は粉～粒状の褐色シルトを微量、A₂層は塊状の黄褐色シルトを含む。A_{1.2}層はカーボン粒を少量含む。

B層－暗褐色土を主体とし、粒～小塊状のにぶい黄褐色シルトを多量、粒状のカーボンと焼土を少量含む。

C層－黄褐色土を主体とする層で、C₁層は粒状の黒褐色土を含み、C₂層は小塊状の黒褐色土を多量含む。

壁の状態 検出面から床面までの深さは0.16～0.30mで、外傾して立ち上がる。

床の状態 ほぼ平坦で硬化面が広がる。構築土（L層）は明黄褐色シルトを主体とし、粒～小塊状の黒褐色土を少量含む。層厚は0.06～0.28mである。

カマド カマドは東壁南寄りに位置し、基底部は残存せず、火床面のみ残る。煙道平面形は不整な溝状で、火床面から煙出しに向かって傾斜し深くなり、一部オーバーハングする。規模は東壁から煙出しの先端までの長さ1.36m、幅0.26～0.38m、検出面からの深さ0.20～0.44mである。火床面（J_{9.10}層）は径0.32～0.36mの不整楕円形で、熱浸透層は厚さ0.10mである。その中央部は周辺と比較して、強い被熱を受けて明赤褐色を呈し堅く焼き締まっている。カマド崩壊土（J_{1～8}層）は8層に細分され、粒～小塊状のカーボン及び焼土を多く混入し、粒～塊状の褐色～にぶい黄褐色シルトを含む黒褐色土である。

貯蔵穴 カマド北に構築される。埋土はD～G層に大別され、G層はさらに2層に細分される。D層は暗褐色土に塊状の黄褐色シルトを含む。E層は焼土を多量に含む暗赤褐色土で、ミニチュア土器が出土している。F層はカーボンを多量に含む、暗褐色土と明黄褐色シルトの混合土で土錘が出土している。G層は塊状の明黄褐色シルトを含む暗褐色土で、G₂層の方が明黄褐色シルトの割合が多い。平面形は不整な楕円形で、規模は径0.86～1.16m、床面からの深さ0.23mである。

柱 穴 床面上に支柱穴P1・2を検出している。柱痕跡はP1で確認され、柱痕跡埋土は黒褐色土を主体に塊状の暗褐色土を含む。掘方埋土はにぶい黄褐色シルトを主体に小塊状の黒褐色土を少量含む。各ピットの規模・深さは、P1－径0.22～0.24m、深さ0.18m、P2－径0.20m、深さ0.15mである。

出土遺物（第41図6～12） 6はあかやき土器の坏で、底部は回転糸切無調整である。7は内面に黒色処理が施される土師器坏で、底部は回転糸切無調整である。8は内外面に黒色処理とヘラミガキが施される土師器高台付坏で、底面に菊花文が確認される。9はあかやき土器の小型甕である。底部は回転糸切無調整で、内外面の全体に煤状炭化物が付着している。10・11はミニチュアの土製品で、それぞれ甕型、舟型である。12は土錘で、形状は杏仁型で穿孔される。その他、土師器甕の破片、少量の須恵器坏・甕・壺の破片が出土している。

時 期 9世紀後葉

RA675 竪穴建物跡（第9図）

位 置	調査区北西（F-1-V5区）	平 面 形	長方形	主軸方向	E5° N
規 模	東－西 6.00m、北－南 4.62m	重複関係	RA671（古）、RA674（古）		
掘込面	削平	検出面	Ⅲ層上面		

埋 土 A～E層に大別され、A・C・D層はさらに2層に細分される。A・B層は人為堆積、それ以外は自然堆積である。

A層－にぶい黄褐色シルト粒～塊状を含む、黒色土と黒褐色土の混合土。カーボン粒と焼土粒～塊状を多量に含む。A₂層の方がにぶい黄褐色シルトの割合が多い。

B層－暗褐色土を主体とし、粒状のにぶい黄褐色シルトを多量含む。カーボン粒～塊、焼土粒を含む。

C層－暗褐色土とにぶい黄褐色シルトの混合土で、塊状の黄褐色シルトを含む。C₂層は黄褐色シルトの割合が多い。カーボン粒、焼土粒を少量含む。

D層－暗褐色土を主体とし、粒～塊状の黄褐色シルトを含む。下層は黄褐色シルトの割合が少なく、焼土を少量含む。

E層－黄褐色シルトを主体とし、塊状の黒褐色土を多く含む。

壁の状態 検出面から床面までの深さは0.38～0.40mで、外傾して立ち上がる。

床の状態 ほぼ平坦で硬化面が広がる。構築土(L層)は2層に細分される。L₁層は明黄褐色シルトを主体とし、粒～塊状の暗褐色土を含む。L₂層は黒褐色土と塊状の黄褐色シルトの混合土である。いずれもカーボン粒、焼土粒を含む。層厚は0.10～0.24mである。

カ マ ド カマドは東壁北に位置し、基底部は残存せず、火床面のみ残る。煙道平面形は不整な溝状で、火床面から煙出しに向かって緩やかに傾斜し深くなる。煙出しはやや南に構築され、煙道と煙出しの南側はオーバーハングしている。規模は東壁から煙出しの先端までの長さ1.50m、幅0.22～0.44m、検出面からの深さ0.34～0.40mである。火床面(J_{8,9}層)は径0.34～0.36mの不整楕円形で、熱浸透層は厚さ0.08mである。その中央部は周辺と比較して、強い被熱を受けて橙色を呈し堅く焼き締まっている。カマド崩壊土(J_{1～7}層)は7層に細分され、粒～塊状の褐色～にぶい黄褐色シルトを含む暗褐色土である。J_{1,5}層以外は焼土とカーボンを含み、とくにJ_{5,7}層は多量の焼土・カーボン粒を含む。

貯 蔵 穴 カマド北及び南に2基構築される。貯蔵穴1は東壁北隅にあり、埋土(F層)は焼土とカーボンを含む黒褐色土を主体とする。にぶい黄褐色シルトの含有率で3層に細分される。平面形は不整な楕円形で、規模は径0.46～0.56m、床面からの深さ0.20mである。貯蔵穴2は東壁中央やや北寄りにあり、埋土はG・H層に大別され、各層はさらに2層に細分される。G層は粒～塊状の褐色～黄褐色シルトを含む黒褐色土で、G₁層の方が黄褐色シルトの含有率が高く、土師器破片を含む。H層は黄褐色シルトを主体とし、塊状の暗褐色土を含む。H₁層の方が暗褐色土の含有率が低く、カーボン粒を少量含む。平面形は不整な円形で、規模は径0.84m、床面からの深さ0.34mである。

柱 穴 床面上に9口検出し、主柱穴はP1～4である。P5は浅いが梁を支える支柱の可能性はある。柱痕跡はP1・2・4で確認され、P2は柱材が残存する(写真:第3・12図版)。柱痕跡埋土は黒褐色土を主体に塊状の褐色シルトを微量含む。掘方埋土は褐色～黄褐色シルトを主体に小塊状の暗褐色土を少量含む。各ピットの規模・深さは、P1－径0.28～0.32m、深さ0.20m、P2－径0.26～0.30m、深さ0.19m、P3－径0.28～0.30m、深さ0.16m、P4－径0.32～0.37m、深さ0.36m、P5－径0.20～0.24m、深さ0.14m、P6－径0.36～0.40m、深さ0.23m、P7－径0.40～0.54m、深さ0.20m、P8－径0.40～0.46

m, 深さ 0.18m, P 9 - 径 0.28~0.30m, 深さ 0.57m である。

出土遺物 (第 42 図 1~16) 1~7 はあかやき土器の坏で, 底部は回転糸切無調整である。8~12 は土師器の坏で, 内面は黒色処理が施される。8 は底部を回転糸切後, ヘラケズリを施し, 9~12 は回転糸切無調整である。10 は体部外面に墨書文字「木」が認められる。13・14 は内面に黒色処理が施される土師器高台付坏である。13 は底部~高台が残存し, リング状の高台部を底部に接着する。底面には菊花文の痕跡が認められる。14 は高台を欠損し, 内面の一部に剥離, 底面に菊花文が確認される。15 は須恵器壺で, 口縁部~頸部を欠損し, 底部に高台が付く。16 は溶岩質安山岩製の砥石である。磨面が 4 面あり, 短冊形である。図示していないが, B・C 層から刀子の切先と刃部の小破片, C 層からあかやき土器高台付坏の破片, L₂ 層から小塊状の鉄滓 2 点が出土している。須恵器坏の破片が若干出土する。

時 期 9 世紀後葉

RA676 竪穴建物跡 (第 10 図)

- 位 置** 調査区北 (G-1-A6 区) **平 面 形** 方形 **主軸方向** ー
- 規 模** 北西-南東 5.62m, 北東-南西 6.16m **重複関係** RA677 (古), RD2190 (古)
- 掘込面** 削平 **検出面** III層上面 **カマド** 不明
- 埋 土** A~C 層に大別され, A 層はさらに 3 層に細分される。
A 層-暗褐色土と黒褐色土の混合土で, にぶい黄褐色シルトを含む。A₁ 層は粉~粒状, A₂ 層は塊状のにぶい黄褐色シルトを多く含む。カーボン粒・焼土粒を少量含む。
B 層-炭化した建築部材 (組材・壁板材) など, 多量のカーボンを含む焼土層。焼失家屋の可能性ある。
C 層-暗褐色土を主体とし, 粒~小塊状の褐色シルトを含む。部分的に被熱を受け, 明赤褐色を呈する。カーボン粒, 焼土粒を少量含む。
- 壁の状態** 検出面から床面までの深さは 0.31~0.34m で, 外傾して立ち上がる。壁際には幅 0.06~0.16m, 深さ 0.10~0.19m の周溝がめぐる。埋土 (D 層) は黒褐色土を主体とし, 小塊状のにぶい黄褐色シルトを含む。底面には小規模なピットが確認され, 壁面部材の据え方の可能性ある。
- 床の状態** ほぼ平坦で硬化面が広がる。床構築土は確認されず, 掘り込んだ地山褐色~黄褐色シルト層 (III 層) を床面としている。また, 焼失時の被熱を受けて, 床面の一部が赤褐色~橙色を呈している (L 層)。
- 柱 穴** 床面上に 5 口検出し, 主柱穴は P 1~4 である。柱痕跡は P 2~4 で確認される。柱痕跡埋土は黒褐色土を主体とし, 粉~粒状のにぶい黄褐色シルトを少量含む。掘方埋土は褐色~黄褐色シルトを主体に粒~小塊状の暗褐色土を含む。各ピットの規模・深さは, P 1 - 径 0.38m, 深さ 0.10m, P 2 - 径 0.28~0.34m, 深さ 0.38m, P 3 - 径 0.40~0.47m, 深さ 0.15m, P 4 - 径 0.40~0.48m, 深さ 0.13m, P 5 - 径 0.28~0.45m, 深さ 0.12m である。
- 出土遺物 (第 43 図 1~8)** 1・2 はあかやき土器の坏である。2 は底部回転糸切無調整で, 外面にタール状の付着物が認められる。3~5 は土師器坏で, いずれも内面が黒色処理される。

3・4は底部回転糸切後、底面にヘラナデが施される。4は底面に刻書「+」が確認される。5は底面が回転ヘラケズリである。6は土師器甕で体部下半～底部を欠損している。7・8は須恵器長頸瓶で、体部下半～底部を欠損する。7は内外面に自然釉が確認され、8は内外面に煤状炭化物が付着する。図示していないが、床面近くのC層から須恵器坏・甕の破片が出土している。またC層から内面にタール状の付着物が観察されるあかやき土器坏の破片が出土し、2とともに灯明皿として使われた可能性がある。

時 期 9世紀後葉

RA677 竪穴建物跡 (第11図)

位 置	調査区北 (F-1-V5区)	平 面 形	方形	主軸方向	E4°N
規 模	東-西 5.50m, 北-南 4.54m	重複関係	RA676 (新), RD2190 (古)		
掘込面	削平	検出面	Ⅲ層上面		
埋 土	A～C層に大別され、A層は3層に、C層は2層に細分される。 A層-暗褐色土を主体とし、A ₁ 層は粒状の黄褐色シルトを少量、A ₂ 層は粒～塊状のにぶい黄橙色シルトを多量、A ₃ 層は粒状の褐色シルトを微量含む。カーボン粒、焼土粒を少量含む。 B層-炭化した建築部材 (組材・壁板材) など、多量のカーボンを含む焼土層。焼失家屋の可能性ある。 C層-暗褐色土を主体とし、粒～小塊状のにぶい黄褐色シルトを含む。C ₁ 層はにぶい黄褐色シルトの含有率が高い。少量のカーボン粒、微量の焼土粒を含む。				
壁の状態	検出面から床面までの深さは0.25～0.31mで、外傾して立ち上がる。				
床の状態	ほぼ平坦で硬化面が広がる。構築土 (M層) は2層に細分される。M ₁ 層はにぶい黄褐色シルトを主体とし、粒状の暗褐色土を少量含む。M ₂ 層は暗褐色土と黒褐色土の混合土で、塊状の黄褐色シルトを多く含む。層厚は0.04～0.30mである。また、焼失時の被熱を受けて、床面の一部がにぶい赤褐色を呈している (L層)。				
カ マ ド	カマドは東壁やや北寄りに位置する。煙道平面形は不整な溝状で、火床面から煙出しに向かって緩やかに傾斜し、深くなっている。規模は東壁から煙出しの先端までの長さ1.38m、幅0.28～0.42m、検出面からの深さ0.24～0.53mである。カマドは黄褐色シルトに小塊状の黒褐色～暗褐色土の混合土 (K _{1～3} 層) で構築し、規模は北残存部が長さ0.26m、幅0.23m、高さ0.19m、南残存部が長さ0.33m、幅0.26m、高さ0.22mである。火床面 (J _{13・14} 層) は径0.37～0.41mの不整円形で、熱浸透層は厚さ0.05mである。その中央部は周辺と比較して、強い被熱を受けて明赤褐色～橙色を呈し堅く焼き締まっている。カマド崩壊土 (J _{1～12} 層) は12層に細分され、粒～塊状の褐色～黄褐色シルトを含む黒褐色～暗褐色土である。J ₃ 層はカマド天井部が崩壊した層で、藁材のようなスサが混入している。崩壊土は煙出しから煙道、さらに火床面と床面の一部の範囲を覆っている。				
貯 蔵 穴	東壁際に2基構築される。貯蔵穴1は東壁北隅にあり、埋土はB・C層である。平面形は不整な楕円形で、規模は径0.53～0.86m、床面からの深さ0.27mである。貯蔵穴2は東壁中央やや南寄りにあり、埋土はC ₂ 層、にぶい黄褐色シルトを含む黒褐色土のD層に				

大別される。平面形は不整な円形で、底面に小ピット状の窪みがある。規模は径 0.54m、床面からの深さ 0.25mである。

柱 穴 床面上に 9 口検出し、主柱穴は P 1～4 である。柱痕跡は P 3・4 で確認され、柱痕跡埋土は黒褐色土を主体に小塊状の褐色シルトを少量含む。掘方埋土はにぶい黄褐色シルトを主体に小塊状の暗褐色土を含む。各ピットの規模・深さは、P 1－径 0.38～0.53m、深さ 0.20m、P 2－径 0.40～0.43m、深さ 0.15m、P 3－径 0.42～0.47m、深さ 0.37m、P 4－径 0.34～0.38m、深さ 0.55m、P 5－径 0.32～0.35m、深さ 0.16m、P 6－径 0.23～0.27m、深さ 0.17m、P 7－径 0.30～0.32m、深さ 0.20m、P 8－径 0.27～0.33m、深さ 0.14m、P 9－径 0.23～0.38m、深さ 0.14m である。

出土遺物 (第 44 図 1～9) 1～4 は土師器の坏で、内面に黒色処理とヘラミガキが施される。1 は胎土に雲母を含み、底面にヘラケズリが施される。2 は底部回転糸切無調整、3 は回転糸切後にヘラケズリを施し、胎土に少量の雲母を含む。4 は底部回転糸切後、底面をヘラナデで平滑に整えている。5・6 は土師器甕で、体部下半～底部が残存する。いずれも底面は砂底で、6 は体部下半が膨らみ、底部が張り出す器形である。7・8 は須恵器長頸瓶である。7 は外面に自然釉、内外面に焼成時の弾けが認められる。8 は口縁部を欠損し、外面に自然釉が付着する。9 は須恵器小型壺で、体部下半～底部を欠損する。その他、図示していないが、あかやき土器坏の破片、僅かであるが須恵器坏の破片が出土している。

時 期 9 世紀後葉

R A 6 7 8 竪穴建物跡 (第 12 図)

位 置	調査区北 (G-1-H 6 区)	平 面 形	長方形	主軸方向	E 26° S
規 模	南東－北西 4.00m 以上、南西－北東 6.78m	重複関係	R A 680 (新), R G 616 (新)		
掘 込 面	削平	検 出 面	Ⅲ層上面		
埋 土	自然堆積で A～C 層に大別され、A 層はさらに 2 層に細分される。 A 層－黒色土を主体とする層で、A ₁ 層は暗褐色土粒を少量含む、A ₂ 層は多量の暗褐色土粒～塊状を含む。 B 層－黒褐色土を主体とし、にぶい黄褐色～褐色シルトを小塊状に含む。多量のカーボン粒～塊、少量の焼土粒を含む。 C 層－粒～塊状の黒褐色～暗褐色土を多く含む、にぶい黄褐色シルト。				
壁の状態	検出面から床面までの深さは 0.18～0.20m で、外傾して立ち上がる。				
床の状態	ほぼ平坦で中央～北に硬化面が広がる。構築土 (L 層) は粒～塊状の褐色～黄褐色シルトを含む、黒褐色土と暗褐色土の混合土である。層厚は 0.13～0.20m である。				
カ マ ド	カマドは南東壁中央に位置する。煙道平面形は不整な溝状で、火床面から煙出しに向かって緩やかに傾斜し、深くなっている。規模は南東壁から煙出しの先端までの長さ 1.60m、幅 0.30～0.48m、検出面からの深さ 0.18～0.28m である。カマドはにぶい黄褐色シルトに粒～小塊状の黒褐色土を含む混合土 (K _{1,2} 層) で構築し、構築材として礫と土師器甕を使用している。規模は北残存部が長さ 0.68m、幅 0.36m、高さ 0.19m、南残存部が長さ 0.55m、幅 0.30m、高さ 0.20m である。火床面 (J ₁₁ 層) は径 0.16～0.30m の不整				

楕円形で、熱浸透層は厚さ 0.06m である。カマド支脚は火床面中央に円礫を据え、その北に土師器小型甕と甕底部を伏せて用いている。カマド崩壊土 (J_{1~10}層) は 10 層に細分され、粒～塊状の褐色～にぶい黄褐色シルトを含む暗褐色土である。J₉層はカマド天井部が崩壊した層である。J_{1~8}層のいずれも焼土とカーボンを含み、とくに J_{2,3}層は土師器甕破片を含む。なお、この崩壊土は煙出しから煙道、さらに火床面と床面の一部の範囲を覆っている。

柱 穴 ピットを床面上に 5 口検出しており、主柱穴は P 1～4 である。柱痕跡は P 4 で確認され、柱痕跡埋土は黒色土を主体に粉～粒状の黄褐色シルトを少量含む。掘方埋土は黄褐色シルトを主体に塊状の黒褐色土を多く含む、堅く締まっている。各ピットの規模・深さは、P 1－径 0.26m、深さ 0.17m、P 2－径 0.20～0.22m、深さ 0.08m、P 3－径 0.31m、深さ 0.10m、P 4－径 0.24m、深さ 0.12m、P 5－径 0.35～0.45m、深さ 0.19m である。

出土遺物 (第 45 図 1～5) 1 は土師器小型甕、2 は土師器甕の底部で、カマドの支脚に転用されたものである。ともに底面は砂底である。3～5 は底部が張り出す土師器甕である。3 は外面の体部上半に煤状炭化物が付着し、体部内面には輪積痕が認められ、底面は砂底である。4 は内外面に炭化物が付着し、底面には木葉痕が残る。5 はカマド基底部の構築材として転用され、底面は砂底である。図示していないが、内外黒色処理の土師器坏破片、あかやき土器坏・甕破片、僅かに須恵器坏、刀子刃部の破片が出土している。

時 期 9 世紀後葉

RA680 竪穴建物跡 (第 14 図)

位 置	調査区北 (G-1-E 6 区)	平 面 形	不整形	主軸方向	—
規 模	北-南 4.75m 以上、東-西 7.16m	掘 込 面	削平	検 出 面	Ⅲ層上面
重複関係	RA679・678 (古)、RG616 (新)	カ マ ド	不明		
埋 土	A～D 層に大別され、B 層はさらに 2 層に細分される。 A 層－黒色土を主体とし、粒～小塊状の明黄褐色シルトとカーボン粒を少量含む。 B 層－暗褐色土と黒褐色土の混合土で、B ₁ 層は粒状の褐色シルトを多量に含む、B ₂ 層は塊状の黄褐色シルトとカーボン粒を少量含む。 C 層－黒色土を主体とし、粒～塊状の褐色シルトを含む。 D 層－塊状のにぶい黄褐色シルトを多く含む、暗褐色土。				
壁の状態	検出面から床面までの深さは 0.31～0.34m で、外傾して立ち上がる。				
床の状態	ほぼ平坦で硬化面が広がる。構築土 (L 層) は黄褐色シルトを主体とし、塊状の黒色～黒褐色土を含む。層厚は 0.11～0.13m である。床面の南西で、長軸 0.35m、短軸 0.28m、厚さ 0.08m の不整な楕円形を呈する熱浸透層 (J 層) を確認した。中央部は周辺と比較して、強い被熱を受けて橙色を呈し、その直上から土師器坏や被熱した礫が出土している。				
柱 穴	ピットを床面上に 12 口検出し、明確な主柱穴は不明である。柱痕跡は P 5・11・12 で確認される。P 1 の埋土 (E 層) から多量の焼土粒～小塊とともに被熱した獣骨の破片が多量に出土している。各ピットの規模・深さは、P 1－径 0.70m (調査区外)、深さ 0.05m、P 2－径 0.34m、深さ 0.18m、P 3－径 0.20m、深さ 0.12m、P 4－径 0.18～0.20				

m, 深さ 0.09m, P 5 - 径 0.31m, 深さ 0.23m, P 6 - 径 0.28~0.30m, 深さ 0.10m, P 7 - 径 0.26m, 深さ 0.09m, P 8 - 径 0.24m, 深さ 0.10m, P 9 - 径 0.30~0.36m, 深さ 0.11m, P 10 - 径 0.25~0.27m, 深さ 0.13m, P 11 - 径 0.32~0.37m, 深さ 0.39m, P 12 - 径 0.44~0.49m, 深さ 0.44m である。

出土遺物 (第 46 図 1~4) 1 はあかやき土器坏で, 底部は回転糸切無調整, 外面に煤状炭化物が付着する。2 は内面に黒色処理とヘラミガキが施される土師器坏で, 底部は回転糸切後にヘラナデを施す。3 は土師器甕で, 体部半ばで最大径を持ち, 底部が張り出す器形である。底面にはヘラケズリが施されるが, 木葉痕の一部が残存する。4 は須恵器大甕で体部~底部を欠損する。体部の内外面に平行タタキを施す。その他, あかやき土器甕の破片, 須恵器坏・壺の各破片が少量出土している。

時 期 9 世紀後葉

RA 6 8 1 竪穴建物跡 (第 13 図)

位 置	調査区北東 (G-1-J・K 5 区)	平 面 形	方形	主軸方向	-
規 模	北-南 0.88m 以上 (調査区外), 西-東 3.84m	重複関係	なし		
掘込面	削平	検出面	Ⅲ層上面	カマド	不明
埋 土	A~E 層に大別され, B・C 層はさらに 2 層に細分される。 A 層-少量の暗褐色土粒を含む黒褐色土で, 粒状のカーボン・焼土を少量含む。 B 層-黒褐色土と暗褐色土の混合土で, 小塊状の褐色シルトを多く含む。B ₁ 層の方が褐色シルトの含有率が高い。 C 層-暗褐色土を主体とする層で, C ₁ 層は粒状の褐色シルトを多量に含み, C ₂ 層は粉~粒状のにぶい黄褐色シルトを少量含む。 D 層-黒褐色土を主体とし, 小塊状の暗褐色土を微量含む。焼土粒を少量含む。 E 層-にぶい黄褐色シルトを主体とし, 粒~小塊状の黒褐色土を少量含む。				
壁の状態	検出面から床面までの深さは 0.40~0.47m で, 外傾して立ち上がる。				
床の状態	ほぼ平坦で硬化面が広がる。構築土 (L 層) は粒~小塊状の黒褐色土を僅かに含む, 褐色シルトと黄褐色シルトの混合土である。層厚は 0.07~0.10m である。				
出土遺物 (第 46 図 5・6)	5・6 は土師器坏で内面に黒色処理とヘラミガキが施される。5 は底部を欠損し, 6 は底部回転糸切後にヘラケズリを施す。その他, 土師器甕の破片, 少量の須恵器坏・甕, あかやき土器坏の小破片が出土している。				
時 期	9 世紀中葉~後葉				

RA 6 8 2 竪穴建物跡 (第 15 図)

位 置	調査区北東 (G-1-K・L 6 区)	平 面 形	方形	主軸方向	W24° N
規 模	北西-北東 2.26m 以上, 南西-北東 4.62m	重複関係	R G 616 (新)		
掘込面	削平	検出面	Ⅲ層上面		
埋 土	自然堆積で A~C 層に大別され, B・C 層はさらに 2 層に細分される。 A 層-粉~粒状のにぶい黄褐色シルトを僅かに含む, 黒色土と黒褐色土の混合土。カー				

ボン粒を微量含む。

B層－黒褐色土を主体とし、粒状の暗褐色土を含む。カーボン・焼土を少量含む。B₁層の方が暗褐色土の含有率が高い。

C層－暗褐色土を主体とする層で、C₁層は塊状のにぶい黄褐色シルトを多量に含み、C₂層は黄褐色シルト粒を少量含む。

壁の状態 検出面から床面までの深さは0.16～0.22mで、外傾して立ち上がる。

床の状態 ほぼ平坦であるが、北に向かって緩やかに傾斜する。東に硬化面が広がる。構築土(L層)は黄褐色シルトを主体とし、粒～塊状の暗褐色土を含む。層厚は0.05mである。

カマド カマドは北西壁中央に位置する。煙道平面形は不整な溝状で、火床面から煙出しに向かって細くなり、緩やかに傾斜し深くなる。煙道の一部と煙出しはオーバーハングしている。規模は北西壁から煙出しの先端までの長さ1.68m、幅0.14～0.40m、検出面からの深さ0.17～0.45mである。カマドは褐色シルトと黒褐色土の混合土(K層)で構築し、構築材として礫とあかやき土器甕の破片を使用している。規模は南残存部が長さ0.78m、幅0.35m、高さ0.04～0.11m、北残存部が長さ0.90m、幅0.44m、高さ0.10～0.14mである。火床面(J₁₀層)は径0.50～0.58mの不整楕円形で、熱浸透層は厚さ0.08mである。カマド支脚は火床面西にあかやき土器甕を伏せて用いている。カマド崩壊土(J_{1～9}層)は9層に細分され、カーボンと焼土を含む暗褐色土である。J₇層はカマド天井部が崩壊した層で、粒～塊状の白色粘土を多量に含む。煙出し内のJ層には礫が多数含まれる。

貯蔵穴 北隅に構築される。埋土はD・E層に大別され、E層はさらに2層に細分される。D層は塊状の暗褐色土を多く含む褐色シルトである。多量のカーボン粒～塊を含む。E層は小塊状の黄褐色シルトを含む暗褐色土で、E₂層の方が黄褐色シルトの割合が多い。平面形は不整な楕円形で、規模は径0.51～0.68m、床面からの深さ0.18mである。

柱穴 ピットを床面上に6口検出しており、主柱穴はP1である。柱痕跡は確認できない。埋土はF・G層に大別される。F層は黒褐色土を主体に小塊状の暗褐色土を含む。G層は暗褐色土を主体ににぶい黄褐色シルトを少量含む。各ピットの規模・深さは、P1－径0.26～0.29m、深さ0.14m、P2－径0.34～0.37m、深さ0.33m、P3－径0.20～0.22m、深さ0.12m、P4－径0.18m、深さ0.10m、P5－径0.22～0.82m以上、深さ0.08m、P6－径0.48～0.63m、深さ0.08mである。

出土遺物(第46図7～14) 7～10は須恵器坏で、7・9・10は底部回転糸切無調整である。11は土師器坏で、口縁部と内面にヘラミガキが施され、内面は黒色処理である。底部は回転糸切無調整である。12・13はあかやき土器甕である。12は体部下半～底部を欠損し、カマドの支脚として転用されたものである。口縁部の内面に炭化物が付着する。13は口縁部～体部上半が残存し、カマド基底部の構築材として使用されている。14は土師器甕で、口縁部～体部上半が残存するが、全体的に摩滅している。図示していないが、あかやき土器坏、須恵器大甕・壺の破片も出土している。

時期 9世紀中葉

RA683 竪穴建物跡 (第16図)

位置	調査区北西 (F-1-Y10区)	平面形	方形	主軸方向	E 7° N
規模	北東-南西 4.88m, 北西-南東 4.95m	重複関係	なし		
掘込面	削平	検出面	Ⅲ層上面		
埋土	<p>自然堆積でA～E層に大別され、A・B・D層はさらに2層に細分される。</p> <p>A層-暗褐色土を主体とする層で、A₁層は粉～粒状の褐色シルトと粉状の灰白色火山灰を少量含み、A₂層は粒～小塊状の黄褐色シルトと微量の灰白色火山灰を含む。</p> <p>B層-黒褐色土と暗褐色土の混合土で、カーボン・焼土粒を少量含む。B₁層は粒状のにぶい黄褐色シルトを少量に含み、B₂層は粒～塊状の黄褐色シルトを多量含む。</p> <p>C層-暗褐色土を主体とし、塊状の黄褐色シルトを多量含む。カーボン粒を多量含む。</p> <p>D層-黒褐色土を主体とし、粒～小塊状の黄褐色シルトを含む。少量のカーボン粒～小塊、微量の焼土粒を含む。D₁層の方が黄褐色シルトの含有率が高い。</p> <p>E層-暗褐色土を主体とし、粒状のにぶい黄褐色シルトを多量含む。カーボン粒、焼土粒～塊を多量含む。</p>				
壁の状態	検出面から床面までの深さは0.29～0.34mで、外傾して立ち上がる。				
床の状態	ほぼ平坦で、中央に硬化面が広がる。構築土(L層)は塊状の暗褐色土を多量に含む、黄褐色シルトと灰黄褐色シルトの混合土である。層厚は0.18～0.24mである。				
カマド	<p>カマドは東壁北に位置する。煙道平面形は溝状で、火床面から煙道に向かって一旦高くなり、煙道から煙出しに向かって傾斜し深くなる。規模は北西壁から煙出しの先端までの長さ1.70m、幅0.37～0.50m、検出面からの深さ0.20～0.40mである。カマドは小塊状の暗褐色土を少量含む、にぶい褐色シルトと黄褐色シルトの混合土(K層)で構築し、北残存部では構築材として礫を使用している。規模は北残存部が長さ0.42m、幅0.17m、高さ0.10～0.17m、南残存部が長さ0.52m、幅0.22m、高さ0.08～0.13mである。火床面(J_{13・14}層)は径0.42～0.52mの不整楕円形で、熱浸透層は厚さ0.09mである。その中央部は周辺と比較して、強い被熱を受けて明赤褐色を呈し堅く焼き締まっている。カマド崩壊土(J_{1～12}層)は12層に細分され、暗褐色土を主体とし、黒褐色土、褐色シルト及び焼土が混合する。J₁層はカマド天井部が崩壊した層で、小塊状の白色～黄褐色粘土を多量に含む。J_{3・4・7～12}層はカーボン粒を多く含む。</p>				
貯蔵穴	カマドの北側の北東隅に構築される。埋土(F層)は塊状の黒褐色土を多く含むにぶい黄褐色シルトである。少量のカーボン粒、焼土小塊を含む。平面形は不整な楕円形で、規模は径0.31～0.44m、床面からの深さ0.18mである。				
柱穴	<p>ピットを床面上に8口検出しており、支柱穴はP1～3である。柱痕跡は確認できない。埋土はG・H層に大別される。G層は黒褐色土を主体に小塊状の褐色シルトを僅かに含む。H層は暗褐色土を主体のにぶい褐色シルトを少量含む。各ピットの規模・深さは、P1-径0.29～0.43m、深さ0.10m、P2-径0.27m、深さ0.20m、P3-径0.24～0.28m、深さ0.08m、P4-径0.52～1.34m、深さ0.22m、P5-径0.27～0.30m、深さ0.11m、P6-径0.35m、深さ0.12m、P7-径0.75～0.78m、深さ0.16m、P8-径0.47～0.63m、深さ0.15mである。</p>				

出土遺物 (第 47 図 1~9) 1・2 はあかやき土器の坏である。底部は回転糸切無調整で、2 は口縁部に歪みが生じている。3 はあかやき土器高台付坏である。4~7 は土師器坏である。4~6 は内面が黒色処理され、内面全体にヘラミガキを施す。4 は外面に墨書痕が認められ、底部回転糸切無調整である。5 は底面にヘラケズリを施し、外面に煤状炭化物が付着する。6 は底部回転糸切後、ヘラケズリによる再調整が認められる。7 は内外の器面に黒色処理とヘラミガキが施される。8 は底面に木葉痕が残る土師器甕で、頸部の短長化が認められ、口縁部が緩く外反する。9 は須恵器壺である。図示していないが、B 層からミニチュア土器の小破片、D₂ 層から椀型滓が出土している。

時 期 9 世紀後葉

RA684 竪穴建物跡 (第 15 図)

位 置 調査区中央北 (G-1-B10・11 区) **平 面 形** 方形 **主軸方向** —
規 模 北西-南東 3.00m 以上, 南西-北東 0.52m 以上 **重複関係** なし
掘込面 削平 **検出面** III 層上面
埋 土 自然堆積で A~C 層に大別され、A・B 層はさらに 2 層に細分される。
 A 層-暗褐色土と黒褐色土の混合土で、A₁ 層は粒状の黄褐色シルトと粉状の灰白色火山灰を微量含み、A₂ 層は粒~小塊状の黄褐色シルトと少量の灰白色火山灰を含む。
 B 層-暗褐色土を主体とする層で、B₁ 層は小塊状の褐色シルトを多量含み、B₂ 層は粒状の褐色~黄褐色シルトを含む。
 C 層-黒色土を主体とする層で、小塊状の黄褐色~明黄褐色シルトを多量含む。
壁の状態 検出面から床面までの深さは 0.37m で、外傾して立ち上がる。
床の状態 ほぼ平坦で、構築土 (L 層) はにぶい黄褐色~黄褐色シルトを主体とし、粒~塊状の黒褐色土を多く含む。層厚は 0.10m である。
出土遺物 図示していないが、あかやき土器坏・甕、土師器坏・甕の破片が出土している。
時 期 9 世紀後葉

RA685 竪穴建物跡 (第 15 図)

位 置 調査区中央北 (G-1-C8 区) **平 面 形** 方形か **主軸方向** —
規 模 北西-南東 0.63m 以上, 南西-北東 2.00m 以上 **重複関係** RA686・688 (新)
掘込面 削平 **検出面** III 層上面
埋 土 自然堆積で A~D 層に大別され、A 層はさらに 2 層に細分される。
 A 層-黒褐色土を主体とする層で、A₁ 層は粉~粒状の褐色シルトを微量含み、A₂ 層は粒~小塊状の黄褐色シルトを少量含む。
 B 層-小塊状のにぶい黄褐色シルトを多量に含む、暗褐色土と黒褐色土の混合土。焼土粒を少量含む。
 C 層-黒褐色土を主体とし、小塊状の暗褐色土を多量含む。カーボン粒を多く含む。
 D 層-暗褐色土主体に多量の褐色~にぶい黄褐色シルトを粒~塊状に含む。
壁の状態 検出面から床面までの深さは 0.21m で、外傾して立ち上がる。

床の状態 ほぼ平坦で、構築土（L層）はにぶい黄褐色シルトを主体とし、粒～小塊状の暗褐色土を含む。層厚は0.15～0.24mである。

出土遺物（第47図10） 10はあかやき土器の小型甕である。体部下半～底部が残存し、底部は回転糸切無調整である。その他、土師器甕の破片が少量出土している。

時期 9世紀

RA686 竪穴建物跡（第17・18図）

位置 調査区中央北（G-1-F9区） **平面形** 長方形 **主軸方向** E22° S

規模 南東-北西8.32m、南西-北東6.46m **掘込面** 削平

検出面 III層上面 **重複関係** RA685（古）、RA687・688（新）、RG618（新）

埋土 自然堆積でA～C層に大別され、A層はさらに2層に細分される。

A層-黒褐色土を主体とする層で、A₁層は粉～粒状のにぶい黄褐色シルトと焼土粒を微量含み、A₂層は粒～小塊状の黄褐色シルトを多量含む。

B層-粒状の明黄褐色シルトを含む、暗褐色土と黒褐色土の混合土。カーボン粒、焼土粒を少量含む。

C層-褐色シルトを主体とし、粒～塊状の黒褐色土を多く含む。

壁の状態 検出面から床面までの深さは0.16～0.20mで、外傾して立ち上がる。

床の状態 ほぼ平坦であるが、南に緩やかに傾斜する。中央とカマド付近に硬化面が広がる。構築土（L層）は塊状の黄褐色シルトと黒褐色土の混合土である。層厚は0.06～0.12mである。

カマド カマドは北東隅の東壁に位置する。煙道平面形は不整な溝状で、火床面から煙出しに向かって緩やかに傾斜し深くなる。規模は北西壁から煙出しの先端までの長さ1.20m、幅0.30～0.48m、検出面からの深さ0.16～0.26mである。カマドは褐色シルトに粒～小塊状の暗褐色土と礫の混合土（K_{1,2}層）で構築している。規模は北残存部が長さ0.69m、幅0.21m、高さ0.10m、南残存部が長さ0.80m、幅0.41m、高さ0.06～0.10mである。火床面（J_{10,11}層）は径0.55mの不整楕円形で、熱浸透層は厚さ0.14mである。その中央部は周辺と比較して、強い被熱を受けて明赤褐色～橙色を呈し堅く焼き締まっている。カマド崩壊土（J_{1~9}層）は9層に細分され、黒褐色～暗褐色土を主体とし、褐色～黄褐色シルト及び焼土が混合する。J₁層はカマド天井部が崩壊した層で、粒～小塊状の白色粘土を多量に含む。J_{6,9}層はカーボン粒～小塊を多く含む。

貯蔵穴 カマド南に隣接して構築される。埋土はD・E層に大別される。D層は粒状のにぶい黄褐色シルトを少量含む黒褐色土である。少量のカーボン・焼土粒を含む。E層は小塊状の褐色シルトを多く含む暗褐色土である。平面形は不整な楕円形で、規模は径0.86～1.06m、床面からの深さ0.15mである。

柱穴 ピットを床面上に20口検出しており、主柱穴はP1～4である。柱痕跡はP2・4・12で確認され、柱痕跡埋土（F層）は黒褐色土を主体に粉～粒状の褐色シルトを少量含む。掘方埋土（G層）は黄褐色シルトを主体に塊状の暗褐色～黒褐色土を多く含み、堅く締まっている。各ピットの規模・深さは、P1-径0.14～0.18m、深さ0.06m以上、P2-径0.46m、深さ0.35m、P3-径0.28～0.30m、深さ0.38m、P4-径0.14m、深さ

0.26m, P5—径0.14~0.18m, 深さ0.13m, P6—径0.22~0.26m, 深さ0.10m, P7—径0.28~0.32m, 深さ0.32m, P8—径0.20~0.22m, 深さ0.29m, P9—径0.28~0.30m, 深さ0.28m, P10—径0.19m, 深さ0.12m, P11—径0.28~0.70m, 深さ0.15m, P12—径0.20~0.22m, 深さ0.68m, P13—径0.64~0.70m, 深さ0.20m, P14—径0.18~0.23m, 深さ0.12m, P15—径0.22~0.26m, 深さ0.17m, P16—径0.24~0.26m, 深さ0.24m, P17—径0.20m, 深さ0.14m, P18—径0.23~0.26m, 深さ0.12m, P19—径0.23~0.28m, 深さ0.19m, P20—径0.26~0.30m, 深さ0.09mである。

出土遺物 (第48図1~7) 1~4は須恵器坏である。1~3の底部切り離しは回転糸切無調整, 4は回転糸切後にヘラナデによる再調整を施す。1・3は重ね焼きの痕跡が観察される。5・6は内面に黒色処理とヘラミガキが施される土師器坏で, 底部は回転糸切無調整である。5は底面に刻書「+」が観察される。7は土師器甕で, 焼成前に粘土を貼り付けて補修した痕跡が体部内面に確認される。その他, あかやき土器坏・甕, 砂底の土師器甕, 少量であるが須恵器大甕・壺, 刀子の破片が出土している。

時 期 9世紀後葉

RA687 竪穴建物跡 (第19図)

位 置 調査区北東 (G-1-I・J10区) **平 面 形** 方形 **主軸方向** N11° E
規 模 北東—南西 6.08m, 北西—南東 6.58m **掘 込 面** 削平
検 出 面 III層上面 **重複関係** RA673・686 (古), RD2191 (新)
埋 土 自然堆積でA~C層に大別され, A層はさらに2層に細分される。
A層—黒褐色土を主体とする層で, A₁層は微量の褐色シルト粉~粒状と焼土粒を少量含む, A₂層は粒~小塊状の褐色~黄褐色シルトを多量含む。
B層—黒色土を主体とし, 粒~塊状の暗褐色土を含む。
C層—粒~小塊状の黒褐色土を多く含む, にぶい黄褐色シルト。
壁の状態 検出面から床面までの深さは0.10~0.11mで, 緩やかに外傾して立ち上がる。
床の状態 ほぼ平坦であるが, 南東に緩やかに傾斜する。中央から北東に硬化面が広がる。構築土 (L層) は小塊状の黒褐色土を多く含む, 褐色シルトと黄褐色シルトの混合土である。層厚は0.10~0.17mである。
カ マ ド 北壁の北東隅に位置する。煙道平面形は不整な溝状で, 火床面から煙道に向かって傾斜し, 煙出しでは更に深くなる。規模は北壁から煙出しの先端までの長さ 0.84m, 幅 0.28~0.34m, 検出面からの深さ 0.12~0.25mである。カマドは褐色シルト, 粒~小塊状の黒褐色土及び塊状の灰白色~灰黄色粘土の混合土 (K₁層) で構築する。カマド西残存部は礫を構築材として使用し, 掘方埋土 (K₂層) はにぶい黄褐色シルトに少量の黒褐色土を含む。規模は西残存部が長さ 0.68m, 幅 0.30m, 高さ 0.04~0.07m, 東残存部が長さ 0.59m, 幅 0.25m, 高さ 0.05~0.09mである。火床面 (J₈層) は径 0.60~0.62mの不整形円で, 熱浸透層は厚さ 0.08mである。カマド崩壊土 (J_{1~7}層) は7層に細分され, 粒~塊状の褐色~黄褐色シルトと焼土粒を含む暗褐色土である。J₆層はカマド天井部が崩壊した層で, 粒~小塊状の白色粘土を含む。J_{2,7}層はカーボン粒, J₅層は礫を含む。

貯蔵穴 北西隅近くに構築される。埋土はD・E層に大別され、E層は2層に細分される。D層は黒褐色土と褐色土の混合土で、粒状のにぶい黄褐色シルトとカーボン・焼土粒を少量含む。E層は暗褐色土を主体とする層で、E₁層は多量の明黄褐色シルト塊とカーボン、焼土粒を微量含む、E₂層は粒状の褐色シルトを少量含む。平面形は不整な円形で、規模は径0.54~0.60m、床面からの深さ0.20mである。

柱穴 ピットを床面上に7口検出しており、主柱穴はP1~4である。柱痕跡はP3で確認され、柱痕跡埋土(G層)は黒褐色土を主体に粒状の暗褐色土を微量含む。掘方埋土(H層)はにぶい黄褐色シルトを主体に小塊状の暗褐色土を含み、堅く締まっている。各ピットの規模・深さは、P1-径0.22~0.24m、深さ0.12m、P2-径0.24~0.28m、深さ0.11m、P3-径0.24~0.30m、深さ0.22m、P4-径0.23m、深さ0.12m、P5-径0.40~0.42m、深さ0.24m、P6-径0.32~0.38m、深さ0.11m、P7-径0.28~0.31m、深さ0.10mである。

出土遺物(第49図1~8) 1は須恵器坏である。重ね焼き痕が観察され、底部の切り離しは回転糸切無調整である。2~5はあかやき土器坏で、底部回転糸切無調整である。3は内面に煤状炭化物が認められる。6はあかやき土器小型甕、7はあかやき土器甕である。いずれも口縁部~体部上半のみ残存する。8は土師器甕で、体部下半~底部を欠損する。図示していないが、内面黒色処理の土師器坏、須恵器大甕・壺の破片が出土している。

時期 9世紀後葉

RA688 竪穴建物跡(第20図)

位置	調査区中央北(G-1-D9・10区)	平面形	方形	主軸方向	-
規模	南西-北東4.92m、南東-北西5.38m	掘込面	削平		
検出面	III層上面	重複関係	RA685・686(古)、RG617(新)		
埋土	自然堆積でA~E層に大別され、A・B・D層はさらに2層に細分される。各層は灰白色火山灰を微~少量含む、なかでもA ₂ 層は含有率が高い。 A層-暗褐色土と黒褐色土の混合土で、粒~小塊状のにぶい黄褐色シルトを多く含む。 A ₁ 層の方がにぶい黄褐色シルトの含有率が高い。 B層-黒褐色土を主体とする層で、B ₁ 層は多量のにぶい黄褐色シルト粒~塊と焼土・カーボン粒を少量含む、B ₂ 層は粒状の褐色シルトと焼土粒を微量含む。 C層-小塊状の褐色~黄褐色シルトを多量含む、暗褐色土と黒褐色土の混合土。焼土粒を微量含む。 D層-暗褐色土を主体とする層で、D ₁ 層はにぶい黄褐色シルト粒~小塊と少量のカーボン粒を含み、D ₂ 層は粉~粒状の黄褐色シルトと焼土粒を多く含む。 E層-暗褐色土を主体とし、粒状の灰黄褐色シルトを多く含む。焼土粒を多量に含む。				
壁の状態	検出面から床面までの深さは0.28~0.30mで、外傾して立ち上がる。				
床の状態	ほぼ平坦で中央に硬化面が広がる。構築土(L層)は小塊状の黒褐色土を多く含む、褐色シルトと黄褐色シルトの混合土である。層厚は0.05~0.09mである。				
カマド	カマドは不明であるが、床面の西中央で確認した熱浸透層はカマド火床面の可能性があ				

る。熱浸透層（J_{1.2}層）は残存部長軸0.70m以上、短軸0.62mの不整楕円形で、熱浸透層は厚さ0.11mである。部分的に強い被熱を受けて橙色を呈し、堅く焼き締まっている。

柱 穴 ピットを床面上に9口検出しており、支柱穴はP1～4である。P5・6は東壁の両隅にあり、支柱の可能性がある。柱痕跡はP3・6で確認され、柱痕跡埋土（F層）は黒褐色土を主体に粒状の暗褐色土を微量含む。掘方埋土（G層）はにぶい黄褐色シルトを主体に粒～塊状の褐色シルトを含み、堅く締まっている。各ピットの規模・深さは、P1－径0.25～0.28m、深さ0.14m、P2－径0.35m、深さ0.19m、P3－径0.33m、深さ0.24m、P4－径0.30～0.34m、深さ0.20m、P5－径0.24～0.32m、深さ0.39m、P6－径0.32～0.34m、深さ0.20m、P7－径0.48～0.57m、深さ0.23m、P8－径0.44～0.55m、深さ0.14m、P9－径0.66～0.68m、深さ0.19mである。その他、床面の中央で、長軸0.62m、短軸0.22mの不整な楕円形を呈する熱浸透層（J'層）を検出した。熱浸透層の厚さは0.06mである。

出土遺物（第49図9～12） 9・10は内面に黒色処理とヘラミガキが施される土師器の坏である。9は底部を回転糸切後にヘラナデによる再調整を施す。内面に煤状炭化物の付着が観察される。11は土師器高台付坏で、内面に黒色処理とヘラミガキが施され、リング状の高台部を底部に接着する。底面には菊花文の痕跡が認められる。12は砂質凝灰岩製の砥石である。磨面は2面で、切創も観察される。その他、あかやき土器坏・高台付坏・甕、内外面黒色処理の土師器坏、土師器甕、須恵器大甕の破片が出土している。

時 期 9世紀後葉～10世紀初頭

RA689 竪穴建物跡（第21図）

位 置	調査区東（F-1-X14区）	平 面 形	方形	主軸方向	—
規 模	南西—北西1.26m以上（調査区外）、南東—北西2.44m	重複関係	なし		
掘 込 面	削平	検 出 面	Ⅲ層上面	カ マ ド	不明
埋 土	A・B層に大別され、A層はさらに2層に細分される。 A層—黒色土を主体とする層で、A ₁ 層は塊状の黄褐色シルトを多量に含み、A ₂ 層は粒～小塊状の褐色シルトと焼土粒を少量含む。 B層—にぶい黄褐色～黄褐色シルトを主体とし、小塊状の黒褐色土を微量含む。				
壁の状態	検出面から床面までの深さは0.23～0.27mで、外傾して立ち上がる。				
床の状態	ほぼ平坦で、構築土（L層）は小塊状の黒色土を少量含む、褐色シルトと黄褐色シルトの混合土である。層厚は0.10～0.13mである。				
出土遺物	図示していないが、あかやき土器坏、土師器坏・甕、須恵器大甕の破片が出土している。				
時 期	9世紀				

RA690 竪穴建物跡（第22図）

位 置	調査区中央（G-1-B・C15区）	平 面 形	方形	主軸方向	W16° N
規 模	北西—南東5.35m、南西—北東5.10m	重複関係	RG619（新）		
掘 込 面	削平	検 出 面	Ⅲ層上面		

埋 土 自然堆積でA～C層に大別され、A層はさらに2層に細分される。
 A層－黒褐色土を主体とする層で、A₁層は粒～小塊状の暗褐色土を含み、A₂層は多量
 のにぶい黄褐色シルト粒、カーボン小塊と焼土粒を少量含む。
 B層－小塊状の黄褐色シルトを少量含む、暗褐色土と黒褐色土との混合土。
 C層－褐色シルトを主体とし、粒～塊状の暗褐色土を多量、粒状のカーボンと焼土を少
 量含む。

壁の状態 検出面から床面までの深さは0.13～0.17mで、緩やかに外傾して立ち上がる。

床の状態 ほぼ平坦で中央から北に硬化面が広がる。構築土（L層）はにぶい黄褐色シルトを主体
 とし、粒～小塊状の黒褐色土を多く含む。層厚は0.04～0.07mである。

カ マ ド カマドは西壁中央に位置し、基底部は残存せず、火床面のみ残る。煙道平面形は不整な
 溝状で、火床面から煙出しに向かって緩やかに傾斜し、煙出しでは深くなる。規模は西壁
 から煙出しの先端までの長さ1.56m、幅0.20～0.29m、検出面からの深さ0.19～0.48m
 である。火床面（J_{9,10}層）は径0.47～0.58mの不整円形で、熱浸透層は厚さ0.10mであ
 る。その中央部は周辺と比較して、強い被熱を受けて明赤褐色～橙色を呈し堅く焼き締ま
 っている。カマド崩壊土（J_{1～8}層）は8層に細分され、粒～小塊状のカーボン及び焼土
 を多く混入し、粒～塊状の褐色～黄褐色シルトを含む暗褐色土である。J₄層は拳大の礫
 を多量に含む。

貯 蔵 穴 北西隅に構築される。埋土（D層）は黒褐色土を主体とし、小塊状のにぶい黄褐色シル
 トを含む。少量のカーボン・焼土粒、土師器、あかやき土器破片を含む。平面形は不整な
 円形で、規模は径0.53～0.57m、床面からの深さ0.06mである。

柱 穴 ピットを床面上に5口検出しており、支柱穴はP1～3である。柱痕跡は確認されず、
 埋土（E層）は黒褐色土を主体とし、粒状のにぶい黄褐色～褐色シルトを少量含む。各ピ
 ットの規模・深さは、P1－径0.18m、深さ0.23m、P2－径0.18m、深さ0.10m、P
 3－径0.16m、深さ0.30m、P4－径0.37m、深さ0.09m、P5－径0.16～0.20m、深
 さ0.05mである。

出土遺物（第50図1～5） 1～3はあかやき土器坏である。1・3の底部切り離しは回転糸切無調
 整である。また3は口縁部に歪みがある。4は土師器坏で、内面は黒色処理され、内面全
 体にヘラミガキを施す。5は土師器小型甕である。体部下半～底部を欠損し、内面には煤
 状の炭化物が観察される。その他、あかやき土器甕、内外黒色処理の土師器坏、砂底の土
 師器甕、僅かであるが須恵器坏の破片が出土している。

時 期 9世紀後葉

RA691 竪穴建物跡（第21図）

位 置	調査区中央（G-1-F14区）	平 面 形	方形	主軸方向	—
規 模	北東—南西 4.85m、北西—南東 4.37m	重 複 関 係	なし		
掘 込 面	削平	検 出 面	Ⅲ層上面	カ マ ド	不明
埋 土	自然堆積でA～C層に大別される。 A層－黒褐色土を主体とし、粒状のにぶい黄褐色シルトを僅かに含む。				

B層—暗褐色土と黒褐色土との混合土で、少量のカーボン粒と粒～小塊状の黄褐色シルトを多く含む。

C層—暗褐色土を主体とし、粒～小塊状のにぶい黄褐色～黄褐色シルトを多量に含む。

壁の状態 検出面から床面までの深さは0.13～0.19mで、緩やかに外傾して立ち上がる。

床の状態 ほぼ平坦であるが、北から南に向かって緩やかに傾斜する。構築土（L層）はにぶい黄褐色シルトと黄褐色シルトとの混合土で、小塊状の暗褐色土を含む。層厚は0.09～0.13mである。

柱 穴 床面上に支柱穴P1～3を検出している。柱痕跡は確認されず、埋土（D_{1.2}層）は黒褐色土を主体とし、粒状の褐色シルトを少量含む。下層は褐色シルトの割合が少ない。各ピットの規模・深さは、P1—径0.20～0.23m、深さ0.10m、P2—径0.20～0.23m、深さ0.09m、P3—径0.24m、深さ0.06mである。

出土遺物（第50図6） 6は小刀で切先～刃部のみ残存する。切先以外、刀身の刃と棟はほぼ直線で平行となる形状である。図示していないが、あかやき土器坏・甕、土師器坏・甕、フイゴ羽口及び釘の破片が出土している。 **時 期** 9世紀中葉～後葉

RA692 竪穴建物跡（第23図）

位 置 調査区東（G-1-L14区） **平 面 形** 方形 **主 軸 方 向** —

規 模 北—南3.20m、西—東1.23m以上（調査区外） **重 複 関 係** なし

掘 込 面 削平 **検 出 面** III層上面 **カ マ ド** 不明

埋 土 自然堆積でA～C層に大別され、A・B層はさらに2層に細分される。

A層—黒褐色土と暗褐色土との混合土で、A₁層は僅かな黄褐色シルト粒、多量のカーボン小塊、少量の焼土粒を含み、A₂層はにぶい黄褐色シルト小塊と微量の焼土粒を含む。

B層—暗褐色土を主体とし、粒～小塊状のにぶい黄褐色シルトを含む。B₁層の方がにぶい黄褐色シルトの含有率が高い。

C層—黒褐色土を主体とし、塊状のにぶい黄褐色～黄褐色シルトを多量含む。

壁の状態 検出面から床面までの深さは0.26mで、直立気味に立ち上がる。

床の状態 ほぼ平坦であるが、南から北に向かって緩やかに傾斜し、硬化面が確認される。構築土（L層）は黄褐色シルトを主体とし、塊状の黒褐色～暗褐色土を含む。層厚は0.05～0.15mである。

柱 穴 ピットを床面上に3口検出しており、支柱穴はP1・3である。柱痕跡は確認されず、埋土（D_{1.2}層）は黒褐色土を主体とし、D₁層は小塊状の暗褐色土を微量含む。D₂層はにぶい黄褐色シルト粒を少量含む。各ピットの規模・深さは、P1—径0.21m、深さ0.10m、P2—径0.23～0.25m、深さ0.20m、P3—径0.23～0.25m、深さ0.11mである。

出土遺物（第50図7～10） 7・8はあかやき土器の坏である。9は須恵器坏である。底部の切り離しは回転糸切無調整である。10は土師器甕で、内面が摩滅している。その他、あかやき土器甕、内面黒色処理の土師器坏、砂底の土師器甕の各破片が少量出土している。

時 期 9世紀後葉

RA693 竪穴建物跡（第23図）

位置	調査区中央（G-1-G17・18区）	平面形	長方形	主軸方向	—
規模	北西—南東 2.82m，南西—北東 4.75m	重複関係	RA694（新）		
掘込面	削平	検出面	Ⅲ層上面		
埋土	自然堆積でA～C層に大別される。 A層—黒褐色土と暗褐色土の混合土で，小塊状の褐色シルトを少量含む。少量のカーボン粒を含み，堅く締まっている。 B層—暗褐色土を主体とし，塊状のにぶい黄褐色シルトを多量含む。カーボン粒，焼土粒～小塊を含む。 C層—黄褐色シルトを主体とし，粒～小塊状の黒褐色土を多く含む。				
壁の状態	検出面から床面までの深さは0.07～0.11mで，外傾して立ち上がる。				
床の状態	中央がやや高いが，ほぼ平坦で硬化面が広がる。構築土（L層）はにぶい黄橙色シルトと黄褐色シルトの混合土で，小塊状の暗褐色土を少量含む。層厚は0.07～0.15mである。				
カマド	カマドは不明であるが，西壁中央の床面で確認した熱浸透層はカマド火床面の可能性がある。熱浸透層（J _{1.2} 層）は残存部長軸0.50m，残存部短軸0.22mの不整楕円形で，熱浸透層は厚さ0.08mである。西側は強い被熱を受けて明赤褐色を呈し，焼き締まっている。				
柱穴	ピットを床面上に12口検出しており，支柱穴はP1～3である。埋土はD・E層に大別される。D層は黒褐色土を主体に粒～小塊状の暗褐色土，褐色シルトを僅かに含む。E層は暗褐色土を主体とし，粒状の褐色シルトを少量含む。各ピットの規模・深さは，P1—径0.23m，深さ0.11m，P2—径0.30～0.33m，深さ0.10m，P3—径0.22～0.24m，深さ0.10m，P4—径0.21～0.27m，深さ0.09m，P5—径0.31～0.36m，深さ0.08m，P6—径0.19～0.21m，深さ0.05m，P7—径0.26m，深さ0.06m，P8—径0.43～0.52m，深さ0.10m，P9—径0.44～0.52m，深さ0.18m，P10—残存部径0.28～0.32m，深さ0.09m，P11—径0.22m，深さ0.15m，P12—径0.23～0.25m，深さ0.07mである。				
出土遺物（第50図11）	11はあかやき土器の坏で，底部を欠損している。図示していないが，あかやき土器坏，土師器坏・甕及び須恵器甕の破片が少量出土している。				
時期	9世紀中葉～後葉				

RA694 竪穴建物跡（第24図）

位置	調査区中央（G-1-E17・18区）	平面形	長方形	主軸方向	N7°W
規模	北西—南東 3.15m，南西—北東 5.42m				
重複関係	RA693（古），RG617・620（新）	掘込面	削平	検出面	Ⅲ層上面
埋土	A～E層に大別され，A層はさらに2層に細分される。 A層—黒褐色土と暗褐色土の混合土で，A ₁ 層は粉～粒状の黄褐色シルトを微量含み，A ₂ 層は粉状の黄褐色～明黄褐色シルトを少量含む。各層とも堅く締まるが，A ₁ 層はより堅い。 B層—暗褐色土を主体とし，塊状のにぶい黄褐色シルトを多量含む。径0.03～0.06mの				

礫を少量含む。

C層—粉～粒状の黄褐色シルトを僅かに含む、黒色土と暗褐色土の混合土。

D層—黒褐色土を主体とし、粒～小塊状のにぶい黄褐色～黄褐色シルトを多量含む。

E層—黒褐色土と暗褐色土の混合土で、粒～小塊状の褐色シルトを含む。

壁の状態 検出面から床面までの深さは0.21～0.44mで、外傾して立ち上がる。

床の状態 ほぼ平坦で硬化面が広がる。構築土（L層）は褐色シルトと黄褐色シルトの混合土で、粒～塊状の暗褐色土を多く含む。層厚は0.08～0.11mである。南東隅で礫が確認されたが、使用痕等はなく、自然石である。

カマド カマドは北壁やや東寄りに位置し、基底部は残存せず、支脚と火床面のみ残る。煙道平面形は不整な溝状で、火床面から煙道に向かって高くなり、煙出しに向かって一部深くなるがほぼ平坦である。規模は北壁から煙出しの先端までの長さ1.63m、幅0.28～0.40m、検出面からの深さ0.15～0.17mである。火床面（J_{6.7}層）は径0.36～0.68mの不整楕円形で、熱浸透層は厚さ0.06mである。その中央部は周辺と比較して、強い被熱を受けて明赤褐色を呈し堅く焼き締まっている。カマド支脚は火床面北端に長さ0.34mの礫を直立させ、下部を床面に埋めて用いている。支脚を据えるための掘方埋土（K層）は暗褐色土とにぶい黄褐色シルトの混合土である。カマド崩壊土（J₁₋₅層）は5層に細分され、粒～小塊状の褐色～にぶい黄褐色シルトを含む黒褐色土である。J_{1.4}層は粒～小塊状の焼土とカーボンを多量含む。

柱 穴 床面上に6口検出し、主柱穴はP1～3である。柱痕跡は確認されず、埋土はF層が黒褐色土を主体に少量の黄褐色シルト粒を含む。G層は暗褐色土と黒褐色土の混合土で、粒～小塊状のにぶい黄褐色シルトを微量含む。各ピットの規模・深さは、P1—径0.25～0.27m、深さ0.16m、P2—径0.24m、深さ0.08m、P3—径0.18～0.23m、深さ0.12m、P4—径0.33～0.46m、深さ0.09m、P5—径0.31m、深さ0.11m、P6—径0.20～0.23m、深さ0.10mである。

出土遺物（第50図12・13） 12はあかやき土器坏で、底部切り離しは回転糸切無調整である。13は土師器高台付坏の底部～高台部分である。内面は摩滅し、底面はナデ調整を施す。その他、あかやき土器甕、土師器坏・甕及び須恵器大甕・壺の破片が出土している。またA・E層からフイゴ羽口の破片、床面から安山岩製の砥石が出土している。

時 期 9世紀後葉

RA695 竪穴建物跡（第25図）

位 置	調査区中央（G-1-H・I16区）	平 面 形	方形	主軸方向	W0°
規 模	西—東2.42m、南—北2.95m	重複関係	グリッドピットP34（古）		
掘 込 面	削平	検 出 面	Ⅲ層上面		
埋 土	自然堆積でA～D層に大別され、A・D層はさらに2層に細分される。 A層—黒褐色土を主体とし、A ₁ 層は小塊状の暗褐色土を少量、A ₂ 層は粒状の黒褐色土を多量含む。 B層—暗褐色土とにぶい黄褐色～黄褐色シルトの混合土で、少量のカーボン粒、焼土粒				

～小塊を含む。

C層－黒褐色土を主体とし、小塊状のにぶい黄褐色シルトとカーボン粒を少量含む。

D層－暗褐色土と黒褐色土の混合土で、塊状の黄褐色シルトを含む。D₂層は黄褐色シルトの割合が多い。カーボン粒～小塊を少量含む。

壁の状態 検出面から床面までの深さは0.28～0.31mで、外傾して立ち上がる。

床の状態 ほぼ平坦で硬化面が広がる。構築土（L層）は明黄褐色シルトと褐色シルトの混合土を主体とし、粒～小塊状の暗褐色土を含む。層厚は0.13～0.23mである。

カマド カマドは西壁やや南寄りに位置する。煙道平面形は不整な溝状で、火床面から煙出しに向かって緩やかに傾斜し深くなり、一部オーバーハングする。規模は西壁から煙出しの先端までの長さ1.14m、幅0.22～0.38m、検出面からの深さ0.33～0.52mである。カマドは粒状の黒褐色土を多く含む、にぶい褐色シルトと黄褐色シルトの混合土（K層）で構築し、南残存部では構築材として礫を使用している。規模は南残存部が長さ0.20m、幅0.26m、高さ0.09m、北残存部が長さ0.12m、幅0.16m、高さ0.06mである。火床面（J₈層）は径0.26～0.30mの不整楕円形で、熱浸透層は厚さ0.04mである。カマド崩壊土（J_{1～7}層）は7層に細分され、粒～小塊状のカーボン及び焼土を多く混入し、粒～塊状の褐色～黄褐色シルトを含む黒褐色～暗褐色土である。J₁層はカマド天井部が崩壊した層で、J_{2・4・6}層は拳大の礫を多量に含む。

貯蔵穴 カマド南、南西隅に構築される。埋土（E層）は黒褐色土と褐色土の混合土で、粒～小塊状の明黄褐色シルトとカーボン・焼土粒を少量含む。平面形は不整な円形で、規模は径0.37～0.45m、床面からの深さ0.07mである。

柱 穴 床面上に5口検出し、主柱穴はP1～4である。柱痕跡は確認されず、埋土はF層が黒褐色土を主体に粉～粒状の黄褐色シルトを僅かに含む。G層は暗褐色土と黒褐色土の混合土で、塊状の褐色シルトを少量含む。各ピットの規模・深さは、P1－径0.26～0.28m、深さ0.15m、P2－径0.49～0.83m、深さ0.23m、P3－径0.34～0.47m、深さ0.16m、P4－径0.47～0.53m、深さ0.16m、P5－径0.20m、深さ0.12mである。

出土遺物（第51図1～5） 1・2は須恵器の坏である。2の底部切り離しは回転糸切無調整である。3はあかやき土器坏である。4・5は内面に黒色処理とヘラミガキが施される土師器坏で、5の底部切り離しは回転糸切無調整である。図示していないが、あかやき土器甕、土師器甕の破片、僅かに土師器高台付坏の小破片が出土している。

時 期 9世紀中葉

RA696 竪穴建物跡（第26図）

位 置 調査区東（G-1-K15・16区） **平 面 形** 方形 **主軸方向** W14° N

規 模 北西－南東2.65m、南西－北東3.00m **重複関係** なし

掘 込 面 削平 **検 出 面** III層上面

埋 土 自然堆積でA・B層に大別される。

A層－黒褐色土を主体とし、粒～小塊状のにぶい黄褐色シルトを少量含む。

B層－暗褐色土を主体とし、小塊状の黄褐色シルトを多量含む。

- 壁の状態** 検出面から床面までの深さは 0.03～0.05mで、外傾して立ち上がる。
- 床の状態** ほぼ平坦で南に硬化面が広がる。構築土（L層）は黄褐色シルトを主体とし、粒～小塊状の黒褐色土を含む。層厚は 0.10～0.19mである。
- カマド** カマドは西壁中央に位置し、基底部は残存せず、火床面のみ残る。煙道平面形は不整な溝状で、火床面から煙出しに向かって細くなり、煙出しでは深くなる。規模は西壁から煙出しの先端までの長さ 1.23m、幅 0.18～0.32m、検出面からの深さ 0.13～0.16mである。火床面（J_{7,8}層）は径 0.74～0.76mの不整楕円形で、熱浸透層は厚さ 0.08mである。その中央部は周辺と比較して、強い被熱を受けて橙色を呈し堅く焼き締まっている。カマド崩壊土（J_{1～6}層）は 6層に細分され、粒～小塊状のカーボン及び焼土を多く混入し、粒～塊状のにぶい黄褐色シルトを含む黒褐色～暗褐色土である。
- 柱 穴** ピットを床面上に 7口検出し、支柱穴は P 1～4 である。柱痕跡は確認されず、埋土は C層が黒褐色土を主体とし、粒状の暗褐色土とカーボン・焼土粒を少量含む。D層は暗褐色土と黒褐色土の混合土で、塊状のにぶい黄褐色シルトを多く含む。各ピットの規模・深さは、P 1－径 0.31m、深さ 0.13m、P 2－径 0.22m、深さ 0.14m、P 3－径 0.20～0.26m、深さ 0.19m、P 4－径 0.17m、深さ 0.11m、P 5－径 0.18m、深さ 0.17m、P 6－径 0.17～0.19m、深さ 0.11m、P 7－径 0.33～0.37m、深さ 0.09mである。その他、北東隅で床構築土を精査中に床面下からピットを確認した。底面に須恵器長頸瓶の口縁部～頸部を伏せている。土器内には多量のカーボン粒～塊を含む褐色～黄褐色シルト（F層）が充填され、埋土（E層）は粒～小塊状の暗褐色土を含むにぶい黄褐色シルトである。平面形は不整な円形で、規模は径 0.52～0.57m、床面からの深さ 0.12mである。
- 出土遺物（第 51 図 6～8）** 6はあかやき土器の坏で、底部切り離しは回転糸切無調整である。7はあかやき土器鉢で、体部下半～底部を欠損する。胎土に雲母を含む。8は床面下のピットから出土した須恵器長頸瓶で、口縁部～頸部が残存する。内外面に自然釉が確認される。その他、あかやき土器甕、土師器坏・甕及び須恵器坏・大甕・壺の破片が出土している。
- 時 期** 9世紀中葉～後葉

RA697 竪穴建物跡（第 27 図）

- | | | | | | |
|--------------|---|--------------|------|-------------|---|
| 位 置 | 調査区東（G-1-K18・19区） | 平 面 形 | 方形 | 主軸方向 | — |
| 規 模 | 東—西 3.20m以上（調査区外）、北—南 3.05m | 重複関係 | なし | | |
| 掘 込 面 | 削平 | 検 出 面 | Ⅲ層上面 | | |
| 埋 土 | 自然堆積で A～E層に大別され、D・E層はさらに 2層に細分される。 | | | | |
| | A層—黒褐色土と暗褐色土の混合土で、粉～粒状の黄橙色シルトを僅かに含む。 | | | | |
| | B層—粒～小塊状のにぶい黄褐色～黄褐色シルトを多く含む、暗褐色土と褐色シルトの混合土。 | | | | |
| | C層—黒色土を主体とし、粒状のにぶい黄褐色シルト、カーボン・焼土粒を少量含む。 | | | | |
| | D層—暗褐色土と黒褐色土の混合土で、D ₁ 層は粒状の褐色シルトを微量含み、D ₂ 層は小塊状のにぶい黄褐色シルトとカーボン粒を少量含む。 | | | | |
| | E層—暗褐色土を主体とし、塊状の褐色シルトを含む。E ₂ 層の方が褐色シルトの含有 | | | | |

率が非常に高い。

- 壁の状態** 検出面から床面までの深さは0.34～0.37mで、外傾して立ち上がる。
- 床の状態** ほぼ平坦で硬化面が広がり、中央東には特に堅い面が確認される。構築土（L層）はにぶい黄褐色～黄褐色シルトを主体とし、塊状の黒褐色～暗褐色土を多く含む。層厚は0.17～0.22mである。
- カマド** カマドは不明であるが、北東でカマド崩壊土（J層）の一部を確認している。カマド崩壊土は暗褐色土を主体とし、粒～小塊状のにぶい黄褐色シルトと多量のカーボン・焼土粒～塊を含む。
- 柱 穴** ピットを床面上に1口検出している。柱痕跡は確認されず、埋土（F層）は黒褐色土を主体とし、粒～塊状の黄褐色シルトを少量含む。カーボン粒と焼土粒～塊を含む。規模は径0.44～0.46m、深さは0.12mである。
- 出土遺物（第51図9～17）** 9・10は須恵器の坏で、底部切り離しは回転糸切無調整である。11～14はあかやき土器の坏で、底部切り離しは回転糸切無調整である。12・14は口縁部に歪みがあり、14は胎土に砂礫を多く含む。15は内面に黒色処理とヘラミガキが施される土師器坏で、体部下端と底面にヘラケズリが施される。16・17は土師器甕で、体部下半～底部を欠損する。その他、あかやき土器甕の破片と僅かに土師器高台付坏の破片が出土している。
- 時 期** 9世紀中葉

RA698 竪穴建物跡（第27図）

- 位 置** 調査区南西（G-1-B23・24区） **平 面 形** 方形 **主軸方向** —
- 規 模** 西—東1.25m以上（調査区外）、南—北4.21m以上（調査区外） **重複関係** なし
- 掘 込 面** 削平 **検 出 面** III層上面
- 埋 土** 自然堆積でA～D層に大別され、A層はさらに2層に細分される。
A層—黒褐色土と暗褐色土の混合土で、A₁層は粒～小塊状の褐色シルトを微量含み、
A₂層は塊状のにぶい黄褐色シルト、カーボン粒及び焼土粒～塊を少量含む。
B層—にぶい黄褐色～黄褐色シルトを主体とし、塊状の暗褐色土を含む。
C層—暗褐色土を主体とし、粒状の黄褐色シルトを少量含む。
D層—粒～小塊状の黒褐色～暗褐色土を微量含む、にぶい黄褐色シルト。
- 壁の状態** 検出面から床面までの深さは0.17～0.27mで、外傾して立ち上がる。
- 床の状態** 中央が若干高いが、ほぼ平坦である。床構築土は確認されず、掘り込んだ地山褐色～黄褐色シルト層（III層）を床面としている。
- 出土遺物（第51図18）** 18はあかやき土器坏である。内外面は摩滅している。
- 時 期** 9世紀

RA699 竪穴建物跡（第28図）

- 位 置** 調査区南東（G-1-J・K24区） **平 面 形** 方形 **主軸方向** W3°S
- 規 模** 西—東3.57m、南—北3.88m **重複関係** RG617（新）
- 掘 込 面** 削平 **検 出 面** III層上面

- 埋 土** 自然堆積でA～C層に大別され、A層はさらに3層に細分される。
 A層－暗褐色土を主体とし、粒～塊状の黒褐色土を含む層で、焼土粒を少量含む。3層に細分され、下層ほど黒褐色土の割合が高い。
 B層－黒褐色土を主体とし、粒～小塊状の褐色シルトを含む層で、カーボン粒と焼土塊を多く含む。他の埋土と比較して、軟らかい。
 C層－小塊状の黒褐色土を少量含む褐色シルトで、カーボン粒を微量含む。
- 壁の状態** 検出面から床面までの深さは0.10～0.12mで、外傾して立ち上がる。
- 床の状態** ほぼ平坦である。構築土（L層）は小塊状の暗褐色土を少量含む、にぶい黄橙色シルトと黄褐色シルトの混合土である。層厚は0.04～0.10mである。
- カ マ ド** カマドは西壁中央に位置する。煙道平面形は不整な溝状で、火床面から煙出しに向かって緩やかに傾斜し、深くなっている。火床面から煙道半ばまでは平坦で、途中から煙出しに向かって傾斜し深くなる。規模は西壁から煙出しの先端までの長さ1.34m、幅0.33～0.35m、検出面からの深さ0.14～0.22mである。カマドは褐色～黄褐色シルトに粒～小塊状の暗褐色土を含む混合土（K_{1.2}層）で構築している。規模は南残存部が長さ0.25m、幅0.32m、高さ0.09m、北残存部が長さ0.48m、幅0.30m、高さ0.09mである。火床面（J₉層）は径0.39～0.41mの不整楕円形で、熱浸透層は厚さ0.10mである。西側は強い被熱を受けて明赤褐色を呈し、焼き締まっている。カマド崩壊土（J_{1～8}層）は8層に細分され、暗褐色土を主体とし、黒褐色土、褐色～黄褐色シルト及び焼土が混合する。J₃層はカマド天井部が崩壊した層である。J₄層は粒～塊状のカーボンを多く含み、J₄層は礫を少量含む。なお、この崩壊土は煙出しから煙道、さらに火床面と床面の一部の範囲を覆っている。
- 柱 穴** ピットを床面上に4口検出しており、支柱穴はP1～3である。柱痕跡は確認されず、埋土（D層）が黒色～黒褐色土を主体とし、粒状の褐色シルトを少量含む。各ピットの規模・深さは、P1－径0.26m、深さ0.08m、P2－径0.24～0.28m、深さ0.07m、P3－径0.24～0.28m、深さ0.02m、P4－径0.18～0.20m、深さ0.06mである。
- 出土遺物（第52図1～6）** 1は須恵器坏で、底部切り離しは回転糸切無調整である。2はあかやき土器坏で、底部を欠損する。3・4は土師器坏で、内面に黒色処理とヘラミガキが施される。3の底面にはヘラケズリが施され、重焼痕が観察される。5・6はあかやき土器甕である。図示していないが、土師器甕の破片、僅かに土師器高台付坏の破片が出土している。
- 時 期** 9世紀中葉

RA700 竪穴建物跡（第29・30図）

- 位 置** 調査区南（G1－E・F3区） **平 面 形** 方形 **主軸方向** ー
- 規 模** 南東－北西4.38m、北東－南西4.38m **重複関係** なし
- 掘 込 面** 削平 **検 出 面** III層上面
- 埋 土** 自然堆積でA～E層に大別され、C・E層はさらに2層に細分される。A～C層は径0.04～0.12mの礫を少量含む。
 A層－黒褐色土を主体とし、粒～小塊状の暗褐色土と焼土粒を少量含む。

B層－暗褐色土を主体とし、小塊状のにぶい黄褐色シルトを多く含む。少量のカーボン粒、多量の焼土粒～小塊状を含む。

C層－暗褐色土を主体に黒色土を塊状に含む混合土で、C₁層は粒状のにぶい黄褐色シルトとカーボン・焼土粒を少量含む、C₂層は少量のカーボン粒～塊、塊状の褐色シルトを多量含む。

D層－暗褐色土を主体とし、褐色シルト粒を多量に含む。

E層－黒褐色土を主体とする層で、E₁層は粒～塊状の褐色シルトとカーボン粒を含み、E₂層は塊状の黄褐色シルトを多量含む。

壁の状態 検出面から床面までの深さは0.30～0.37mで、外傾して立ち上がる。部分的ではあるが、北、南及び東壁の壁際には幅0.07～0.15m、深さ0.05～0.08mの周溝がめぐる。埋土（F層）は黒褐色土を主体とし、粒状の暗褐色土とにぶい黄褐色シルトを少量含む。北壁を除く周溝の底面には小規模なピットが確認され、壁面部材の据え方の可能性がある。

床の状態 ほぼ平坦で、中央を主として硬化面が広がる。構築土（L層）は明黄褐色シルトと褐色シルトの混合土を主体とし、塊状の暗褐色土を少量含む。層厚は0.05～0.09mである。

カマド カマドは2時期（Ⅰ・Ⅱ期）あり、平面形や残存状況、埋土の状況などから、西（Ⅱ期）→東（Ⅰ期）の順で造り替えが行われている。Ⅱ期カマドについては、廃棄後も基底部等を壊さずに残している。

Ⅰ期のカマドは東壁北寄りに位置する。煙道平面形は不整な溝状で、煙出しに向かって徐々に浅くなり、煙出し底面で最も浅くなる。規模は東壁から煙出しの先端までの長さ1.43m、幅0.21～0.34m、検出面からの深さ0.10～0.18mである。カマドは人為的に壊されており、南基底部のみ残存する。カマド基底部は褐色シルトに粒～小塊状の暗褐色土を含む混合土（K層）で構築し、規模は南残存部が長さ0.51m、幅0.30m、高さ0.08～0.16mである。明確な火床面は確認できない。カマド崩壊土（J_{1~7}層）は褐色シルト粒～塊状を含む黒褐色～暗褐色土である。J₃層は多量の灰黄色粘土粒～塊を多く含む、J_{3.5}層はカマド周辺の広範囲に広がり、床面を覆っている。

Ⅱ期のカマドは西壁中央に構築される。煙道は割り貫きのトンネル状で天井部が残存する。煙道平面形は南にやや屈曲する溝状で、火床面から煙出しに向かって傾斜し、煙出し底面で最も深くなる。規模は西壁から煙出しの先端までの長さ1.06m、幅0.23～0.41m、検出面からの深さ0.22～0.60mをはかる。カマドはにぶい黄褐色シルトとにぶい黄褐色シルトの混合土（K'層）で構築している。規模は南残存部が長さ0.33m、幅0.23m、高さ0.22m、北残存部が長さ0.34m、幅0.17m、高さ0.12mである。火床面は径0.56mの不整な円形を呈し、熱浸透層は厚さ0.07mである。西側は強い被熱を受けて橙色を呈し、堅く焼き締まっている。カマド崩壊土（J'層）は暗褐色土や褐色シルトを含む黒褐色土を主体とし、9層に細分される。J'₃層はカマド天井部が崩壊した層である。煙出し底面に堆積したJ'₈層から底部を欠損したあかやき土器甕が出土している。

柱 穴 その他ピットを床面上に8口検出しており、支柱穴はP1～4である。柱痕跡は認められず、埋土（G層）が黒褐色土を主体とし、褐色シルト粒状を少量含む。各ピットの規模・深さは、P1－径0.20～0.22m、深さ0.10m、P2－径0.22m、深さ0.10m、P3－径

0.25m, 深さ 0.09m, P 4 - 径 0.26~0.28m, 深さ 0.10m, P 5 - 径 0.22m, 深さ 0.10m, P 6 - 径 0.20~0.24m, 深さ 0.12m, P 7 - 径 0.26~0.30m, 深さ 0.09m, P 8 - 径 0.33m, 深さ 0.10mである。

出土遺物 (第 53 図 1~9) 1・3 はあかやき土器の坏で, 底部切り離しは回転糸切無調整である。1 は内外面に煤状炭化物が付着し, 3 は胎土に砂粒を多く含む。2 は須恵器坏で, 底部は回転糸切無調整である。外面に火襷, 内面に重ね焼き痕が観察される。4 は内面に黒色処理とヘラミガキが施される土師器高台付坏で, 底部切り離しは回転糸切無調整である。5・6 はあかやき土器甕である。5 は II 期カマドの煙出しから出土し, 内外面に煤状炭化物が付着する。7 は体部下半~底部を欠損する土師器小型甕である。8 は土師器甕でほぼ完形に近い。9 は砂質凝灰岩製の砥石である。短冊形で 4 面の使用痕と切創が観察される。この他, 土師器坏, あかやき土器小型甕及び須恵器大甕の破片が出土している。

時 期 9 世紀中葉

RA701 竪穴建物跡 (第 31 図)

位 置 調査区南 (G 1 - J 2・3 区) **平 面 形** 方形 **主軸方向** W 5° N
規 模 西 - 東 2.39m 以上 (調査区外), 南 - 北 5.15m **重複関係** RG617 (新)
掘込面 削平 **検出面** III 層上面
埋 土 A~D 層に大別され, A・C 層はさらに 3 層に細分される。B 層は人為堆積, それ以外は自然堆積である。

A 層 - 黒褐色土を主体とする層で, A₁ 層は少量の褐色シルト塊を含み, A₂ 層は褐色シルト粒を僅かに含む。A₃ 層は粒~塊状のにぶい黄褐色シルトを多量に含む。

B 層 - 粒~小塊状のにぶい黄褐色シルトを少量含む, 暗褐色土と黒褐色土の混合土。少量の焼土粒, 多量の拳大の円礫・角礫を含む。礫の一部には被熱を受けて赤変化したものが確認される。

C 層 - 暗褐色土を主体とし, 粒~塊状のにぶい黄褐色~黄褐色シルトを多く含む。3 層に細分され, 下層ほどにぶい黄褐色~黄褐色シルトの割合が高くなる。

D 層 - 黒褐色~暗褐色土を主体とし, 塊状の褐色シルトを少量含む。カーボン粒, 焼土粒~塊を多量に含む。

壁の状態 検出面から床面までの深さは 0.21~0.24m で, 外傾して立ち上がる。

床の状態 ほぼ平坦であるが, カマド付近が若干凹んでおり, 硬化面も確認される。構築土 (L 層) は黄褐色シルトを主体とし, 小塊状の暗褐色土を多く含む。層厚は 0.04~0.21m である。

カ マ ド カマドは西壁中央に位置する。煙道平面形は不整な溝状で, 火床面から煙出しに向かって緩やかに傾斜し深くなる。規模は西壁から煙出しの先端までの長さ 1.24m, 幅 0.25~0.41m, 検出面からの深さ 0.22~0.36m である。カマドはにぶい黄橙色シルト, 暗褐色土及び粒~塊状の灰白色~灰黄色粘土との混合土 (K_{1,2} 層) で構築している。規模は南残存部が長さ 0.48m, 幅 0.40m, 高さ 0.08~0.14m, 北残存部が長さ 0.47m, 幅 0.24m, 高さ 0.07~0.12m である。火床面 (J_{9,10} 層) は径 0.54~0.59m の不整楕円形で, 熱浸透層は厚さ 0.10m である。カマド崩壊土 (J_{1~8} 層) は 8 層に細分され, カーボンと焼土を含

む黒褐色～暗褐色土である。J₂層はカマド天井部が崩壊した層で、J_{3.5.7}層はカーボンと焼土を多量に含む。

貯蔵穴 北西隅に構築される。埋土はE～G層に大別され、F層はさらに2層に細分される。E層は粒状の褐色シルトを少量含む黒褐色土で、多量のカーボン・焼土粒を含む。F層は暗褐色土に小塊状の褐色シルトを多く含み、F₂層は割合が多い。G層は塊状のにぶい黄褐色シルトを少量含み、他の埋土と比較して軟らかい。平面形は不整な円形で、規模は径0.55～0.60m、床面からの深さ0.25mである。

柱穴 ピットを床面上に5口検出しており、主柱穴はP1・2で柱痕跡も確認される。柱痕跡埋土(H層)は暗褐色土を主体に粒状の褐色シルトを微量含む。掘方埋土(I層)は黄褐色シルトを主体に小塊状の黒褐色土を含み、堅く締まりがある。各ピットの規模・深さは、P1-径0.30m、深さ0.15m、P2-径0.23m、深さ0.18m、P3-径0.38～0.41m、深さ0.13m、P4-径0.35～0.60m以上、深さ0.22m、P5-径0.20～0.23m、深さ0.07mである。

出土遺物(第52図7～12) 7はあかやき土器の坏である。8・9は土師器坏で、内面に黒色処理とヘラミガキが施される。9の底部切り離しは回転糸切無調整である。10～12は土師器甕である。11は体部下半～底部が残存し、内面に煤状炭化物が観察され、底面はヘラケズリ調整を施す。その他、砂底の土師器甕、僅かに須恵器坏・甕、あかやき土器甕の各破片が出土している。

時期 9世紀後葉

RB142 掘立柱建物跡(第32図)

位置 調査区南(G1-H・I2・3区) **平面形** 桁行1間×梁行1間の東西棟

棟方向 N10°W **重複関係** RD2211(新)

規模 桁行1間(総長1.85m・6尺1寸)、梁行1間(総長2.47m・8尺1寸)

掘込面 削平 **検出面** III層上面

柱間寸法 P1～4の4口で構成される。梁間柱間はP1・P2間-2.47m(8尺1寸)、P3・P4間-2.42m(8尺)である。桁行柱間はP2・P3間-1.84m(6尺)、P4・P1間-1.85m(6尺1寸)である。

柱穴 建物を構成するすべての柱穴より柱痕跡が確認された。柱痕跡径は0.15～0.21m、掘方径は0.40～0.69mをはかる。柱痕跡埋土は黒褐色土を主体ににぶい黄褐色～褐色シルト粒を少量含む。掘方埋土は褐色シルトを主体に粒～塊状の黒褐色土を含み、締まりがある。各柱穴の規模・深さはP1-径0.40～0.59m、深さ0.29m、P2-径0.33～0.53m、深さ0.27m、P3-径0.68m、深さ0.23m、P4-径0.61～0.69m、深さ0.15mである。平面形はP3が不明であるが、P1・2は不整長方形、P4は不整方形を呈する。

出土遺物 図示していないが、あかやき土器坏、土師器坏の小破片が出土している。

時期 9世紀

RD2188土坑（第32図）

位置	調査区北西（F-1-W7区）	平面形	不整楕円形
規模	長軸—上端 0.59m, 下端 0.47m, 短軸—上端 0.45m, 下端 0.29m		
重複関係	なし	掘込面	削平 検出面 III層上面
埋土	自然堆積でA・B層に大別され、A層はさらに2層に細分される。 A層—黒褐色土を主体とする層で、A ₁ 層は少量の褐色シルト塊を含み、A ₂ 層は少量の焼土粒と粒～小塊状の褐色シルトを多く含む。 B層—にぶい黄褐色シルトを主体とし、小塊状の暗褐色土を少量含む。		
壁の状態	検出面から底面までの深さは0.41mで、直立気味に外傾して立ち上がる。		
底の状態	ほぼ平坦である。		
出土遺物	図示していないが、あかやき土器坏・甕、土師器坏・甕及び須恵器坏の破片が出土している。		
時期	9世紀		

RD2189土坑（第32図）

位置	調査区北西（F-1-X7・8区）	平面形	不整楕円形
規模	長軸—上端 1.00m, 下端 0.68m, 短軸—上端 0.85m, 下端 0.65m		
重複関係	なし	掘込面	削平 検出面 III層上面
埋土	自然堆積でA・B層に大別され、B層はさらに2層に細分される。 A層—黒褐色土を主体とし、粒～塊状の暗褐色土を微量含む。 B層—暗褐色土を主体とする層で、B ₁ 層は粒～塊状の黄褐色シルトを多く含み、B ₂ 層はにぶい黄褐色シルト塊を微量含む。		
壁の状態	検出面から底面までの深さは0.33mで、外傾して立ち上がる。		
底の状態	ほぼ平坦である。		
出土遺物	B層からあかやき土器坏・甕、土師器坏・甕、須恵器坏・大甕の小破片が出土している。		
時期	9世紀		

RD2190土坑（第33図）

位置	調査区北西（F-1-Y7区）	平面形	不整楕円形
規模	残存部長軸—上端 1.12m, 下端 1.03m, 残存部短軸—上端 0.46m, 下端 0.40m		
重複関係	RA676・677（新）	掘込面	削平 検出面 III層上面
埋土	自然堆積でA・B層に大別され、A層はさらに2層に細分される。 A層—黒褐色土を主体とする層で、A ₁ 層は微量の焼土粒と黄褐色～明黄褐色シルト粒～小塊を多く含み、A ₂ 層は粒状のにぶい黄褐色シルト塊を少量含む。 B層—黒色土を主体とし、塊状の黄褐色シルトを多量含む。		
壁の状態	検出面から底面までの深さは0.20mで、外傾して立ち上がる。		
底の状態	ほぼ平坦である。		
出土遺物	B層から土師器坏・甕・球胴甕の小破片が出土している。 時 期 9世紀		

RD2191土坑（第33図）

位 置	調査区東（G-1-K12区）	平面形	不整長方形
規 模	長軸—上端 2.18m，下端 2.07m，短軸—上端 1.08m，下端 1.05m		
重複関係	RA687（古）	掘込面	削平 検出面 III層上面
埋 土	自然堆積でA・B層に大別される。 A層—粉～粒状の褐色シルトを僅かに含む，黒色土と黒褐色土の混合土。 B層—黄褐色シルトを主体とし，塊状の黒褐色土を含む。		
壁の状態	検出面から底面までの深さは0.13mで，外傾して立ち上がる。		
底の状態	ほぼ平坦である。		
出土遺物（第54図5）	5はあかやき土器坏で，底部切り離しは回転糸切無調整である。その他， 図示していないが，あかやき土器甕，内外黒色処理の土師器坏，土師器甕及び須恵器大甕 の破片が出土している。		
時 期	9世紀後葉		

RD2192土坑（第33図）

位 置	調査区東（G-1-J18・19区）	平面形	不整楕円形
規 模	長軸—上端 0.74m，下端 0.39m，短軸—上端 0.53m，下端 0.30m		
重複関係	なし	掘込面	削平 検出面 III層上面
埋 土	自然堆積でA～C層に大別され，A・B層はさらに2層に細分される。 A層—黒褐色土を主体とする層で，A ₁ 層は粒～小塊状の黄褐色シルトと微量の焼土粒を 含む，A ₂ 層は粒状の褐色シルトを微量含む。 B層—暗褐色土を主体とし，塊状のにぶい黄褐色シルトを含む。B ₂ 層の方がにぶい黄 褐色シルトの割合が高い。 C層—黒色土を主体とし，小塊状の褐色シルトを含む。		
壁の状態	検出面から底面までの深さは0.45mで，外傾して立ち上がる。		
底の状態	やや丸みを帯びる。		
出土遺物	A層から少量の須恵器壺の破片，B層からあかやき土器甕，土師器甕の小破片が出土し ている。		
時 期	9世紀		

（3） 古代以降の遺構・遺物

RD2193土坑（第33図）

位 置	調査区東（G-1-J16区）	平面形	不整楕円形
規 模	長軸—上端 0.80m，下端 0.57m，短軸—上端 0.66m，下端 0.35m		
重複関係	なし	掘込面	削平 検出面 III層上面
埋 土	自然堆積でA～C層に大別される。 A層—黒色土を主体とし，粒～小塊状の暗褐色土を微量含む。		

B層－黒褐色土を主体とし、粒状の黄褐色シルトを多量含む。

C層－暗褐色土を主体とし、塊状の褐色シルトを多く含む。

壁の状態 検出面から底面までの深さは0.24mで、外傾して立ち上がる。

底の状態 ほぼ平坦である。

出土遺物 A層からフイゴ羽口の破片、B層から土師器甕の小破片が出土している。

時 期 古代

RD2194土坑（第33図）

位 置 調査区中央（G-1-D19区） **平面形** 不整円形

規 模 長軸－上端0.65m，下端0.52m，短軸－上端0.55m，下端0.45m

重複関係 なし **掘込面** 削平 **検出面** III層上面

埋 土 自然堆積でA～C層に大別される。

A層－粒～小塊状の褐色シルトを微量に含む黒褐色土。

B層－小塊状のにぶい黄褐色シルトを含む黒色土。

C層－粒状の黒褐色土を少量含む暗褐色土。

壁の状態 検出面から底面までの深さは0.15mで、外傾して立ち上がる。

底の状態 ほぼ平坦である。

出土遺物 A層から土師器甕の小破片が出土している。

時 期 古代

RD2195土坑（第33図）

位 置 調査区中央南（G-1-C20区） **平面形** 不整楕円形

規 模 長軸－上端0.83m，下端0.73m，短軸－上端0.68m，下端0.55m

重複関係 なし **掘込面** 削平 **検出面** III層上面

埋 土 自然堆積でA・B層に大別され、A層はさらに2層に細分される。

A層－黒褐色土を主体とする層で、A₁層は明黄褐色シルト塊を多量含む、A₂層は粒～小塊状のにぶい黄褐色シルト塊を微量含む。

B層－暗褐色土を主体とし、粒状の黒褐色土を少量含む。

壁の状態 検出面から底面までの深さは0.20mで、外傾して立ち上がる。

底の状態 ほぼ平坦である。

出土遺物 B層からあかやき土器甕の小破片が出土している。

時 期 古代

RD2196土坑（第33図）

位 置 調査区中央（G-1-E19区） **平面形** 不整円形か

規 模 長軸－上端0.72m，下端0.52m，残存部短軸－上端0.53m，下端0.41m

重複関係 なし **掘込面** 削平 **検出面** III層上面

埋 土 自然堆積でA・B層に大別される。

A層-にぶい黄褐色シルトを主体とし、塊状の黒褐色土を多量含む。

B層-暗褐色土を主体とし、粒～小塊状の褐色シルトを含む。

壁の状態 検出面から底面までの深さは0.15mで、外傾して立ち上がる。
底の状態 ほぼ平坦であるが、西に向かって僅かに傾斜する。
出土遺物 A層からあかやき土器坏の摩滅した小破片が出土している。
時 期 古代

R D 2 1 9 7 土坑 (第 33 図)

位 置 調査区中央東 (G-1-H・I 19 区) **平 面 形** 不整円形
規 模 長軸-上端 0.79m, 下端 0.49m, 短軸-上端 0.72m, 下端 0.53m
重複関係 なし **掘 込 面** 削平 **検 出 面** III層上面
埋 土 自然堆積で、黒褐色土を主体とする単層である。にぶい黄褐色シルトの包含率で2層に細分され、A₁層は粒～小塊状のにぶい黄褐色シルトとカーボン粒を微量含み、A₂層は塊状のにぶい黄褐色シルトを多量含む。
壁の状態 検出面から底面までの深さは0.10mで、緩やかに外傾して立ち上がる。
底の状態 ほぼ平坦である。
出土遺物 なし **時 期** 古代

R D 2 1 9 8 土坑 (第 34 図)

位 置 調査区中央南 (G-1-I 9 区) **平 面 形** 不整楕円形
規 模 長軸-上端 0.94m, 下端 0.65m, 短軸-上端 0.88m, 下端 0.49m
重複関係 なし **掘 込 面** 削平 **検 出 面** III層上面
埋 土 自然堆積でA～C層に大別され、B層はさらに2層に細分される。
A層-黒褐色土を主体とし、粒～小塊状の暗褐色土と微量の焼土粒を含む。
B層-小塊状のにぶい黄褐色シルトを多く含む暗褐色土。下層ほどにぶい黄褐色シルトの割合が高くなる。B₁層はカーボン粒、砂、安山岩を少量含み、B₂層はカーボン粒～小塊を含む。
C層-黒褐色土を主体とし、塊状の褐色シルトを多量含む。径0.04mの小礫を少量含む。
壁の状態 検出面から底面までの深さは0.30mで、外傾して立ち上がる。
底の状態 緩く湾曲する。
出土遺物 A層からあかやき土器甕と土師器甕の小破片、B₁層から安山岩製の砥石破片が出土している。
時 期 古代

R D 2 1 9 9 土坑 (第 34 図)

位 置 調査区中央南 (G-1-D 7 区) **平 面 形** 不整楕円形
規 模 長軸-上端 0.76m, 下端 0.52m, 短軸-上端 0.58m, 下端0.37m
重複関係 なし **掘 込 面** 削平 **検 出 面** III層上面

埋 土 自然堆積でA～C層に大別される。
A層－黒褐色土を主体とし、粉～粒状の暗褐色土を僅かに含む。
B層－明黄褐色シルトを主体とし、塊状の暗褐色土と焼土粒を微量含む。
C層－黒褐色土を主体とし、粒状の褐色シルトを少量含む。

壁の状態 検出面から底面までの深さは0.15mで、緩やかに外傾して立ち上がる。

底の状態 ほぼ平坦である。

出土遺物 A層から内面が黒色処理された土師器坏の小破片が出土している。

時 期 古代

RD2200土坑（第34図）

位 置 調査区中央南（G-1-E・F7区） **平面形** 不整楕円形

規 模 長軸－上端2.23m，下端2.03m，短軸－上端1.50m，下端1.20m

重複関係 なし **掘込面** 削平 **検出面** III層上面

埋 土 自然堆積でA・B層に大別される。
A層－黒褐色土を主体とし、粒～小塊状の暗褐色土、少量のカーボン粒及び多量の焼土粒～小塊を含む。
B層－暗褐色土を主体とし、小塊状のにぶい褐色シルトを多く含み、焼土粒を少量含む。

壁の状態 検出面から底面までの深さは0.14mで、緩やかに外傾して立ち上がる。

底の状態 ほぼ平坦である。

出土遺物 A層からあかやき土器坏破片、内面が黒色処理された土師器坏の小破片が出土している。

時 期 古代

RD2201土坑（第34図）

位 置 調査区中央南（G-1-D5・6区） **平面形** 不整楕円形

規 模 長軸－上端0.88m，下端0.72m，短軸－上端0.75m，下端0.57m

重複関係 なし **掘込面** 削平 **検出面** III層上面

埋 土 自然堆積でA・B層に大別され、B層はさらに2層に細分される。
A層－黒褐色土を主体とし、小塊状の褐色シルトを多く含む。
B層－暗褐色土を主体とし、にぶい黄褐色シルトを含む。混入土の黄褐色シルトについては、B₁層は微量の粒状で鉄滓を含み、B₂層は多量の粒状である。

壁の状態 検出面から底面までの深さは0.24mで、外傾して立ち上がる。

底の状態 ほぼ平坦である。

出土遺物 B層からあかやき土器坏破片と小規模な椀型滓、僅かに土師器坏・甕の小破片が出土している。

時 期 古代

RD2202土坑（第34図）

位 置 調査区中央南（G-1-E23区） **平面形** 不整楕円形

規 模 長軸－上端 0.88m, 下端 0.60m, 短軸－上端 0.75m, 下端 0.46m

重複関係 なし **掘込面** 削平 **検出面** III層上面

埋 土 自然堆積でA・B層に大別され, A層はさらに2層に細分される。
A層－黒褐色土を主体とする層で, A₁層は小塊状の褐色シルトと少量のカーボン粒～小塊を含み, A₂層は微量のカーボン小塊, 粒～小塊状のにぶい黄褐色シルトを微量含む。
B層－黄褐色シルトを主体とし, 塊状の暗褐色土を多量含む。

壁の状態 検出面から底面までの深さは 0.20mで, 緩やかに外傾して立ち上がる。

底の状態 やや丸みを帯びる。

出土遺物 A₂層から少量のあかやき土器坏破片, 土師器坏・甕の小破片が出土している。

時 期 古代

RD2203土坑 (第34図)

位 置 調査区南 (G1-G2区) **平面形** 不整形

規 模 長軸－上端 1.15m, 下端 1.04m, 短軸－上端 1.09m, 下端 1.00m

重複関係 なし **掘込面** 削平 **検出面** III層上面

埋 土 自然堆積で, 黒褐色土を主体とする単層で2層に細分される。A₁層は多量のカーボン粒, 塊状の暗褐色土を含み, A₂層は小塊状のにぶい黄褐色シルトを多量含む。

壁の状態 検出面から底面までの深さは 0.11mで, 外傾して立ち上がる。

底の状態 ほぼ平坦である。

出土遺物 なし **時 期** 古代

RD2204土坑 (第34図)

位 置 調査区南 (G1-H4区) **平面形** 不整形

規 模 長軸－上端 0.72m, 下端 0.65m, 短軸－上端 0.38m, 下端 0.26m

重複関係 RD2211 (新) **掘込面** 削平 **検出面** III層上面

埋 土 人為堆積でA～D層に大別され, A・B層はさらに2層に細分される。
A層－明黄褐色シルトを主体とする層で, A₁層は塊状のにぶい黄褐色シルトを含み, A₂層は粒～小塊状の褐色シルトを多量含む。
B層－黒褐色土を主体とし, 粒～小塊状の暗褐色土を含む。B₁層は暗褐色土の混入度が高い。
C層－黒褐色土を主体とし, 塊状の褐色シルトを少量含む。
D層－にぶい黄褐色シルトを主体とし, 粒～塊状の暗褐色土を多く含む。

壁の状態 検出面から底面までの深さは 0.40mで, 直立気味に立ち上がる。

底の状態 ほぼ平坦である。

出土遺物 なし **時 期** 古代

RD2205土坑（第35図）

位置	調査区北西（F-1-T4区）	平面形	不整楕円形か
規模	長軸—上端 0.75m以上，下端 0.68m以上，短軸—上端 0.55m以上，下端 0.47m以上		
重複関係	なし	掘込面	削平 検出面 III層上面
埋土	自然堆積で，黒褐色土と暗褐色土の混合土で2層に細分される。A ₁ 層は粒～塊状の黄褐色シルトを含み，A ₂ 層は小塊状の褐色シルトを多量含む。		
壁の状態	検出面から底面までの深さは0.17mで，外傾して立ち上がる。		
底の状態	緩やかな起伏がある。		
出土遺物	なし	時期	古代以降

RD2206土坑（第35図）

位置	調査区西（G-1-B20・21区）	平面形	不整楕円形か
規模	残存部長軸—上端 0.69m，下端 0.63m，短軸—上端 0.74m，下端 0.65m		
重複関係	なし	掘込面	削平 検出面 III層上面
埋土	自然堆積で，粒～塊状の黄褐色シルトを含む，黒褐色土と黒色土の混合土で2層に細分される。A ₂ 層の方が黄褐色シルトの割合が非常に高い。		
壁の状態	検出面から底面までの深さは0.10mで，外傾して立ち上がる。		
底の状態	ほぼ平坦である。		
出土遺物	A層から土師器甕，僅かにあかやき土器甕の各小破片が出土している。		
時期	古代以降		

RD2207土坑（第35図）

位置	調査区中央南（G-1-D20区）	平面形	不整楕円形か
規模	長軸—上端 0.70m，下端 0.39m，残存部短軸—上端 0.48m，下端 0.25m		
重複関係	RG622（新）	掘込面	削平 検出面 III層上面
埋土	自然堆積でA・B層に大別され，A層はさらに2層に細分される。 A層—暗褐色土を主体とする層で，A ₁ 層は粉状のにぶい黄褐色シルトを僅かに含み，A ₂ 層は粒～小塊状の黄褐色シルトを含む。 B層—褐色シルトを主体とし，塊状の暗褐色土を多量含む。		
壁の状態	検出面から底面までの深さは0.24mで，外傾して立ち上がる。		
底の状態	中央がやや深くなる。		
出土遺物	なし	時期	古代以降

RD2208土坑（第35図）

位置	調査区南西（G-1-C22区）	平面形	不整楕円形
規模	長軸—上端 0.79m，下端 0.67m，短軸—上端 0.55m，下端 0.44m		
重複関係	なし	掘込面	削平 検出面 III層上面
埋土	自然堆積でA・B層に大別される。		

A層－黒色土を主体とし、粒～小塊状の褐色シルトを少量含む。
B層－粒～塊状の黄褐色シルトを少量含む、暗褐色土と黒褐色土の混合土。

壁の状態 検出面から底面までの深さは0.10mで、緩やかに外傾して立ち上がる。
底の状態 ほぼ平坦である。
出土遺物 なし **時 期** 古代以降

RD2209土坑（第35図）

位 置 調査区中央南（G-1-F23区） **平面形** 不整楕円形
規 模 長軸－上端1.10m，下端1.00m，短軸－上端0.60m，下端0.50m
重複関係 なし **掘込面** 削平 **検出面** III層上面
埋 土 自然堆積でA・B層に大別される。
A層－褐色シルトを主体とし、少量のカーボン粒，粒～小塊状の暗褐色土を多く含む。
B層－暗褐色土を主体とする層で、塊状の褐色シルトを含む。
壁の状態 検出面から底面までの深さは0.10mで、外傾して立ち上がる。
底の状態 ほぼ平坦である。
出土遺物 なし **時 期** 古代以降

RD2210土坑（第35図）

位 置 調査区南（G1-G3区） **平面形** 不整長方形
規 模 長軸－上端1.07m，下端0.92m，短軸－上端0.51m，下端0.42m
重複関係 なし **掘込面** 削平 **検出面** III層上面
埋 土 自然堆積でA～D層に大別され，B層は2層，C層は3層に細分される。
A層－黒色土を主体とし，少量のにぶい黄褐色シルト粒と微量のカーボン粒を含む。
B層－暗褐色土を主体とする層で，B₁層は粒～塊状の黄褐色シルトとカーボン小塊を多量含み，B₂層は塊状のにぶい黄褐色シルトを含む。
C層－黒褐色土を主体とする層で，粒～塊状の暗褐色土，カーボン・焼土を含む。C₃層は暗褐色土の割合が高く，下層ほどしまりがなく，軟らかい。
D層－暗褐色土を主体とし，粒～小塊状の褐色シルトを少量含む。多量のカーボン小塊，少量の砂礫を含む。しまりがなく，軟らかい。
壁の状態 検出面から底面までの深さは0.37～0.58mで，直立気味に立ち上がる。北東隅の壁面上部に被熱を受けて赤変化した熱浸透層が確認される。
底の状態 北に掘り込みがあり，底面は凹凸である。
出土遺物 A層からあかやき土器甕の摩滅した破片が出土している。
時 期 古代以降

RD2211土坑（第34図）

位 置 調査区南（G1-H3・4区） **平面形** 不整長方形
規 模 残存部長軸－上端1.81m，下端1.70m，短軸－上端1.14m，下端0.99m

重複関係	R D2204 (古) 掘込面 削平 検出面 III層上面
埋土	自然堆積でA・B層に大別され、A層はさらに2層に細分される。 A層—黒褐色土を主体とし、にぶい黄褐色シルトを含む。混入土のにぶい黄褐色シルトについて、A ₁ 層は少量の粒状、A ₂ 層は微量の粒～塊状である。 B層—褐色シルトを主体とし、塊状の黒色土を少量含む。
壁の状態	検出面から底面までの深さは0.17～0.22mで、外傾して立ち上がる。
底の状態	ほぼ平坦であるが、南東に向かって若干傾斜する。
出土遺物	A層からあかやき土器坏破片、僅かに土師器坏・甕の小破片が出土し、A・B層ともに磁器碗、肥前焼碗の各破片が出土している。
時期	近世

R D 2 2 1 2 土坑 (第 35 図)

位置	調査区南東 (G 1 - J 4 ・ 5 区) 平面形 不整楕円形か
規模	長軸—上端 1.10m以上, 下端 0.90m以上, 短軸—上端 0.50m以上, 下端 0.32m以上
重複関係	なし 掘込面 削平 検出面 III層上面
埋土	自然堆積でA～C層に大別され、A層は3層、B層は2層に細分される。 A層—暗褐色土と黒褐色土の混合土で、粒～小塊状の褐色シルトを少量含む。カーボン粒～小塊を含む。A ₂ 層は褐色シルトの割合が一番高い。 B層—にぶい黄褐色シルトを主体とし、塊状の暗褐色土を多く含む。B ₁ 層は微量の焼土粒を含み、B ₂ 層は暗褐色土の包含率が高い。 C層—黒褐色土を主体とし、粒～小塊状のにぶい黄褐色シルトを少量含む。
壁の状態	検出面から底面までの深さは0.39～0.47mで、外傾して立ち上がる。
底の状態	ほぼ平坦である。
出土遺物 (第 54 図 6)	6は将棋駒状の磁器で、4面に染付で「別當塚」と描かれる。その他、A層からあかやき土器坏・小型甕、須恵器坏及び土師器甕、B層からあかやき土器坏と土師器坏の各小破片が出土している。またB層から磁器碗の破片が出土している。
時期	近世

R G 6 1 6 溝跡 (第 36 図)

位置	調査区北
平面形	東西方向にやや屈曲しながらのびる。
規模	総延長 14.18m以上, 上端幅—0.29～0.46m, 下端幅—0.17～0.37m
重複関係	R A 678 ・ 680 ・ 682 (古) 掘込面 削平 検出面 III層上面
埋土	自然堆積で、黒褐色土を主体とし、粒状のにぶい黄褐色シルトを少量含む単層である。
壁の状態	検出面から底面までの深さは0.07～0.11mで、外傾して立ち上がる。
底の状態	ほぼ平坦であるが、西側に向かって徐々に深くなる。
出土遺物	あかやき土器坏・甕、土師器坏・甕及び須恵器大甕の小破片が出土している。
時期	古代以降

RG617 溝跡 (第 37 図)

位 置	調査区中央北～南東
平 面 形	北側は南北にやや屈曲しながら，南側は北西から南東にほぼ直線状にのびる (調査区外)。
規 模	総延長 25.65m 以上，上端幅 0.29～0.54m，下端幅 0.20～0.40m
重複関係	RA686・688・694・699・701 (古)，RG622 (新)
掘 込 面	削平 検出面 III層上面
埋 土	自然堆積でA～C層に大別され，B層はさらに2層に細分される。 A層－黒褐色土を主体とし，粒状の暗褐色土を微量含む。 B層－黒褐色土を主体とする層で，B ₁ 層は小塊状の褐色シルトを多量含み，B ₂ 層は粒～小塊状のにぶい黄褐色シルトを含む。 C層－褐色シルトを主体とし，小塊状の暗褐色土を少量含む。
壁の状態	検出面から底面までの深さは0.05～0.10mで，外傾して立ち上がる。
底の状態	ほぼ平坦である。
出土遺物	A層から須恵器坏，あかやき土器坏・甕及び土師器坏・甕の摩滅した小破片が出土している。その他，磁器碗の破片も出土している。
時 期	近世

RG618 溝跡 (第 36 図)

位 置	調査区中央北
平 面 形	南北方向にほぼ直線状にのびる。
規 模	総延長 5.56m，上端幅 0.28～0.38m，下端幅 0.20～0.29m
重複関係	RA686 (古) 掘込面 削平 検出面 III層上面
埋 土	自然堆積で，粒状の黄褐色シルトを少量含む，黒褐色土と暗褐色土の混合土である。カーボン粒を少量含む。
壁の状態	検出面から底面までの深さは0.04～0.06mで，外傾して立ち上がる。
底の状態	ほぼ平坦である。
出土遺物	あかやき土器坏，土師器甕の破片が出土している。
時 期	古代以降

RG619 溝跡 (第 36 図)

位 置	調査区中央西
平 面 形	北西～南東方向にほぼ直線状にのびる。
規 模	総延長 8.98m，上端幅 0.28～0.46m，下端幅 0.14～0.31m
重複関係	RA690 (古) 掘込面 削平 検出面 III層上面
埋 土	自然堆積でA～C層に大別される。 A層－黒褐色土を主体とし，粒～小塊状の暗褐色土を微量含む。 B層－にぶい黄褐色シルトを主体とし，塊状の暗褐色土を多量含む。 C層－暗褐色土を主体とし，粒状の褐色シルトを僅かに含む。

壁の状態 検出面から底面までの深さは0.09～0.11mで、外傾して立ち上がる。
底の状態 ほぼ平坦である。
出土遺物 A層からあかやき土器坏・甕、須恵器大甕の摩滅した破片が出土している。
時 期 古代以降

RG620溝跡（第38図）

位 置 調査区中央
平 面 形 南西から北東にほぼ直線状にのび、東側では北方向に分岐する。
規 模 総延長6.72m、上端幅－0.42～0.62m、下端幅－0.27～0.52m
重複関係 RA694（古） **掘込面** 削平 **検出面** III層上面
埋 土 自然堆積でA・B層に大別され、A層はさらに2層に細分される。
A層－黒褐色土を主体とし、粒～小塊状の暗褐色土を含む。A₁層は暗褐色土の割合が非常に高い。
B層－黒色土を主体とし、粒～小塊状の褐色～黄褐色シルトを多く含む。
壁の状態 検出面から底面までの深さは0.07～0.18mで、外傾して立ち上がる。
底の状態 ほぼ平坦である。
出土遺物 A層から土師器坏・甕、須恵器坏・壺の破片、B層からあかやき土器甕、土師器坏・甕の破片が出土しているが、いずれも摩滅している。その他、A層から肥前焼の青磁皿、湯呑碗の破片が出土している。
時 期 近世

RG621溝跡（第38図）

位 置 調査区中央～東
平 面 形 東西方向にほぼ直線状にのびる（調査区外）。
規 模 総延長8.13m以上、上端幅－0.34～0.46m、下端幅－0.25～0.34m
重複関係 なし **掘込面** 削平 **検出面** III層上面
埋 土 自然堆積でA・B層に大別される。
A層－黒褐色土を主体とし、粒状の褐色シルトを僅かに含む。
B層－黄褐色シルトを主体とし、粒～小塊状の黒褐色土を多く含む。
壁の状態 検出面から底面までの深さは0.05～0.10mで、外傾して立ち上がる。
底の状態 ほぼ平坦である。
出土遺物（第54図7） 7はあかやき土器の小型坏で、体部下半～底部が残存する。底部の切り離しは静止糸切無調整である。その他、あかやき土器甕、土師器坏・甕、肥前焼の茶碗、染付手塩皿の各破片がA層から出土している。
時 期 近世

RG622溝跡（第38図）

位 置	調査区中央南
平 面 形	東西方向にやや屈曲しながら，直線状にのびる（調査区外）。
規 模	総延長 17.56m以上，上端幅0.30～0.62m，下端幅0.21～0.45m
重複関係	RD2207，RG617（古） 掘込面 削平 検出面 III層上面
埋 土	自然堆積でA～C層に大別される。 A層－黒褐色土を主体とし，粒状のにぶい黄褐色シルトを少量含む。 B層－塊状の黄褐色シルトを少量含む，黒色土と暗褐色土の混合土。 C層－褐色シルトを主体とし，粒状の黒褐色土を微量含む。
壁の状態	検出面から底面までの深さは0.07～0.14mで，外傾して立ち上がる。
底の状態	ほぼ平坦である。
出土遺物	A層からあかやき土器甕，須恵器長頸瓶の破片が出土しているほか，肥前焼の染付碗と湯呑碗の破片が出土している。
時 期	近世

ピット群（第5・39図）

調査区の北西を除くほぼ全域から118口のピット（P1～118）が検出されている。検出面はIII層上面である。埋土は黒褐色土や暗褐色土が主体となるものが多い。柱痕跡が認められるピットはP3・5・28・65・72・73・79・81・84・85・103・118である。またピットから出土した遺物は須恵器，あかやき土器，土師器，陶磁器の小破片で摩滅しているものが多い。各ピットの規模及び検出面からの深さは以下のとおりである。

P1－径0.20m，深さ0.9m・P2－径0.22m，深さ0.11m・P3－径0.25m，深さ0.14m・P4－径0.21m，深さ0.18m・P5－径0.22m，深さ0.14m・P6－径0.25m，深さ0.19m・P7－径0.27m，深さ0.13m・P8－径0.33m，深さ0.30m・P9－径0.26m，深さ0.13m・P10－径0.22m，深さ0.24m・P11－径0.24m，深さ0.13m・P12－径0.32m，深さ0.14m・P13－径0.16m，深さ0.08m・P14－径0.26m，深さ0.10m・P15－径0.19m，深さ0.12m・P16－径0.49m，深さ0.08m・P17－径0.32m，深さ0.27m・P18－径0.23m，深さ0.09m・P19－径0.18m，深さ0.11m・P20－径0.29m，深さ0.11m・P21－径0.25m，深さ0.10m・P22－径0.24m，深さ0.10m・P23－径0.22m，深さ0.11m・P24－径0.80m，深さ0.10m・P25－径0.22m，深さ0.10m・P26－径0.36m，深さ0.13m・P27－径0.21m，深さ0.09m・P28－径0.28m，深さ0.16m・P29－径0.28m，深さ0.11m・P30－径0.38m，深さ0.06m・P31－径0.22m，深さ0.17m・P32－径0.35m，深さ0.14m・P33－径0.30m，深さ0.27m・P34－残存部径0.79m，深さ0.11m・P35－径0.35m，深さ0.11m・P36－径0.28m，深さ0.20m・P37－径0.34m，深さ0.15m・P38－径0.33m，深さ0.16m・P39－径0.28m，深さ0.22m・P40－径0.43m，深さ0.29m・P41－径0.25m，深さ0.12m・P42－径0.30m，深さ0.09m・P43－径0.23m，深さ0.17m・P44－径0.26m，深さ0.13m・P45－径0.24m，深さ0.06m・P46－径0.34m，深さ0.07m・P47－径0.19m，深さ0.16m・P48－径0.28m，深さ0.17m・P49－径0.26m，深さ0.07m・P50－径0.22m，深さ0.07m・P51－径0.31m，深さ0.13m・P52－径0.25m，深さ0.21m・P53－径0.23m，深さ0.13m・P54－径

0.28m, 深さ 0.20m・P55-径 0.43m, 深さ 0.22m・P56-径 0.25m, 深さ 0.14m・P57-径 0.24m, 深さ 0.17m・P58-径 0.25m, 深さ 0.10m・P59-径 0.26m, 深さ 0.15m・P60-径 0.23m, 深さ 0.18m・P61-径 0.43m, 深さ 0.10m・P62-径 0.28m, 深さ 0.17m・P63-径 0.24m, 深さ 0.09m・P64-径 0.25m, 深さ 0.14m・P65-径 0.43m, 深さ 0.24m・P66-径 0.25m, 深さ 0.21m・P67-径 0.25m, 深さ 0.28m・P68-径 0.50m, 深さ 0.17m・P69-径 0.26m, 深さ 0.13m・P70-径 0.25m, 深さ 0.08m・P71-径 0.31m, 深さ 0.07m・P72-径 0.30m, 深さ 0.14m・P73-径 0.67m, 深さ 0.14m・P74-径 0.20m, 深さ 0.10m・P75-径 0.23m, 深さ 0.16m・P76-径 0.23m, 深さ 0.20m・P77-径 0.27m, 深さ 0.08m・P78-径 0.27m, 深さ 0.12m・P79-径 0.25m, 深さ 0.13m・P80-径 0.62m, 深さ 0.15m・P81-径 0.30m, 深さ 0.16m・P82-径 0.25m, 深さ 0.18m・P83-径 0.20m, 深さ 0.08m・P84-径 0.25m, 深さ 0.26m・P85-径 0.25m, 深さ 0.20m・P86-径 0.23m, 深さ 0.22m・P87-径 0.30m, 深さ 0.16m・P88-径 0.28m, 深さ 0.10m・P89-径 0.17m, 深さ 0.11m・P90-径 0.20m, 深さ 0.07m・P91-径 0.31m, 深さ 0.09m・P92-径 0.23m, 深さ 0.12m・P93-径 0.25m, 深さ 0.22m・P94-径 0.19m, 深さ 0.12m・P95-径 0.23m, 深さ 0.07m・P96-径 0.41m, 深さ 0.12m・P97-径 0.24m, 深さ 0.09m・P98-径 0.33m, 深さ 0.10m・P99-径 0.29m, 深さ 0.06m・P100-径 0.36m, 深さ 0.16m・P101-径 0.30m, 深さ 0.13m・P102-径 0.47m, 深さ 0.23m・P103-径 0.48m, 深さ 0.15m・P104-径 0.30m, 深さ 0.09m・P105-径 0.20m, 深さ 0.12m・P106-径 0.14m, 深さ 0.09m・P107-径 0.22m, 深さ 0.21m・P108-径 0.58m, 深さ 0.15m・P109-径 0.26m, 深さ 0.16m・P110-径 0.21m, 深さ 0.19m・P111-径 0.23m, 深さ 0.25m・P112-径 0.22m, 深さ 0.10m・P113-径 0.22m, 深さ 0.14m・P114-径 0.18m, 深さ 0.20m・P115-径 0.20m, 深さ 0.09m・P116-径 0.19m, 深さ 0.17m・P117-径 0.26m, 深さ 0.10m・P118-径 0.30m, 深さ 0.30m

遺構外遺物

調査区内の竪穴建物跡埋土や床構築土中から縄文時代の遺物が僅かに出土している。本遺跡の立地する沖積段丘上では縄文時代の遺構・遺物の発見は極めて少ないが、過去の調査で縄文時代晩期を中心とする遺構が確認されている。本調査で縄文土器の破片が出土したのは、R A683・686 竪穴建物跡であり、いずれも周辺からの流入とみられる。

出土遺物 (第 54 図 8) 8 は縄文時代晩期の深鉢で、頸部～体部上半である。頸部は無文で、体部には L R 単節縄文を横位に施す。外面には煤状炭化物、内面には輪積痕が観察される。

Ⅲ 調査のまとめ

台太郎遺跡第 80 次調査の結果、奈良時代の竪穴建物跡 4 棟 (R A 671~673・679)、土坑 2 基 (R D 2186・2187)、平安時代の竪穴建物跡 27 棟 (R A 674~678・680~701)、掘立柱建物跡 1 棟 (R B 142)、土坑 5 基 (R D 2188~2192)、古代以降の土坑 20 基 (R D 2193~2212)、溝跡 7 条 (R G 616~622)、ピット 118 口が検出された。

遺構・遺物 奈良時代の竪穴建物跡は調査区中央から北に点在し、出土遺物から 8 世紀中葉の年代が考えられるのは、R A 673・679 竪穴建物跡である。また、8 世紀後葉（もしくは 8 世紀後葉～9 世紀前葉）と考えられるのは、R A 671・672 竪穴建物跡である。その後の 9 世紀代の竪穴建物群の構築によって住居の平面形が確認できるのは、R A 673 竪穴建物跡のみである。規模は一辺 2.4m の小型住居で、カマドは北西方向に構築され、本遺跡で検出されている奈良時代の竪穴建物跡の主たるカマド方向と共通する。カマド基底部は礫を構築材として使用し、煙道は刳り貫き式のトンネル状である。

出土遺物や遺構の重複関係から奈良時代（8 世紀）と考えられる土坑は R D 2186・2187 である。R D 2186 土坑の底面には土師器甕が倒立の状態で見られ、その周辺には熱浸透層が認められ、土坑内で火を焚いた可能性が考えられる。R D 2187 土坑からは土師器杯・甕とともに土製紡錘車が出土している。

平安時代 平安時代の竪穴建物跡は、調査区内のほぼ全域に広がっている。9 世紀中葉と考えられるのは、R A 682・695・697・699・700 の 5 棟である。規模は小型住居の R A 695 竪穴建物跡が一辺 2.4~2.9m、中型住居の R A 682・697・699・700 竪穴建物跡が一辺 3.0~4.3m である。R A 700 竪穴建物跡は東西に煙道があり、カマドの造り替え（西→東）が認められる。カマド方向は、北西カマドが R A 682・700（Ⅱ期）竪穴建物跡、西カマドが R A 695・697 竪穴建物跡、東カマドは R A 700（Ⅰ期）竪穴建物跡、また R A 697 竪穴建物跡はカマド未検出であるが、建物内のカマド崩壊土から東カマドと想定される。R A 682・695 竪穴建物跡のカマド基底部は小礫を構築材として使用している。R A 700 竪穴建物跡は壁際の一部に周溝があり、カマドの煙道は刳り貫き式のトンネルである。

9 世紀中葉～後葉の年代が考えられる竪穴建物跡は、R A 681・691・693・696 の 4 棟である。規模は小型住居の R A 696 竪穴建物跡が一辺 2.6~3.0m、中型住居の R A 681・691・693 竪穴建物跡が一辺 3.8~4.8m である。カマド方向が確認できるのは、北西カマドの R A 696 竪穴建物跡のみであるが、R A 693 竪穴建物跡内のカマド火床面の可能性がある熱浸透層の位置と建物の平面形から北西カマドと想定される。いずれもカマドは人為的に壊されている。R A 696 竪穴建物跡の床構築土を精査中に北東隅の床面下からピットを検出し、その底面には炭化物とともに須恵器長頸瓶の口縁部～頸部を伏せて埋納した事例が確認された。住居内の埋納方角、床下に存在することから建物構築時の地鎮と考えられる。

9 世紀後葉と考えられる竪穴建物跡は、R A 674・675・676・677・678・680・683・

684・686・687・690・692・694・701 の 14 棟で、本調査で検出した竪穴建物の主体を占める。8 世紀中葉から 9 世紀中葉にかけて、竪穴建物跡の重複は認められないが、9 世紀後葉になると重複が認められ、とくに調査区北では重複が激しい。規模は中型住居の R A 674・675・676・677・678・683・690・692・694・701 竪穴建物跡が一辺 3.2～6.1m、大型住居の R A 680・686・687 竪穴建物跡が一辺 6.1～8.3m である。一辺 3.0m 未満の小型住居は確認されない。カマド方向は、東カマドが R A 674・675・677・683 竪穴建物跡、南東カマドが R A 678・686 竪穴建物跡、北東カマドが R A 687 竪穴建物跡、北西カマドが R A 690 竪穴建物跡、北カマドが R A 694 竪穴建物跡、西カマドが R A 701 竪穴建物跡と多岐にわたる。このうち、R A 677・678・683・686・687・701 竪穴建物跡はカマド基底部が残存し、R A 678 竪穴建物跡は構築材として礫と土師器甕、R A 683・686・687 竪穴建物跡は礫を使用している。基底部が残存しないカマドは意図的に壊していると考えられる。R A 676・677 竪穴建物跡は、床面近くに炭化した建築部材や多量のカーボンを含む焼土層が一面に広がっており、焼失家屋の可能性が考えられる。R A 675 竪穴建物跡から墨書で「木」と記された土師器坏が出土している。この「木」銘墨書・刻書土器は第 18・23・51・54 次調査でも出土しており、本遺跡を代表する文字とされている。南に位置する細谷地遺跡では「大」、西側に位置する本宮熊堂 B 遺跡では「成」の文字が出土し、これらは他の遺跡で出土していないことが挙げられる。また、支柱穴のピット 2 には柱材が残存し、残存長 71.5cm、最大径 8cm で、先端部を削って尖らせている。樹種は未鑑定で不明である。

9 世紀後葉～10 世紀初頭の年代が考えられるのは、R A 688 竪穴建物跡である。十和田 a 火山灰（西暦 915 年降灰）と考えられる灰白色火山灰が、二次堆積であるが埋土上層から床面までの各層に含まれている。隣接する遺構との切り合い関係では、R A 685 竪穴建物跡（9 世紀代）と R A 686 竪穴建物跡（9 世紀後葉）より新しい。規模は一辺 5m 前後の中型住居で、カマドは検出されていないがカマド火床面の可能性がある熱浸透層の位置と建物の平面形から西もしくは南西カマドと想定される。

調査区南で 9 世紀と考えられる R B 142 掘立柱建物跡を検出している。1×1 間の東西棟で、北北西に傾きをもつ。同様の傾きのある竪穴建物跡は周辺では認められず、建物の性格も不明である。9 世紀の年代が考えられる土坑は R D 2188・2189・2190・2191・2192 の 5 基で、調査区中央から北に分布する。規模やタイプは多岐にわたり、個々の用途は異なっていると考えられる。

古代以降

R A 673 竪穴建物跡の最終堆積層から流れ込みと考えられる手捏ねのかわらけ破片が出土し、年代は 12 世紀と考えられる。12 世紀後半には遺跡南東部で堀跡による区画施設が営まれ、遺跡北東部では経塚の経筒外容器の可能性のある渥美産の灰釉小型壺が出土しており、それらとの関連性が考えられる。

まとめ

調査事例の少ない遺跡東部での調査で、奈良時代（8 世紀中葉～後葉）、平安時代（9 世紀中葉～10 世紀初頭）の竪穴建物跡が合計 31 棟確認され、総数 700 棟を超えた。本調査では平安時代の複数の竪穴建物跡が重なり合っており、建物跡が密集する遺跡西部、中央～北部と同様な傾向が認められ、遺跡東部の集落の様相を明らかにできた。

表

図	番号	写真 図版	遺構名	形態		出土		寸法(cm)※完形・復元のみ					底部切離等	器面調整		墨書等・特徴	
				区分	器種	平面位置	層位	器高	口径	口径	口径	口径/底径		口径/器高	外面		内面
41	10	12	RA674	土製品	ミニチュア土器	貯蔵穴、F-1-V7	E	-	-	3.3	2.8	/	/	-	ヘラミガキ、押圧	-	
41	11	12	"	土製品	ミニチュア土器	貯蔵穴、F-1-V7	E	1.2	1.8~ 3.9	-	-	/	/	-	-	-	舟形

第5表 台太郎遺跡第80次調査出土遺物観察表 土製品(1)

図	番号	写真 図版	遺構名	形態		出土		寸法(cm)		形状	特徴
				区分	器種	平面位置	層位	全長	断面径		
41	12	12	RA674	土製品	土錘	貯蔵穴、F-1-V7	F	4.5	0.8~1.9	杏仁型	穿孔
54	4	16	RD2187	土製品	紡錘車	F-1-W8	A2	3.5~4.5	2.5	断面台形	奈良、中央穿孔、全面ヘラミガキ

第6表 台太郎遺跡第80次調査出土遺物観察表 土製品(2)

図	番号	写真 図版	遺構名	形態		出土		寸法(cm)			特徴
				区分	器種	平面位置	層位	全長	最大幅	断面径	
42	16	15	RA675	石製品	砥石	F-1-W6	D2	18.4	8.3	4.6~7.3	短冊形、4面磨面、溶岩質安山岩
49	12	15	RA688	石製品	砥石	G-1-D9	B	-	8.6	3.7~4.4	短冊形(破片)、2面磨面、切削、砂質凝灰岩
53	9	15	RA700	石製品	砥石	G1-F3	床面	16.1	5.4	3.7~5.4	短冊形、4面使用痕、切削、砂質凝灰岩

第7表 台太郎遺跡第80次調査出土遺物観察表 石製品

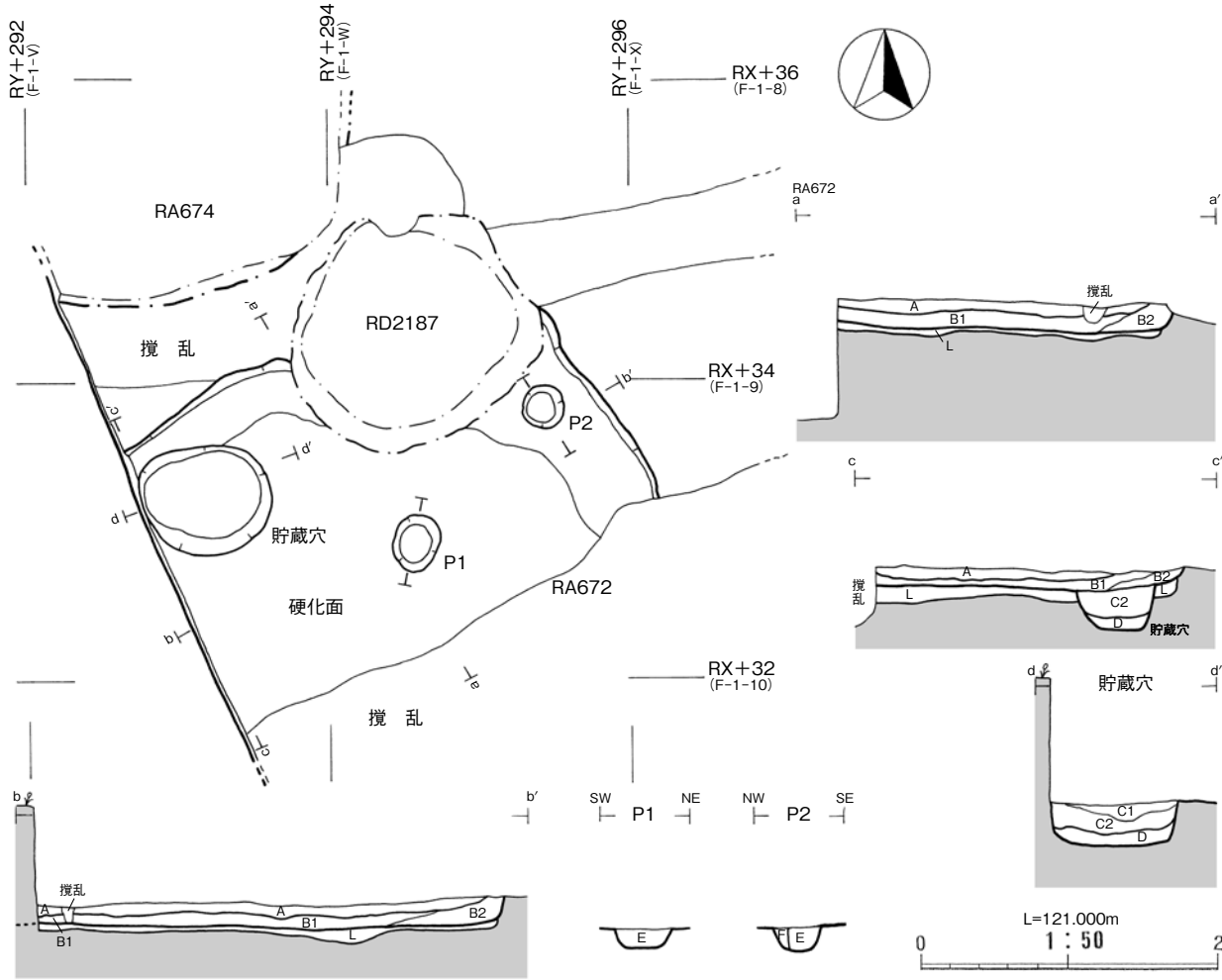
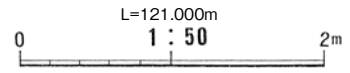
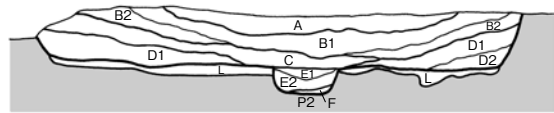
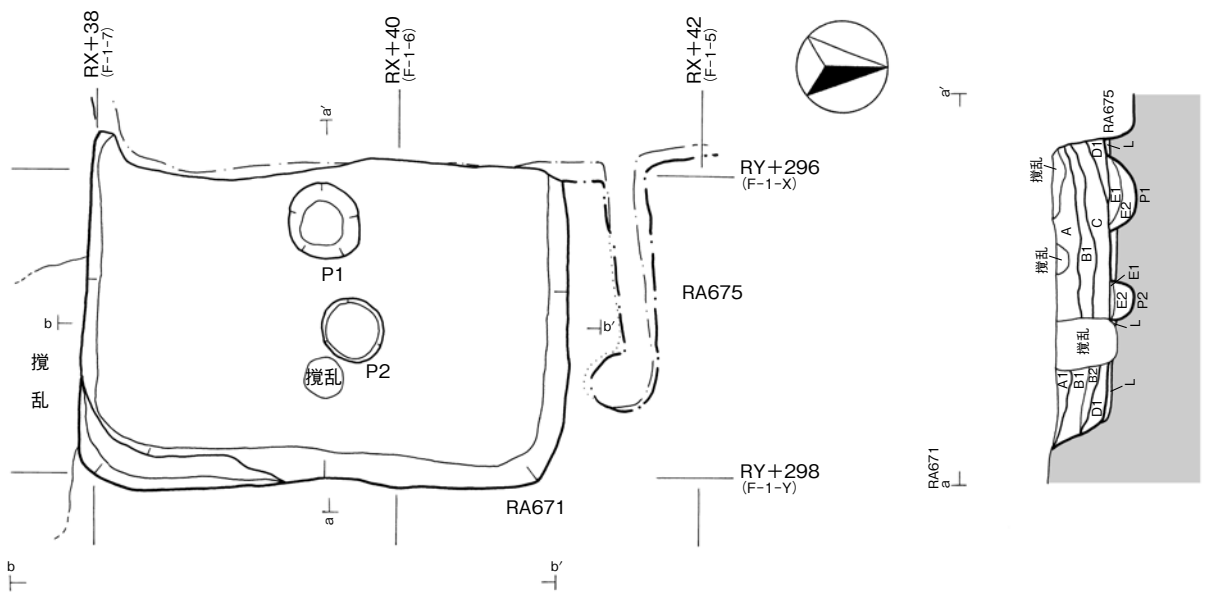
図	番号	写真 図版	遺構名	形態		出土		寸法(cm)			特徴
				区分	器種	平面位置	層位	全長	最大幅	断面径	
50	6	14	RA691	鉄製品	小刀	G-1-F13	B	13.4	2.4	0.5	切先~刃部、茎欠損

第8表 台太郎遺跡第80次調査出土遺物観察表 鉄製品

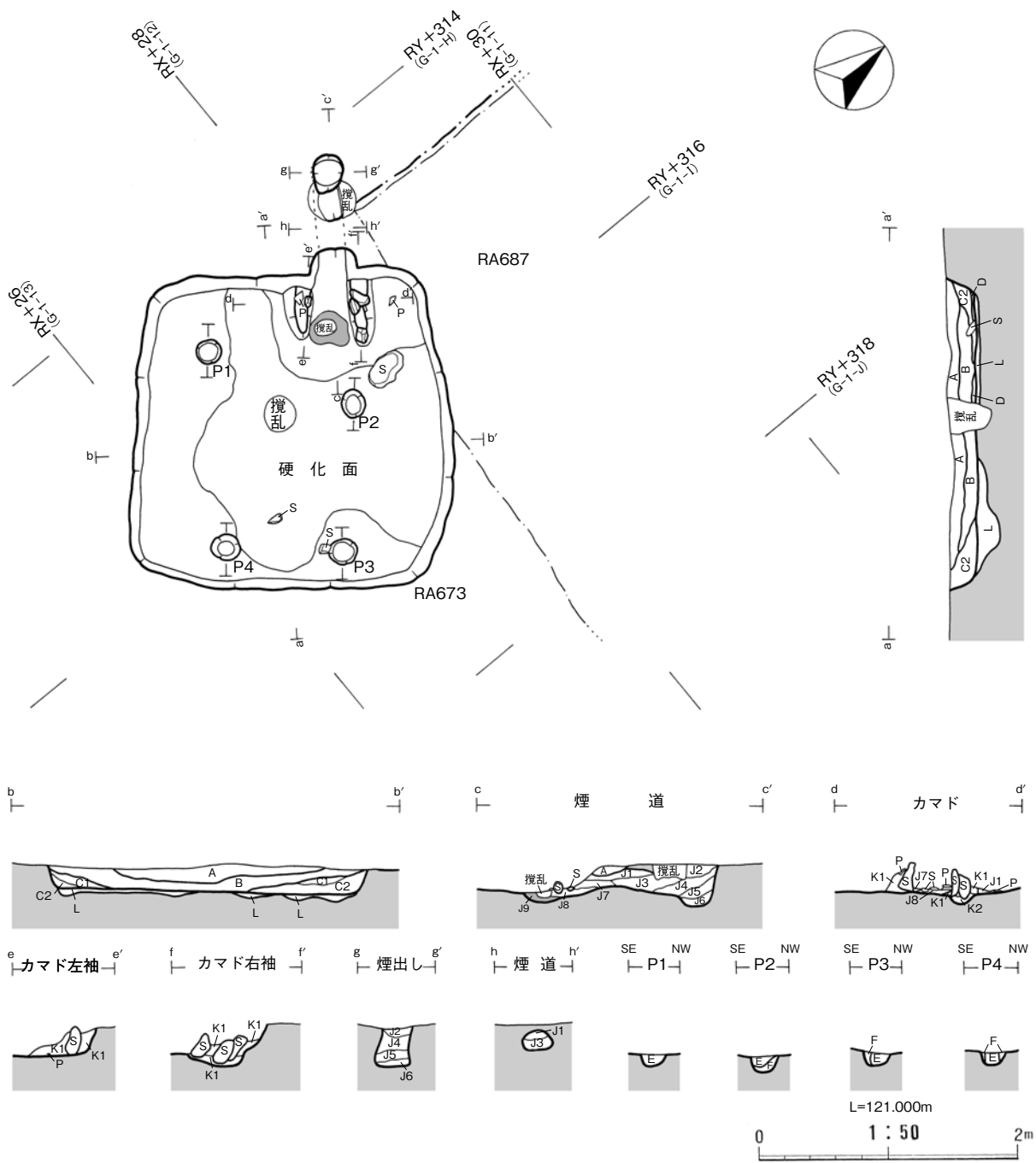
図	番号	写真 図版	遺構名	形態		出土		寸法(cm)			特徴
				区分	器種	平面位置	層位	全長	最大幅	断面径	
54	6	16	RD2212	磁器	-	G1-J4	A2	2.8	2.8	1.2	染付「別當塚」(4面)、将棋駒状、近世以降

第9表 台太郎遺跡第80次調査出土遺物観察表 磁器

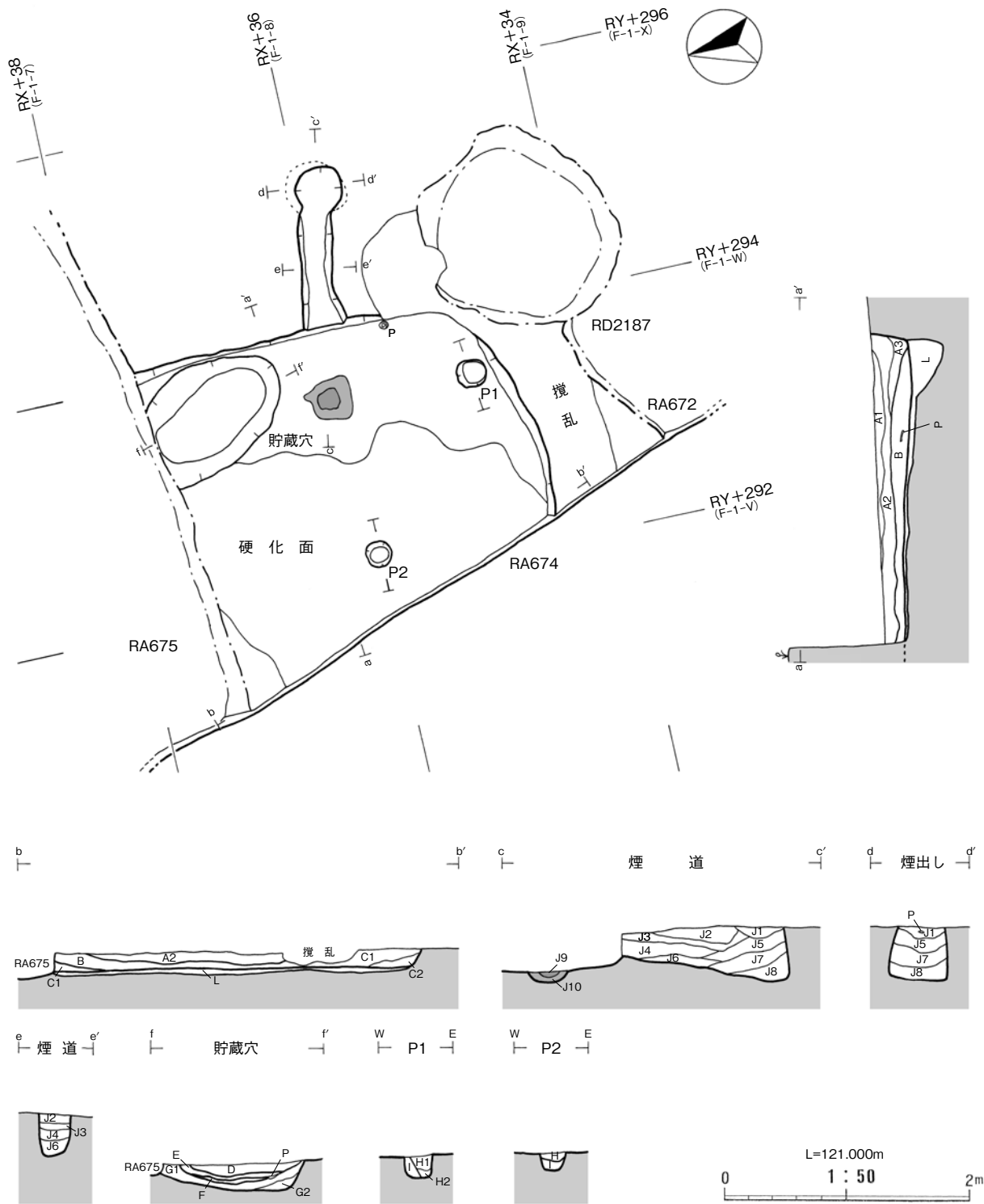
遺 構 図 版



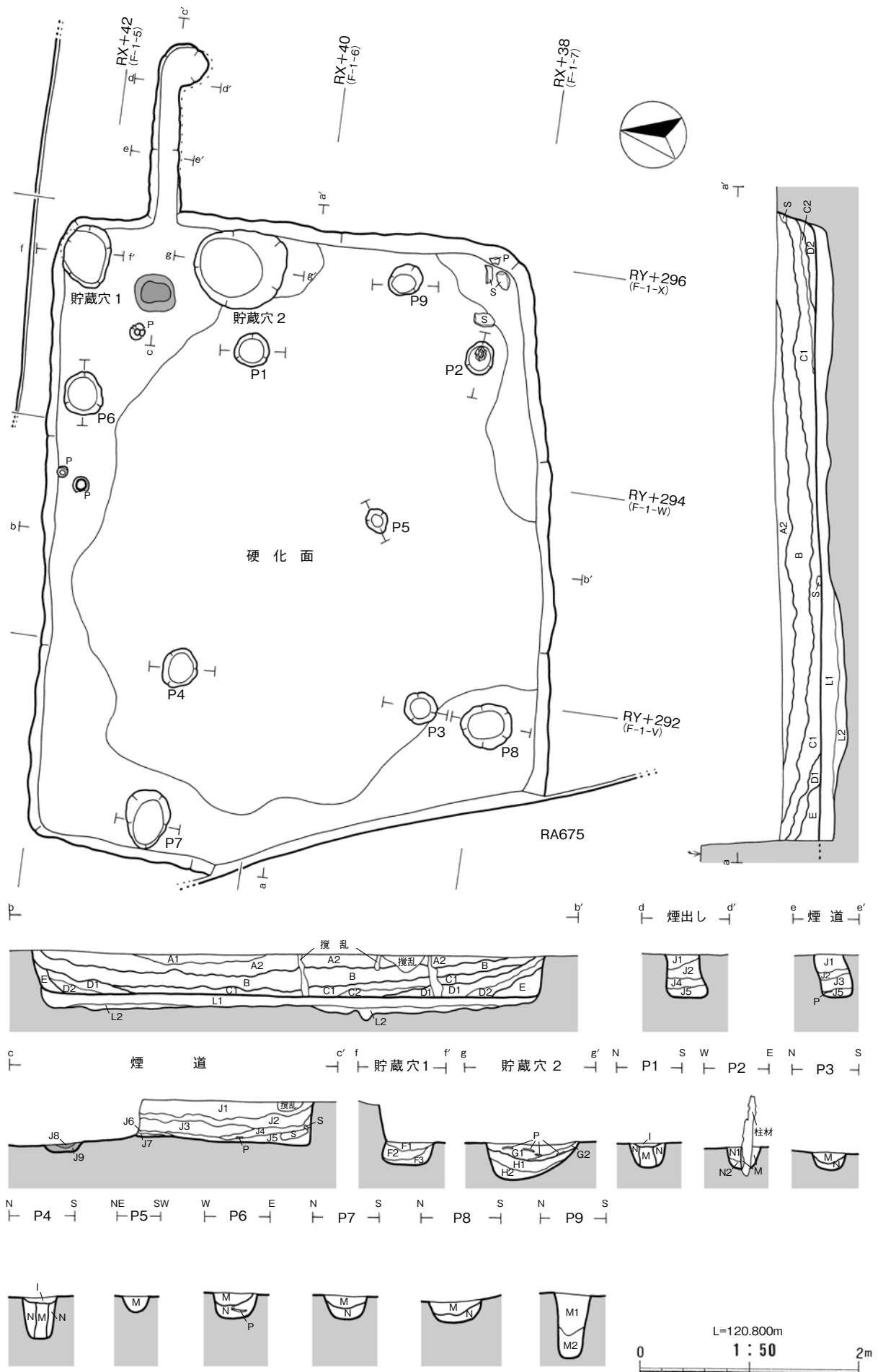
第6图 RA671·RA672 竖穴建物跡



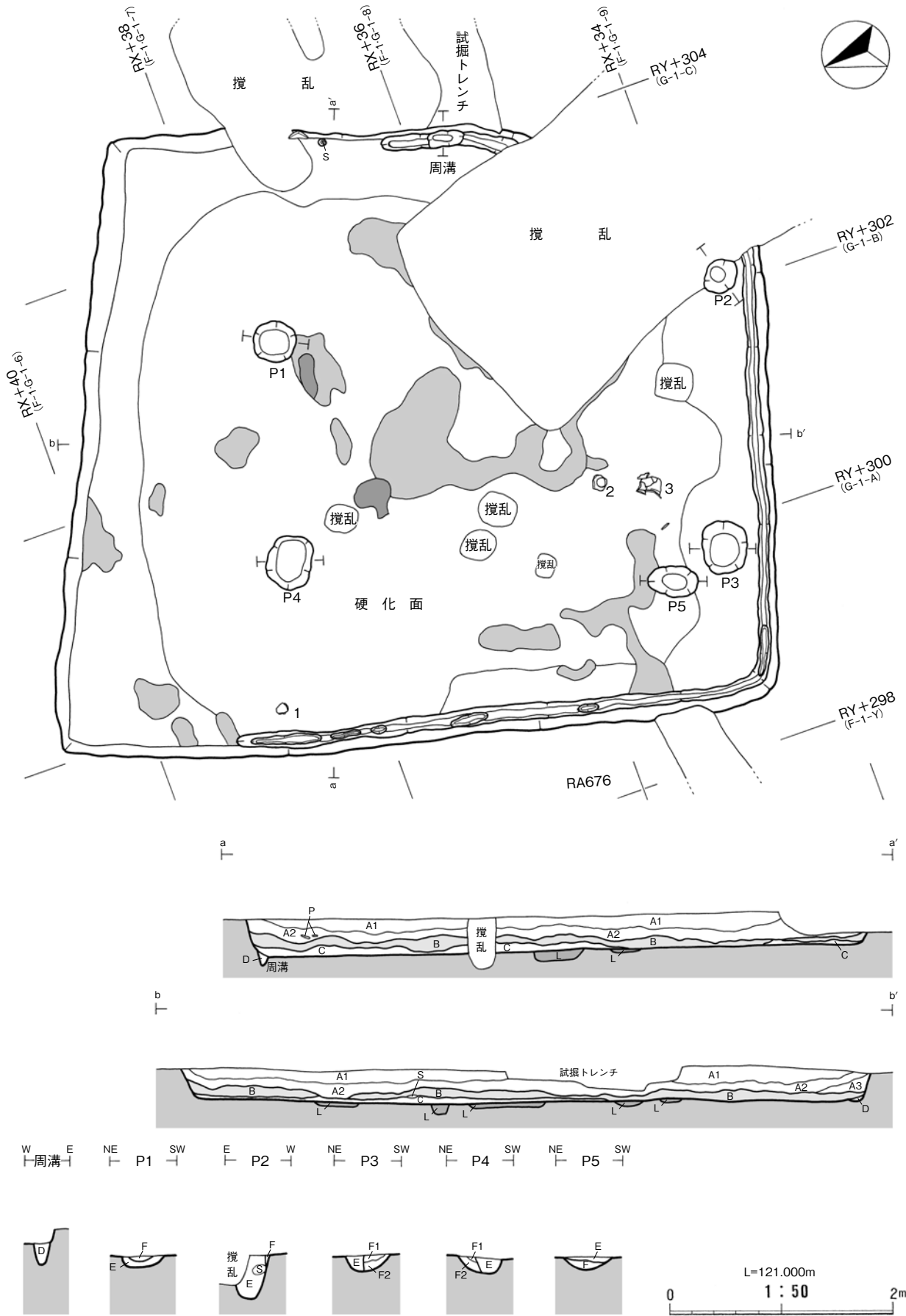
第7図 RA673 竪穴建物跡



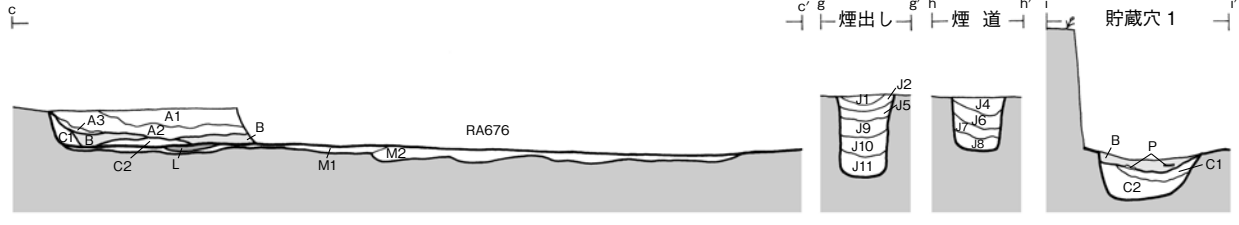
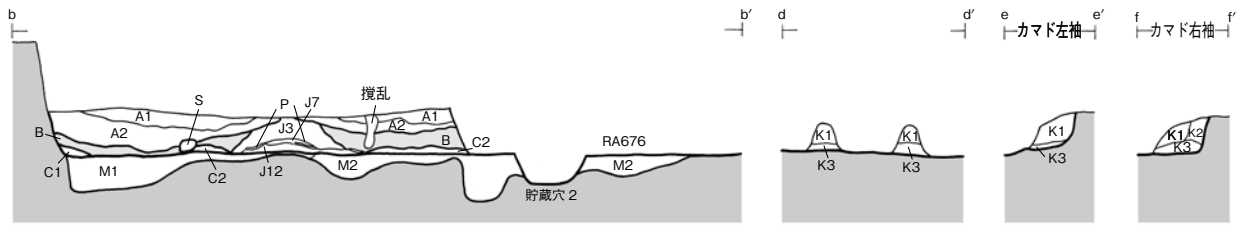
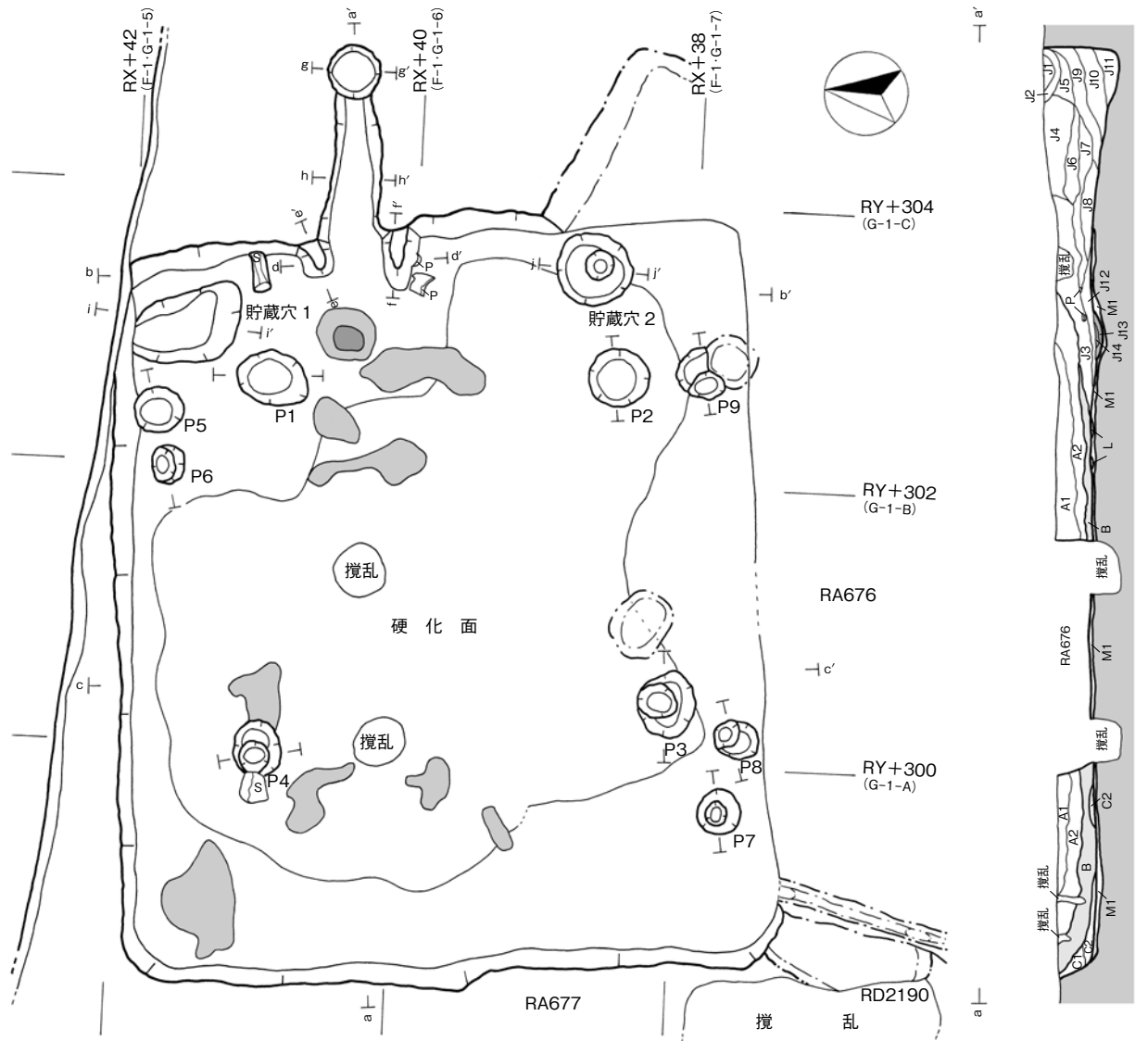
第8図 RA674 豎穴建物跡



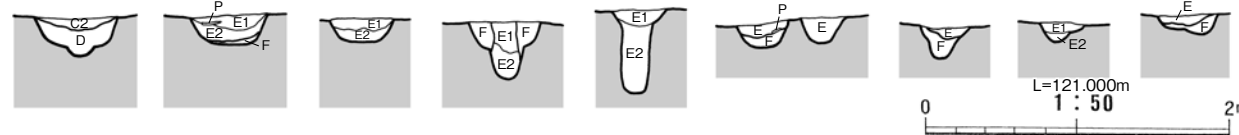
第9図 RA675 竪穴建物跡



第10図 RA676 竪穴建物跡

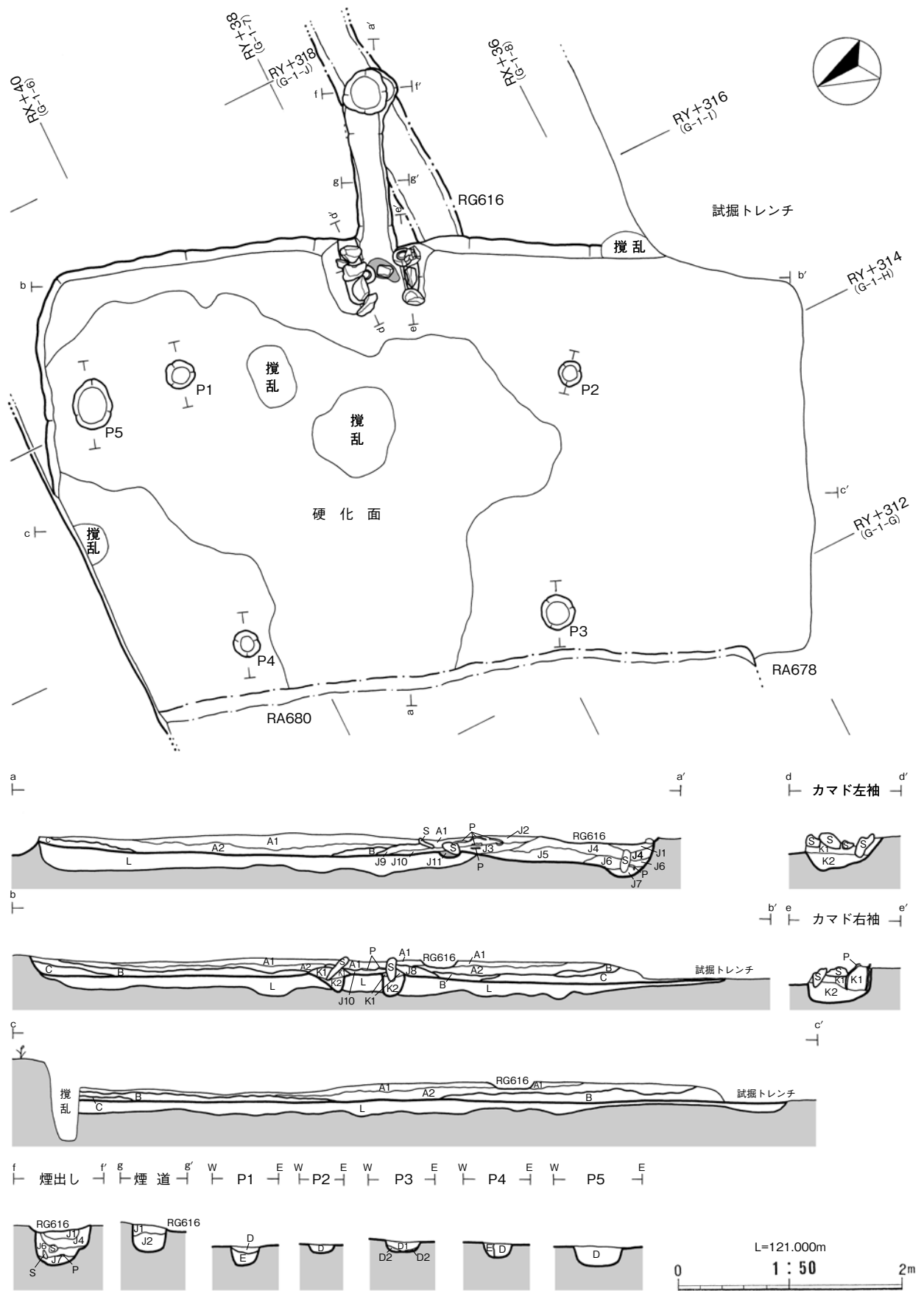


i 貯蔵穴 2 j' N P1 S W P2 E W P3 E N P4 S NE P5 P6 SW W P7 E NE P8 SW NE P9 SW

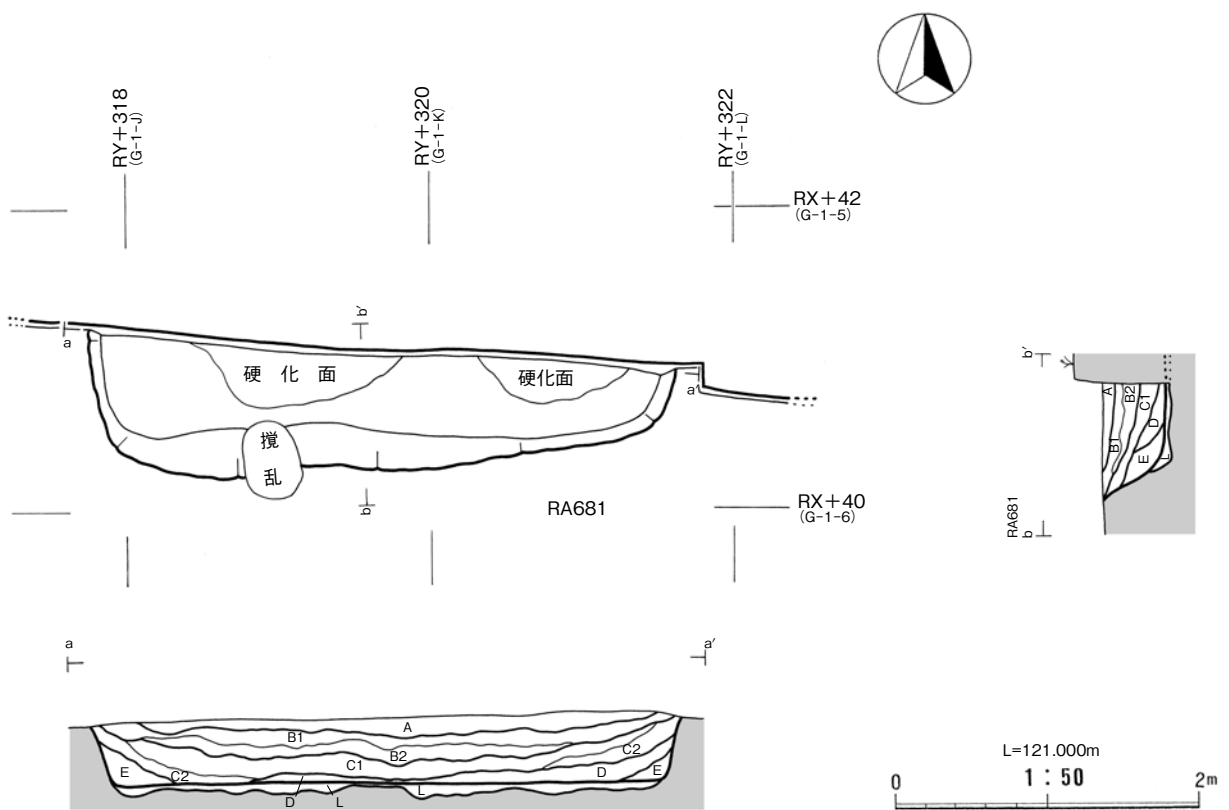
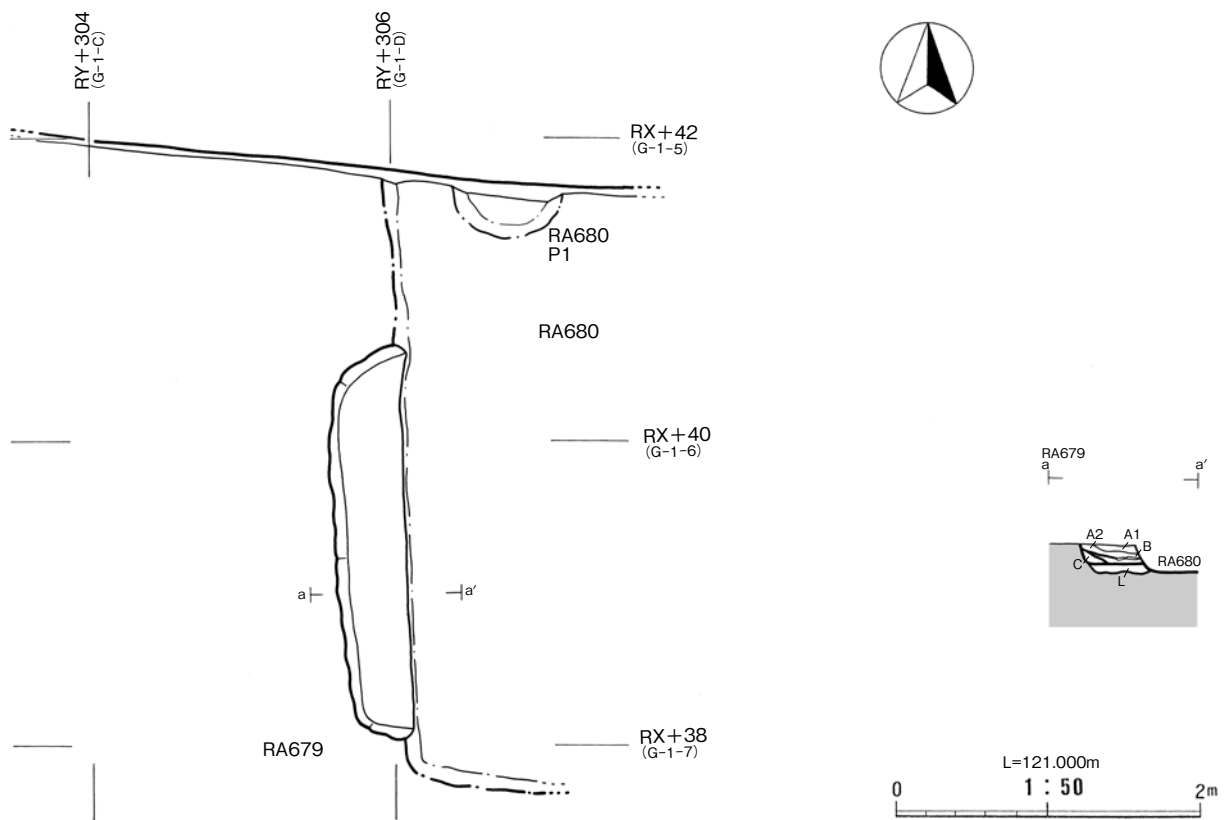


L=121.000m
 1 : 50
 0 2m

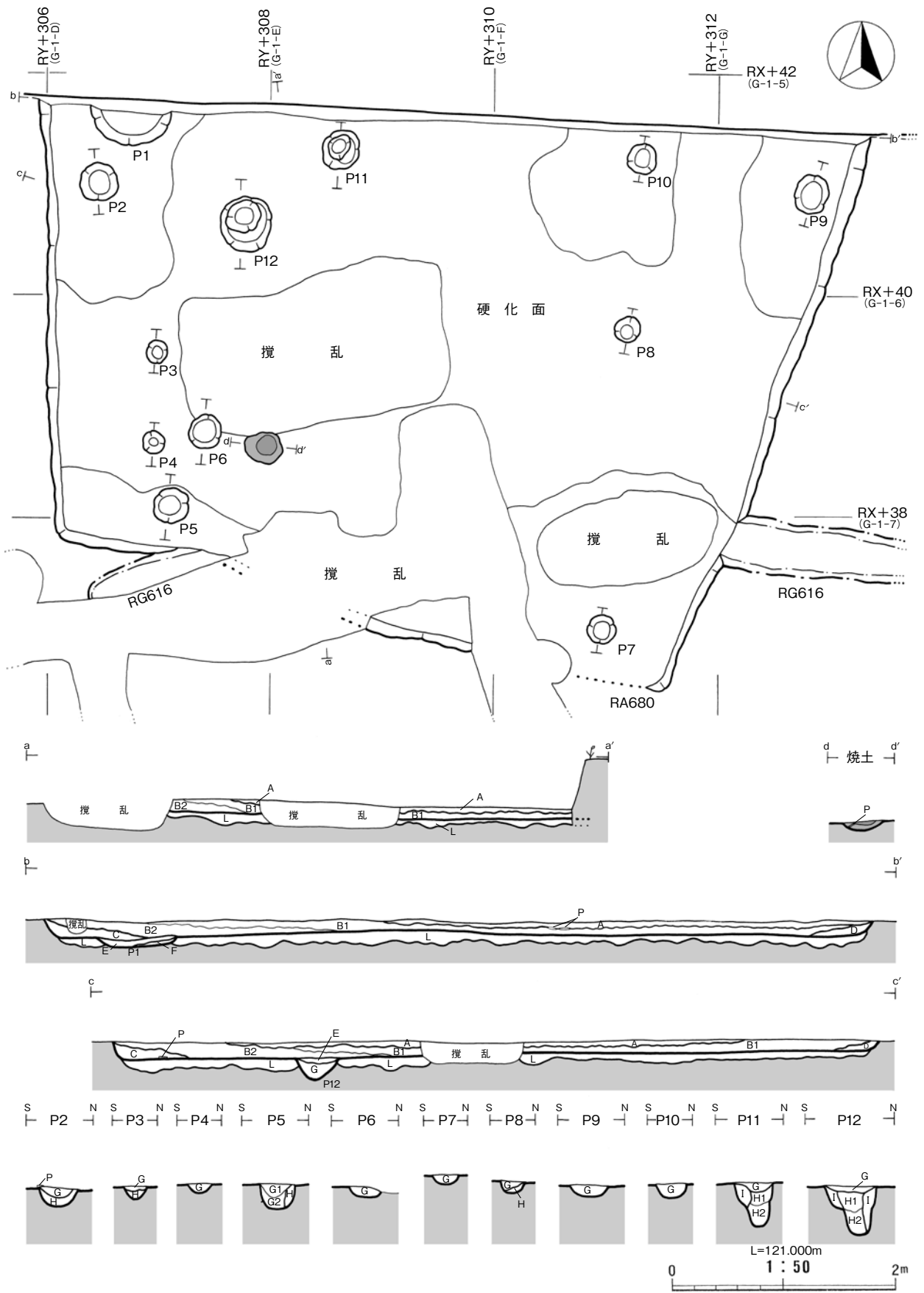
第11図 RA677 竪穴建物跡



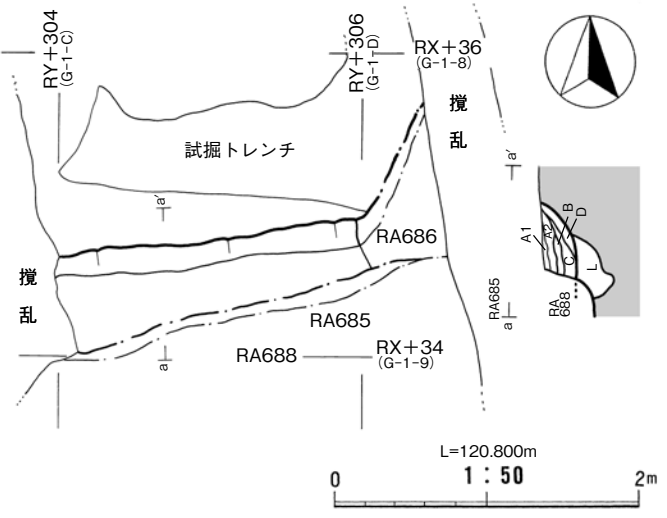
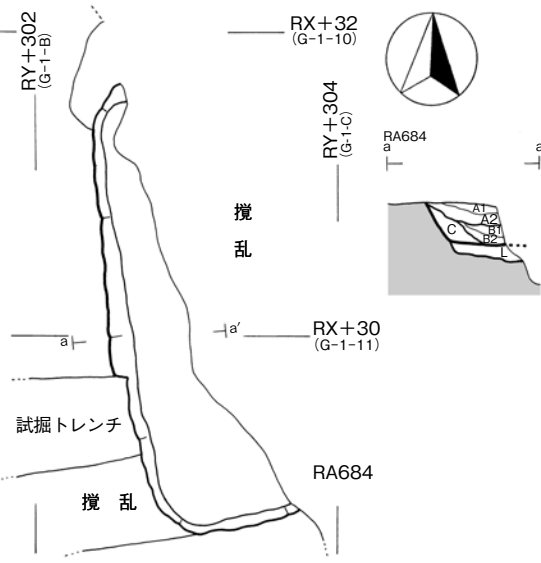
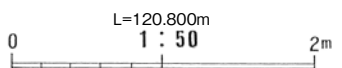
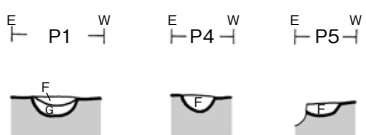
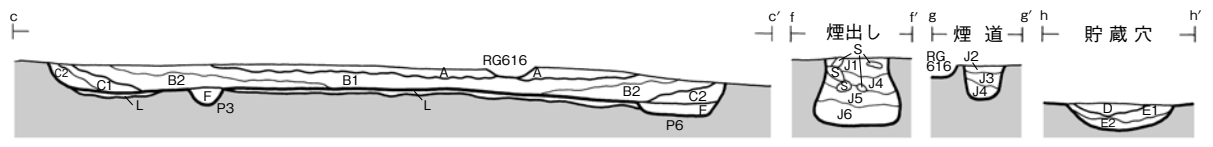
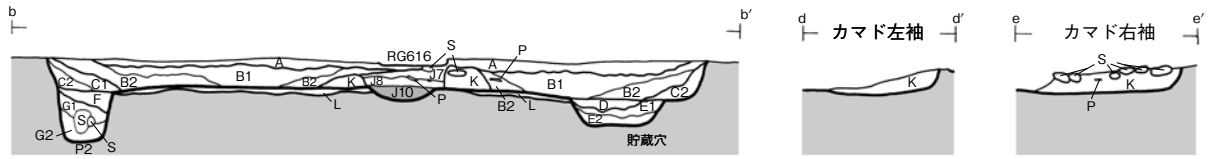
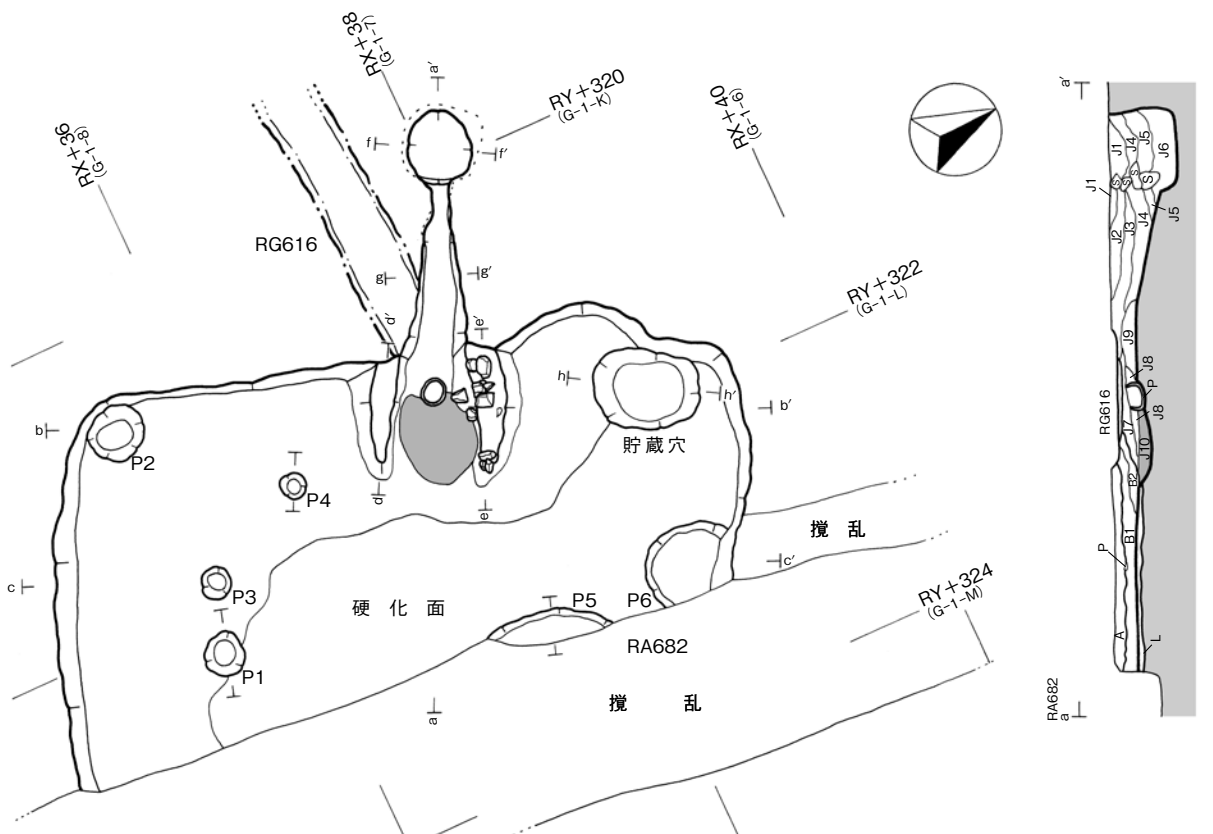
第12図 RA678 竪穴建物跡



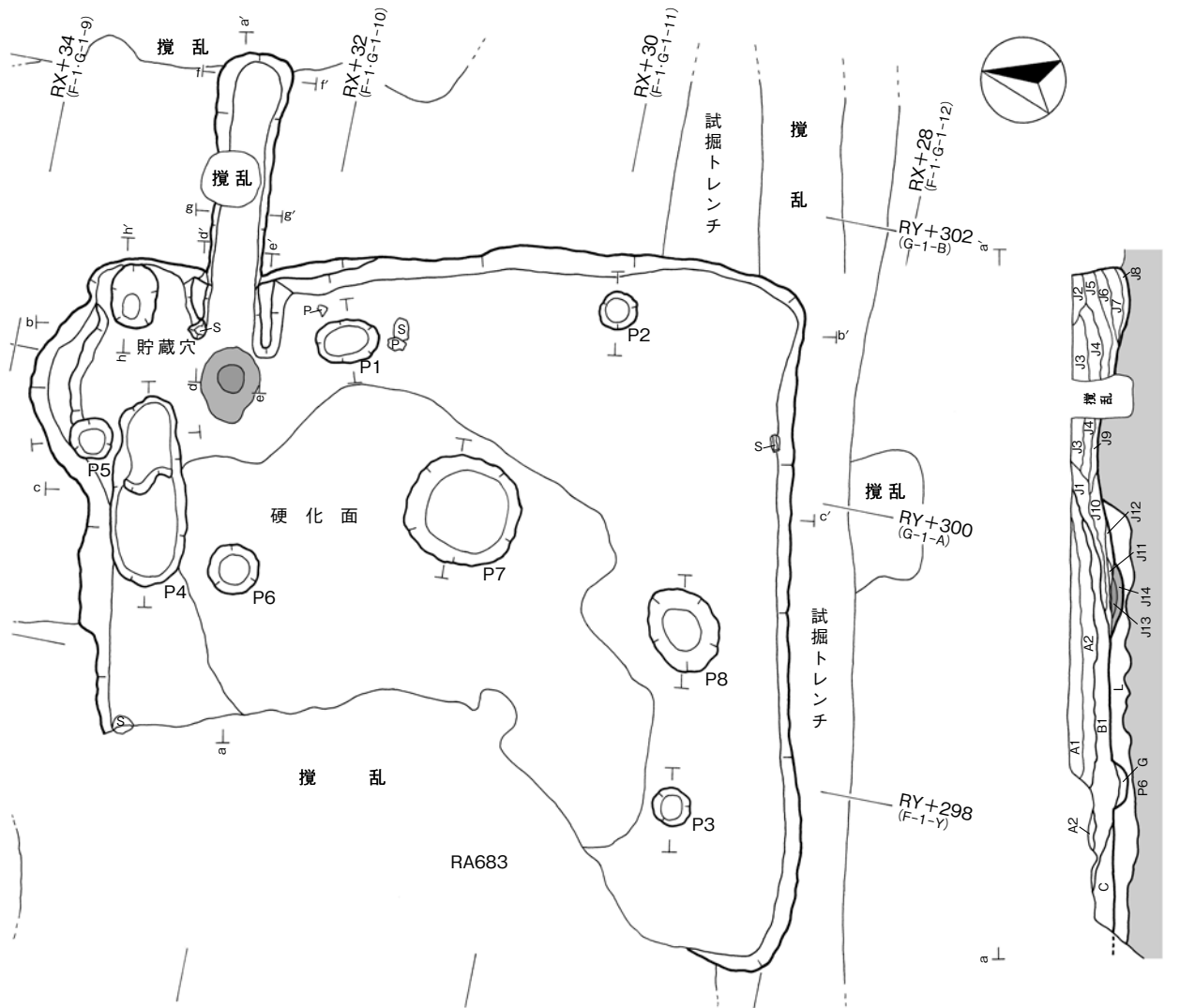
第13図 RA679・681 竪穴建物跡



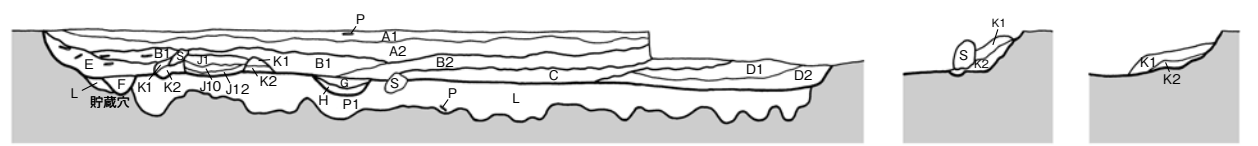
第14図 RA680 竪穴建物跡



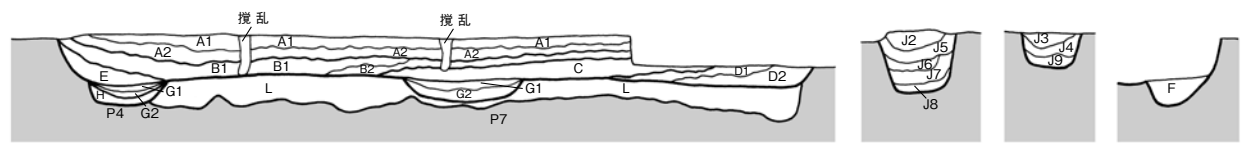
第15図 RA682・684・685 竪穴建物跡



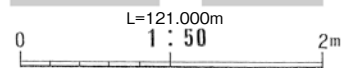
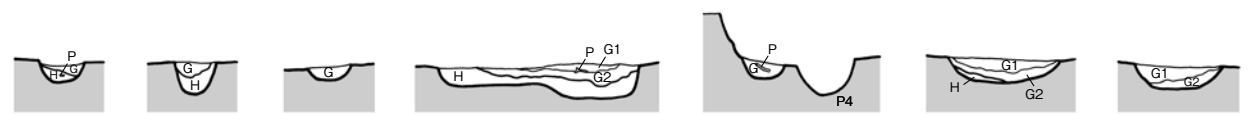
b | b' | d | カマド左袖 | d' | e | カマド右袖 | e'



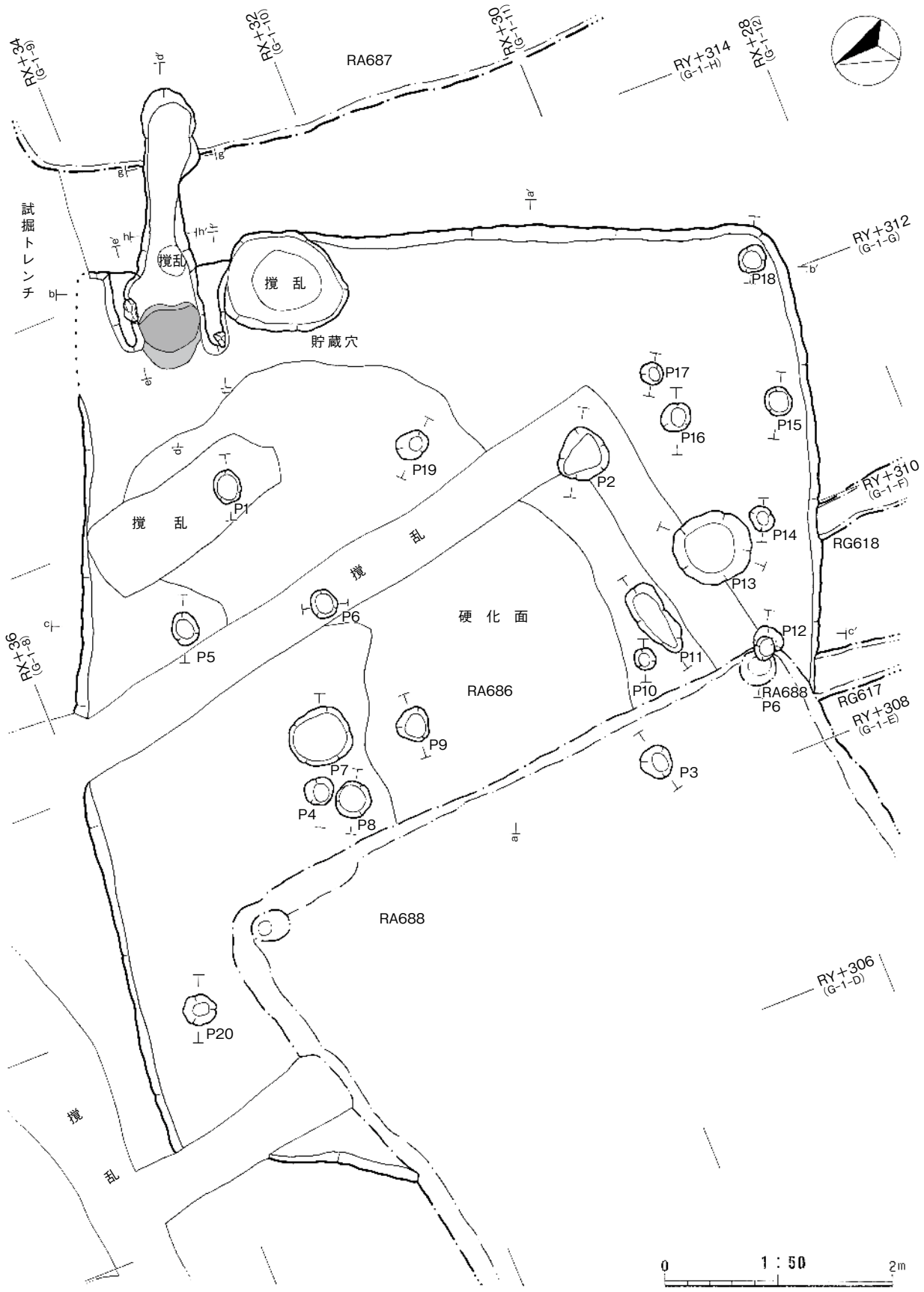
c | c' | f | 煙出し | f' | g | 煙道 | g' | h | 貯蔵穴 | h'



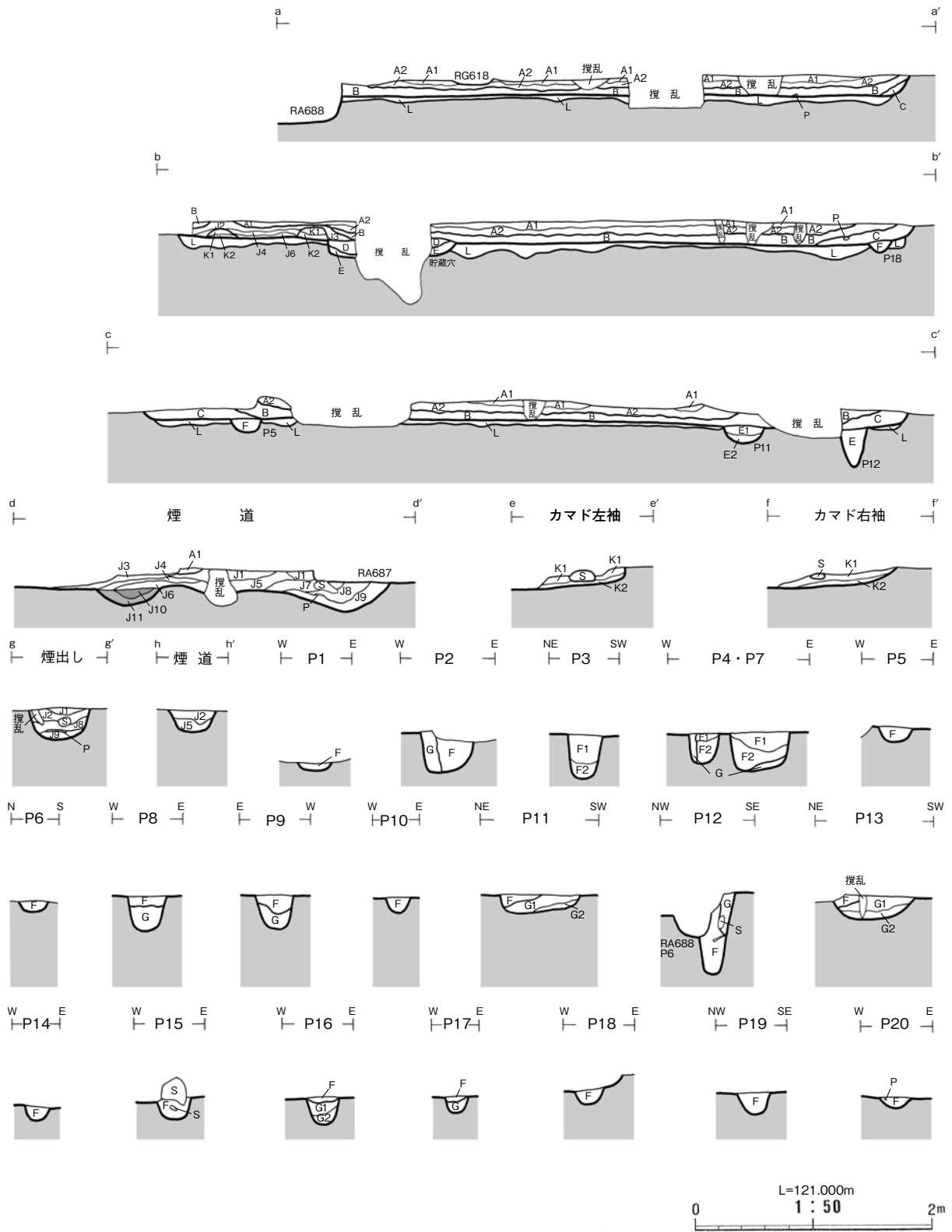
W | P1 | E | W | P2 | E | W | P3 | E | W | P4 | E | N | P5 | S | W | P7 | E | W | P8 | E



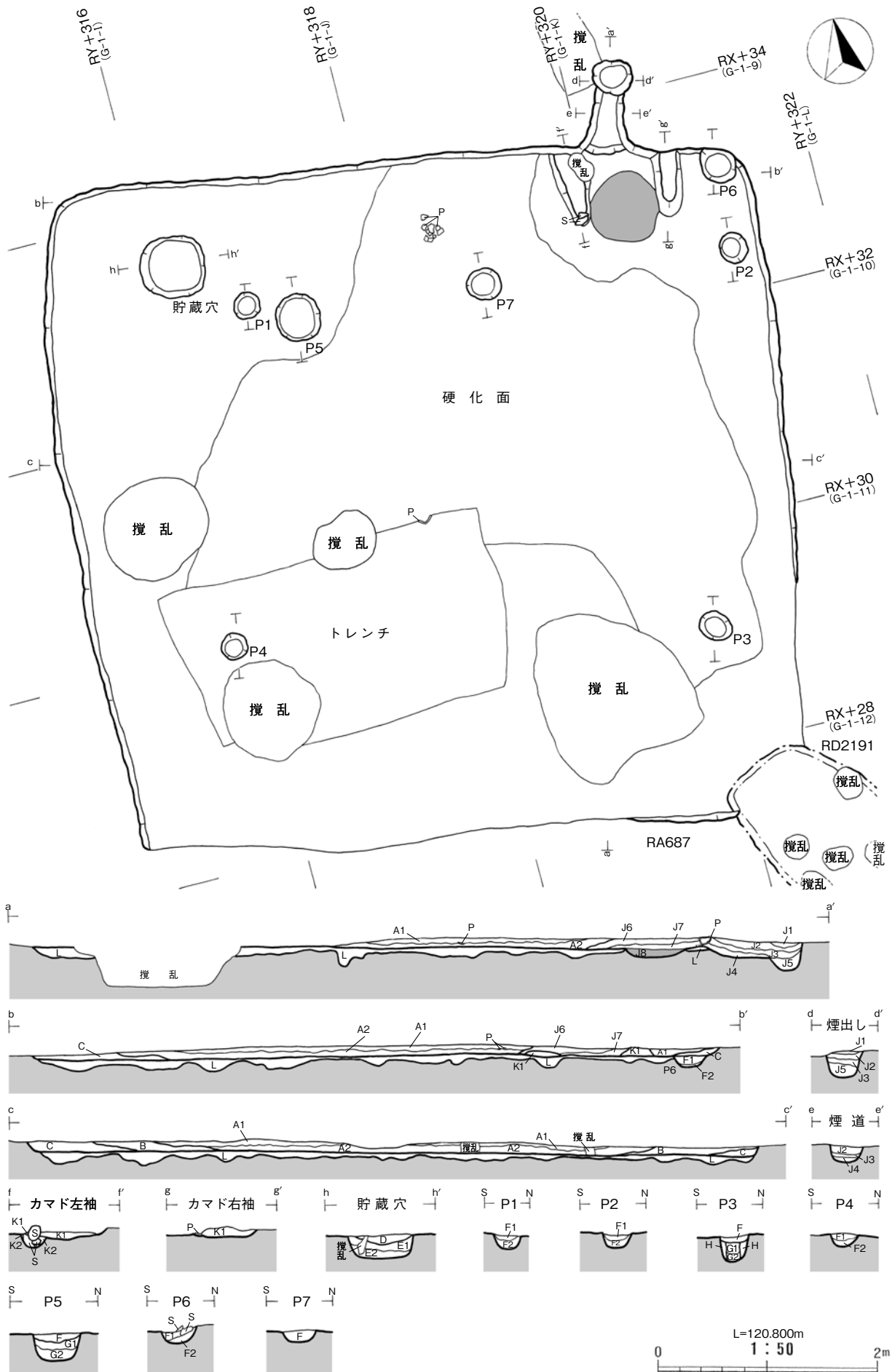
第16図 RA683 竪穴建物跡



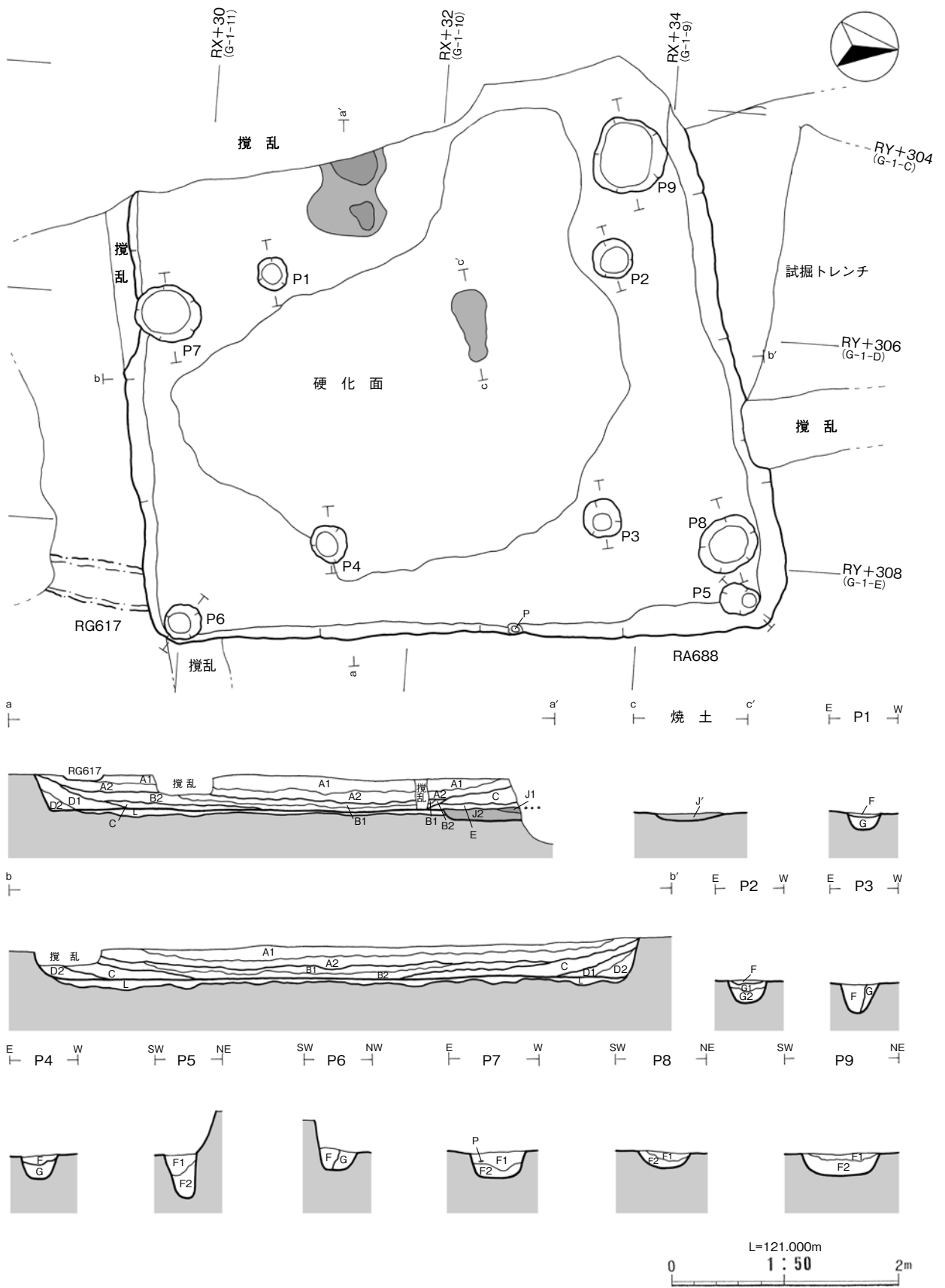
第17図 RA686 豎穴建物跡 (1)



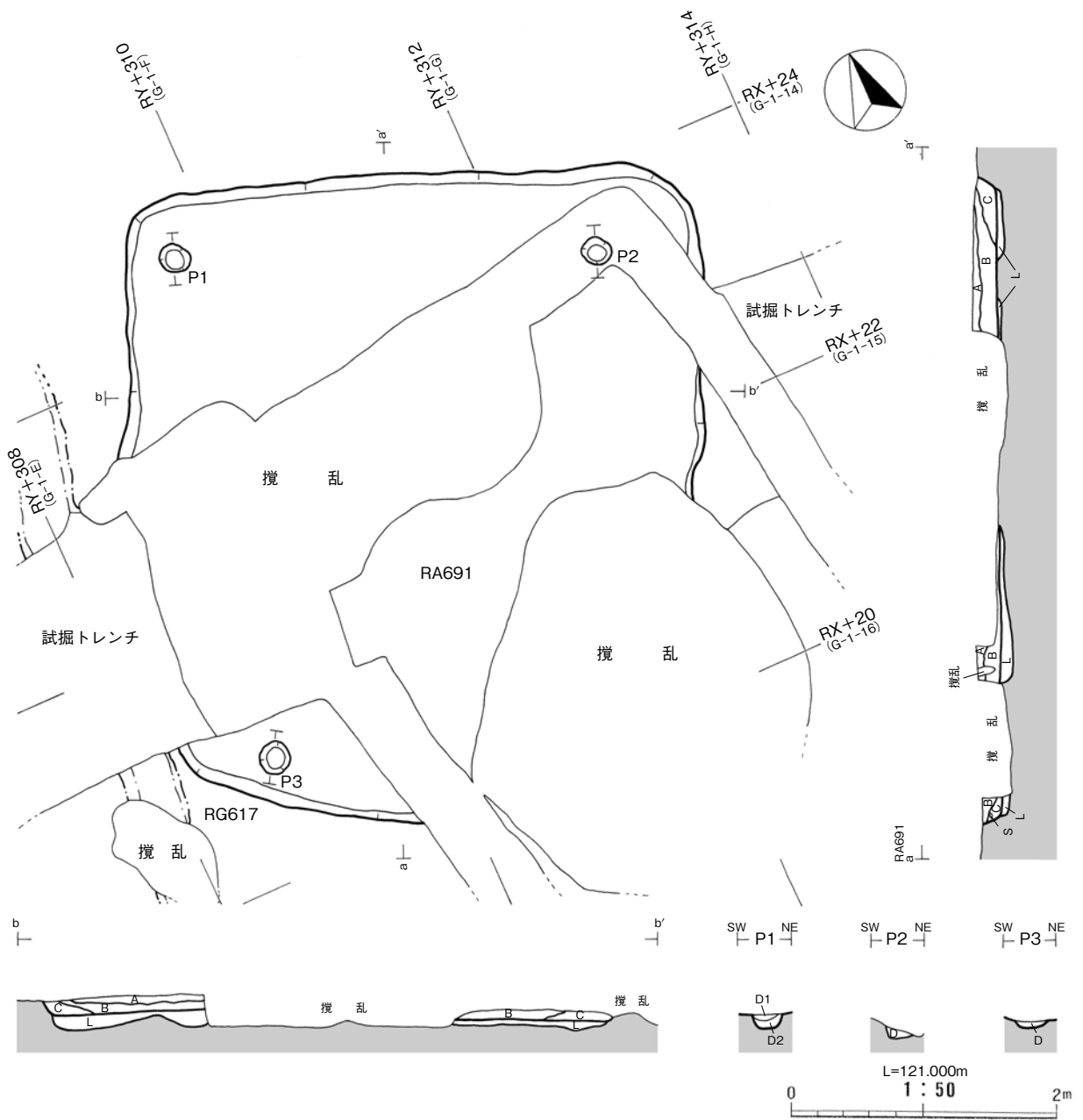
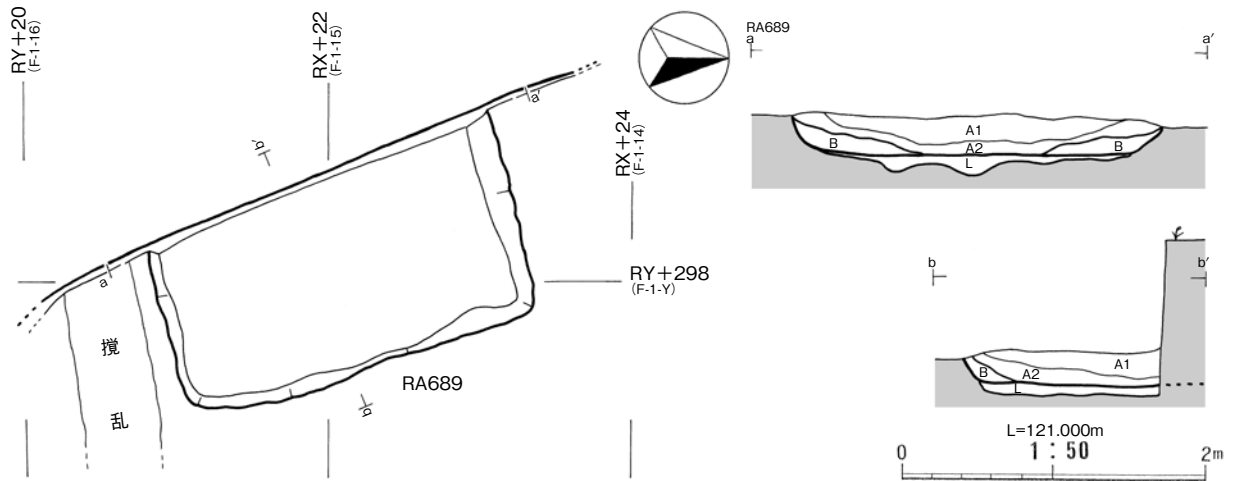
第18図 RA686 竪穴建物跡 (2)



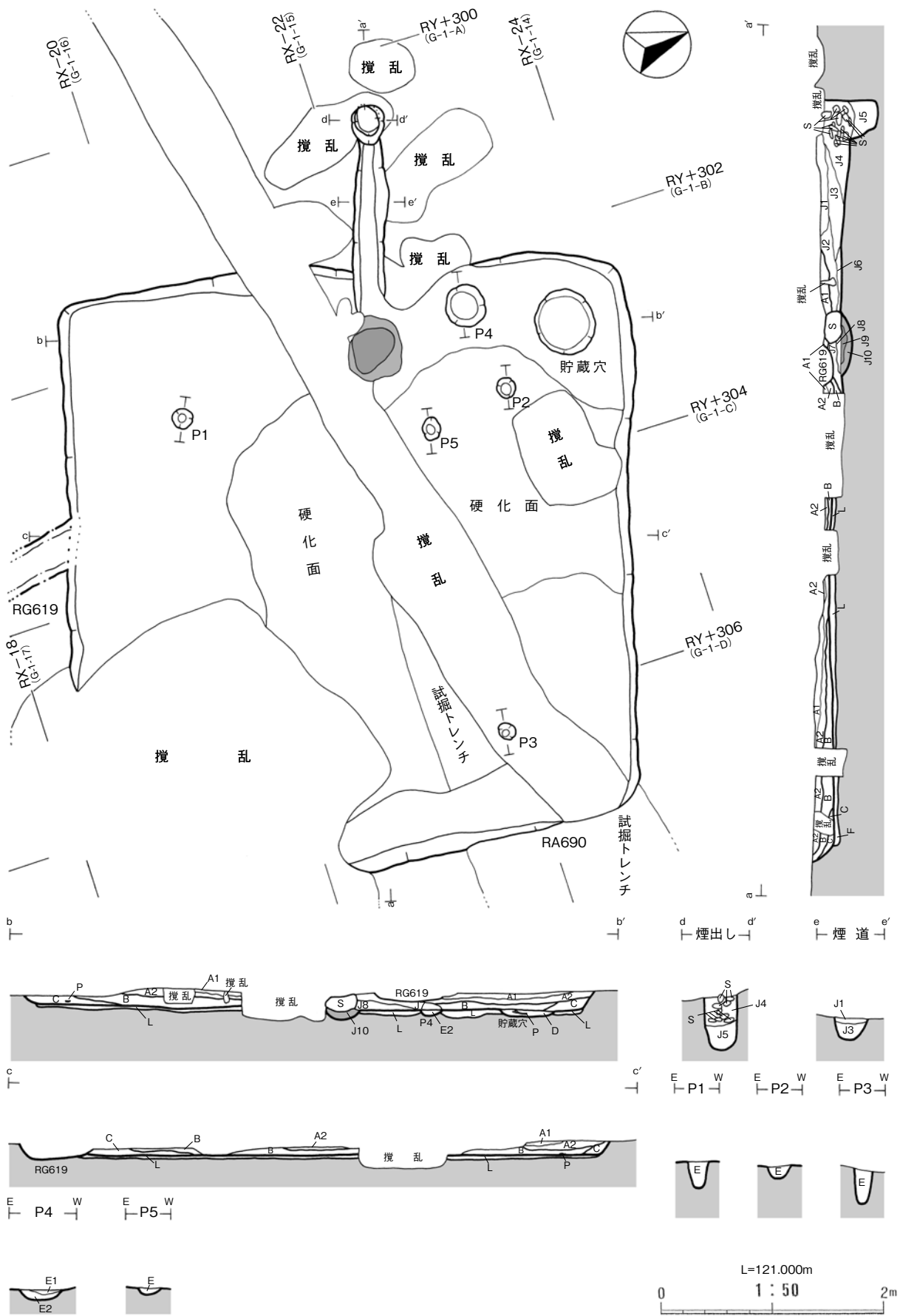
第19図 RA687 竪穴建物跡



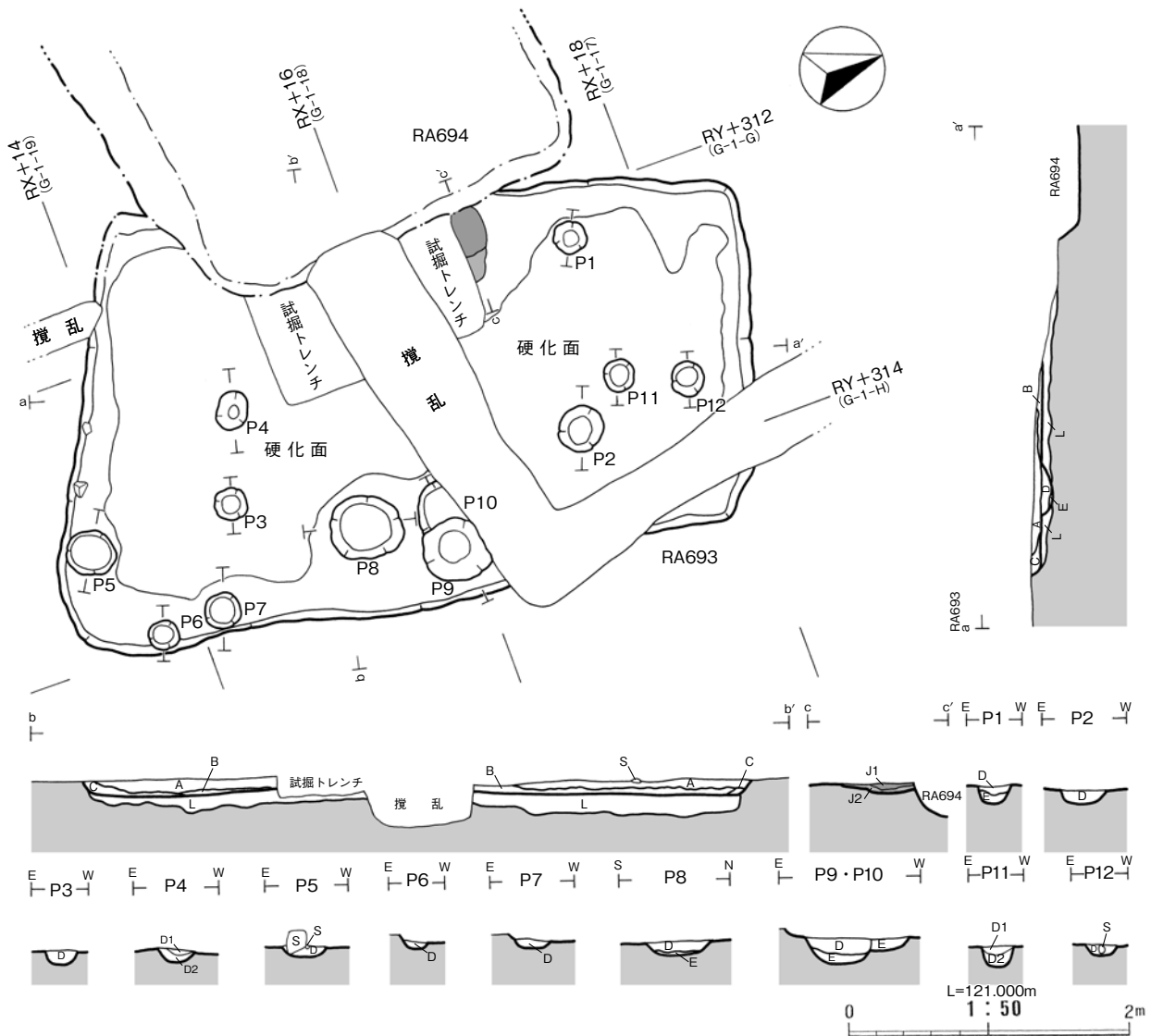
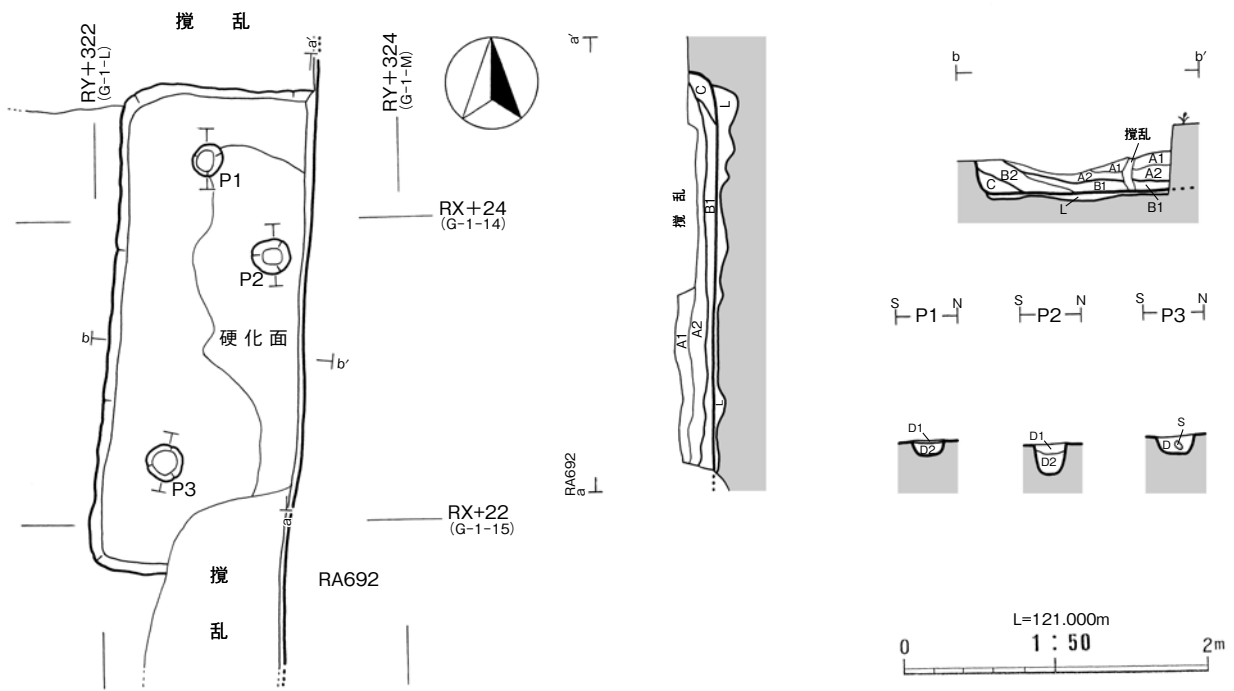
第20図 RA688 竪穴建物跡



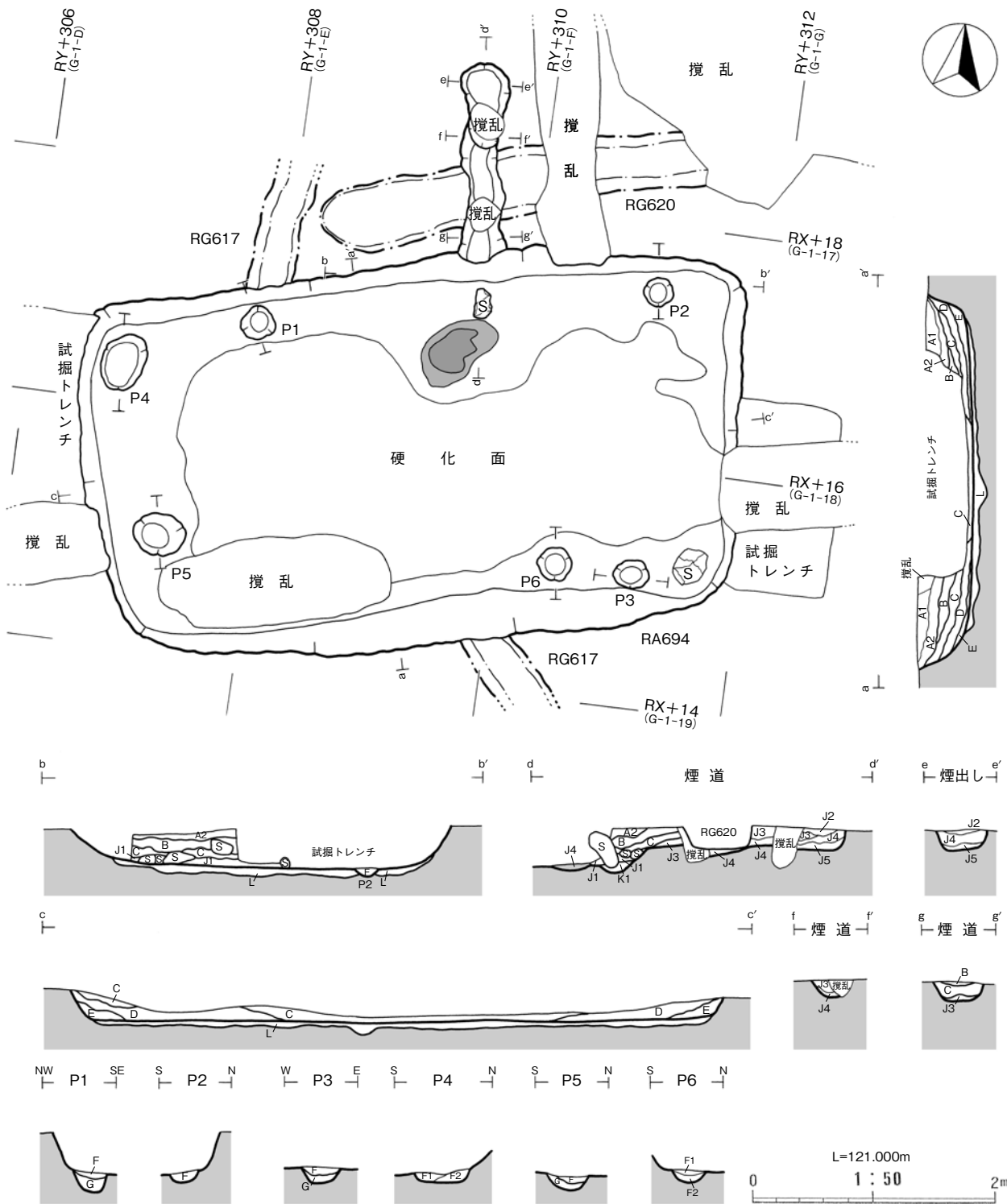
第21図 RA689・RA691 竪穴建物跡



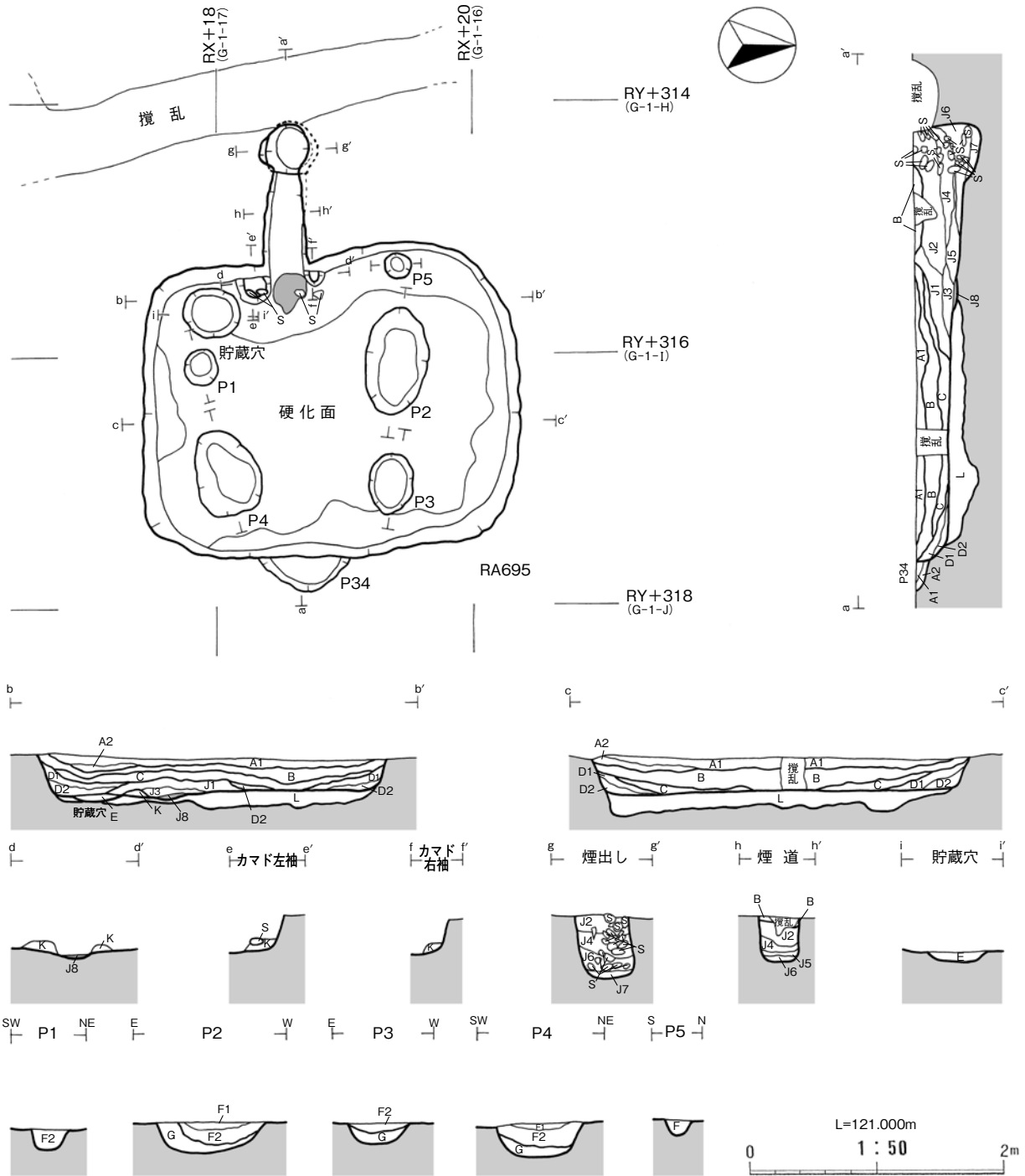
第22図 RA690 竪穴建物跡



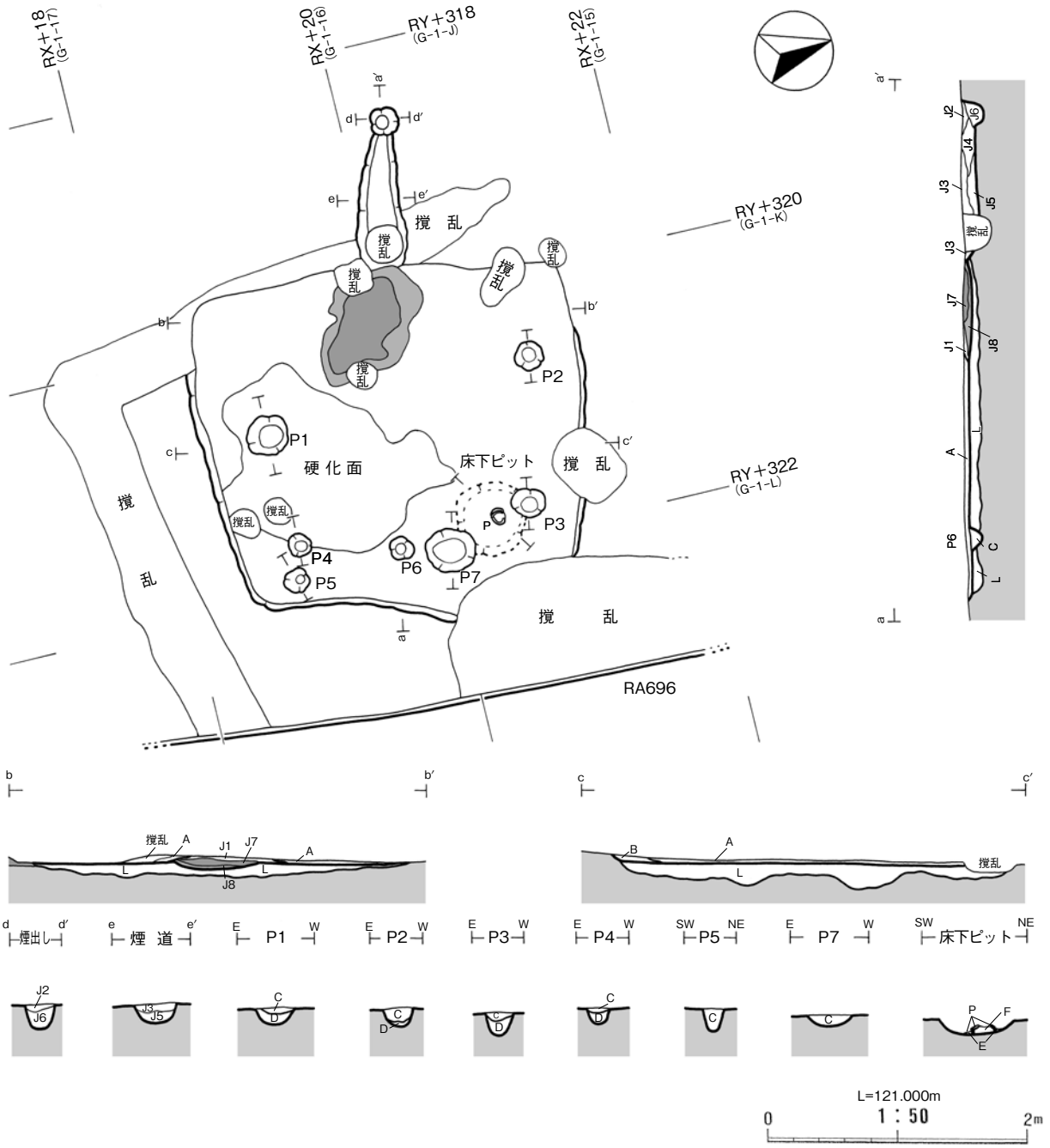
第23図 RA692・RA693 竪穴建物跡



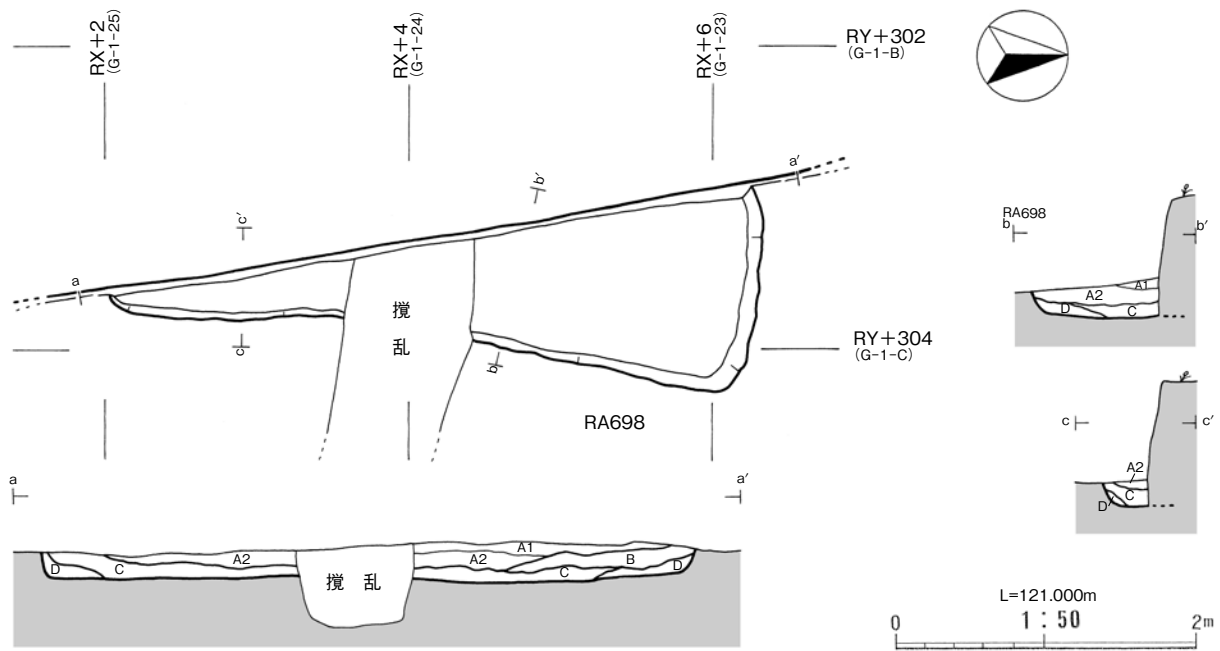
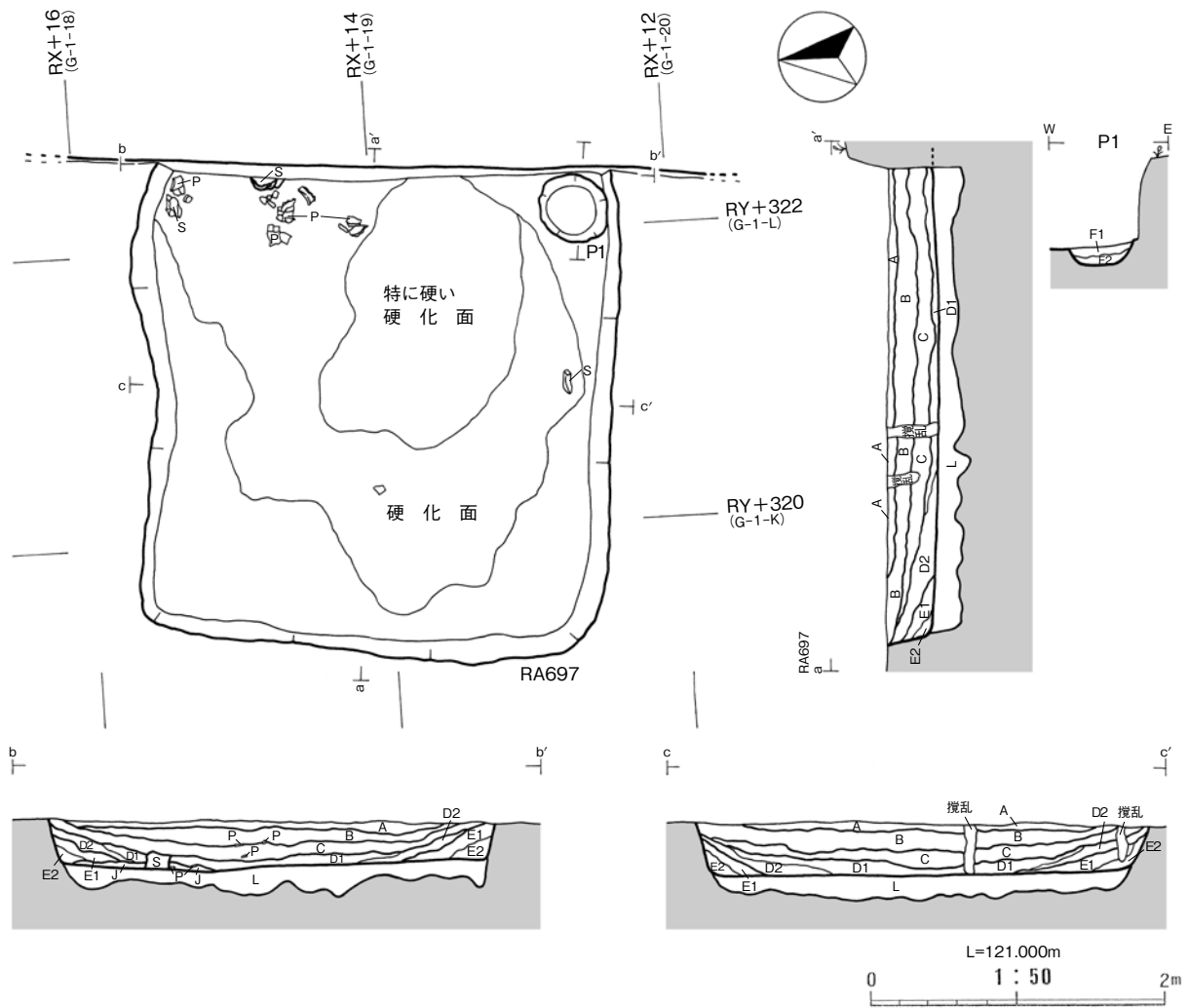
第24図 RA694 竪穴建物跡



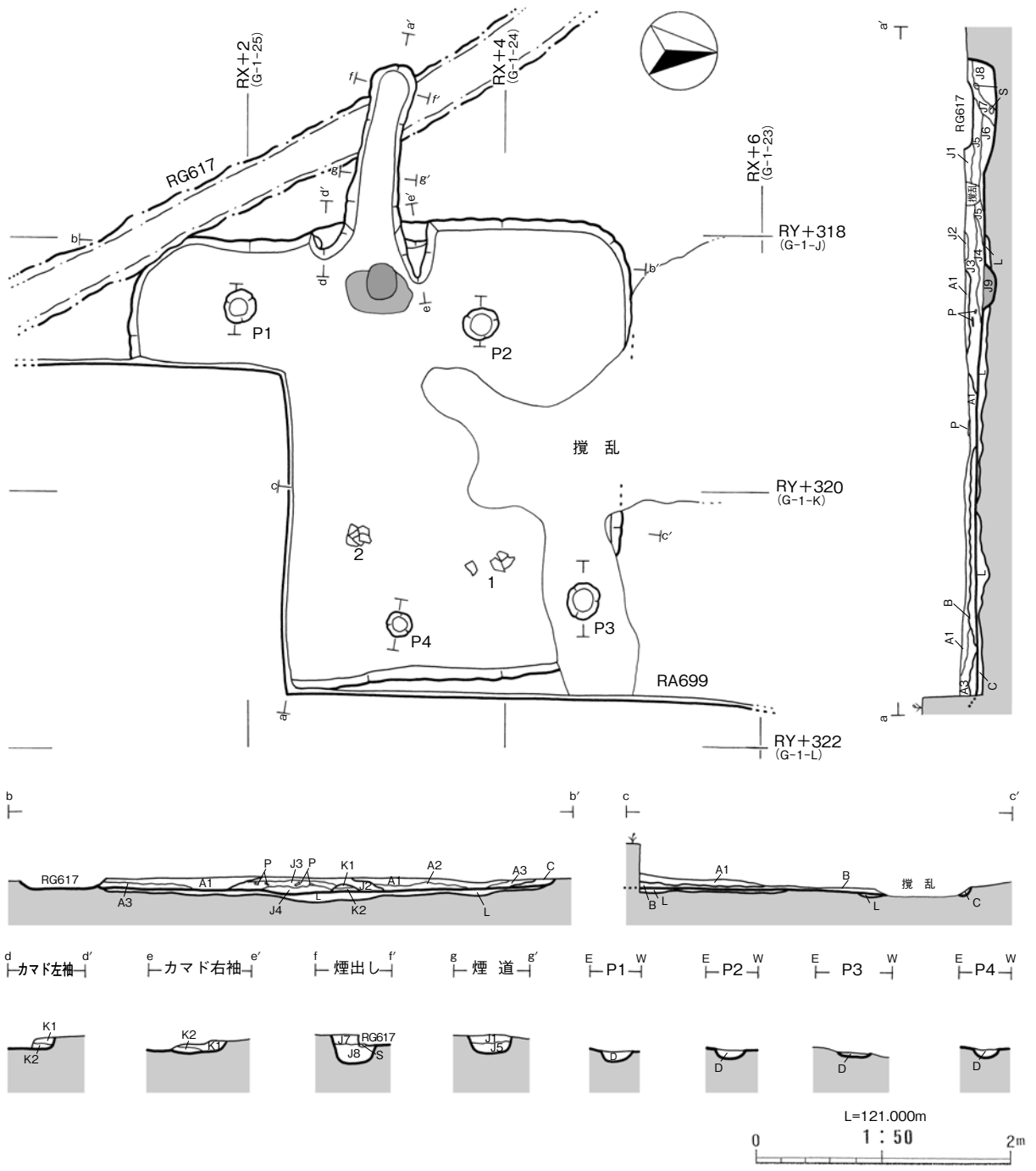
第25図 RA695 竪穴建物跡



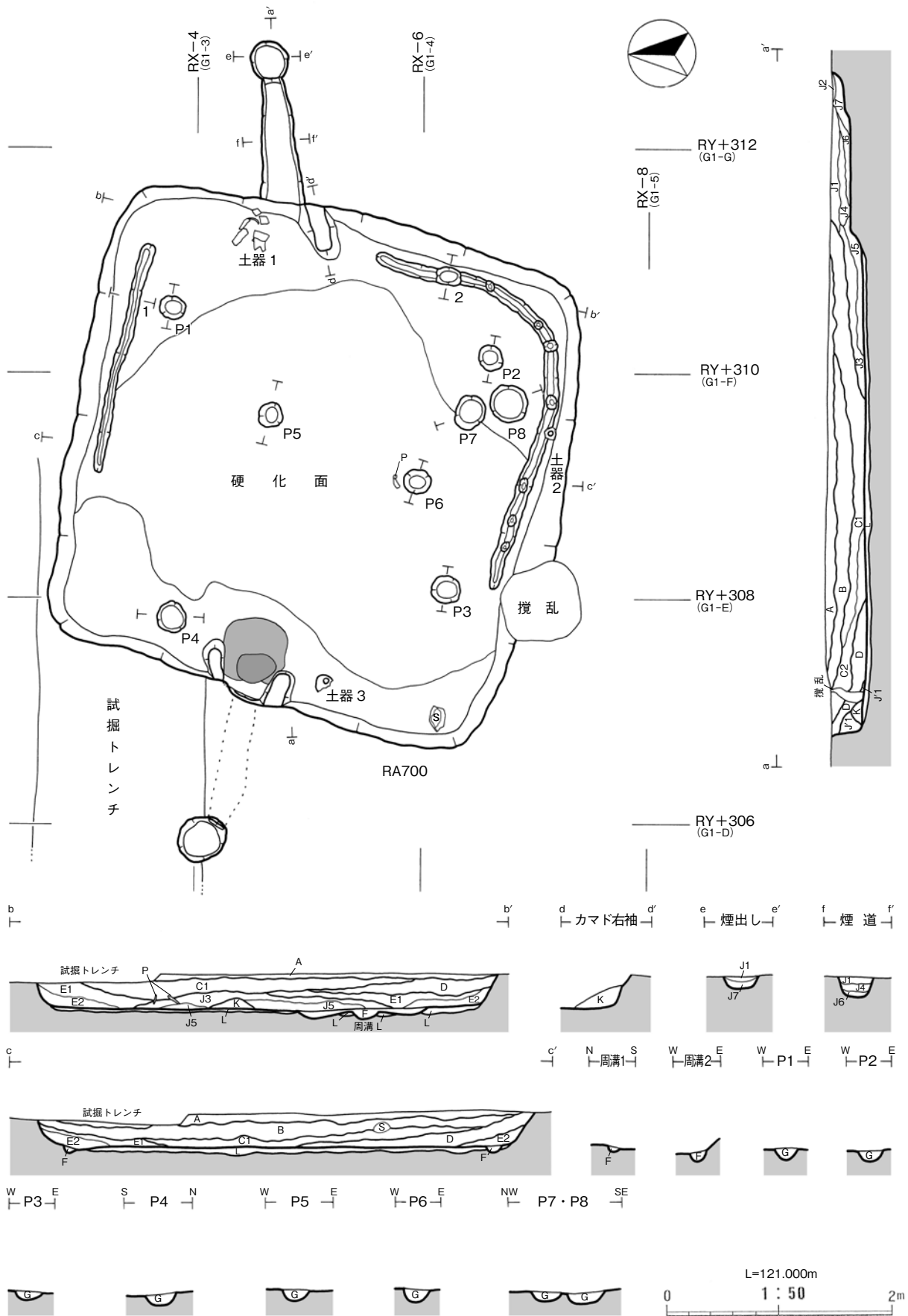
第26図 RA696 竪穴建物跡



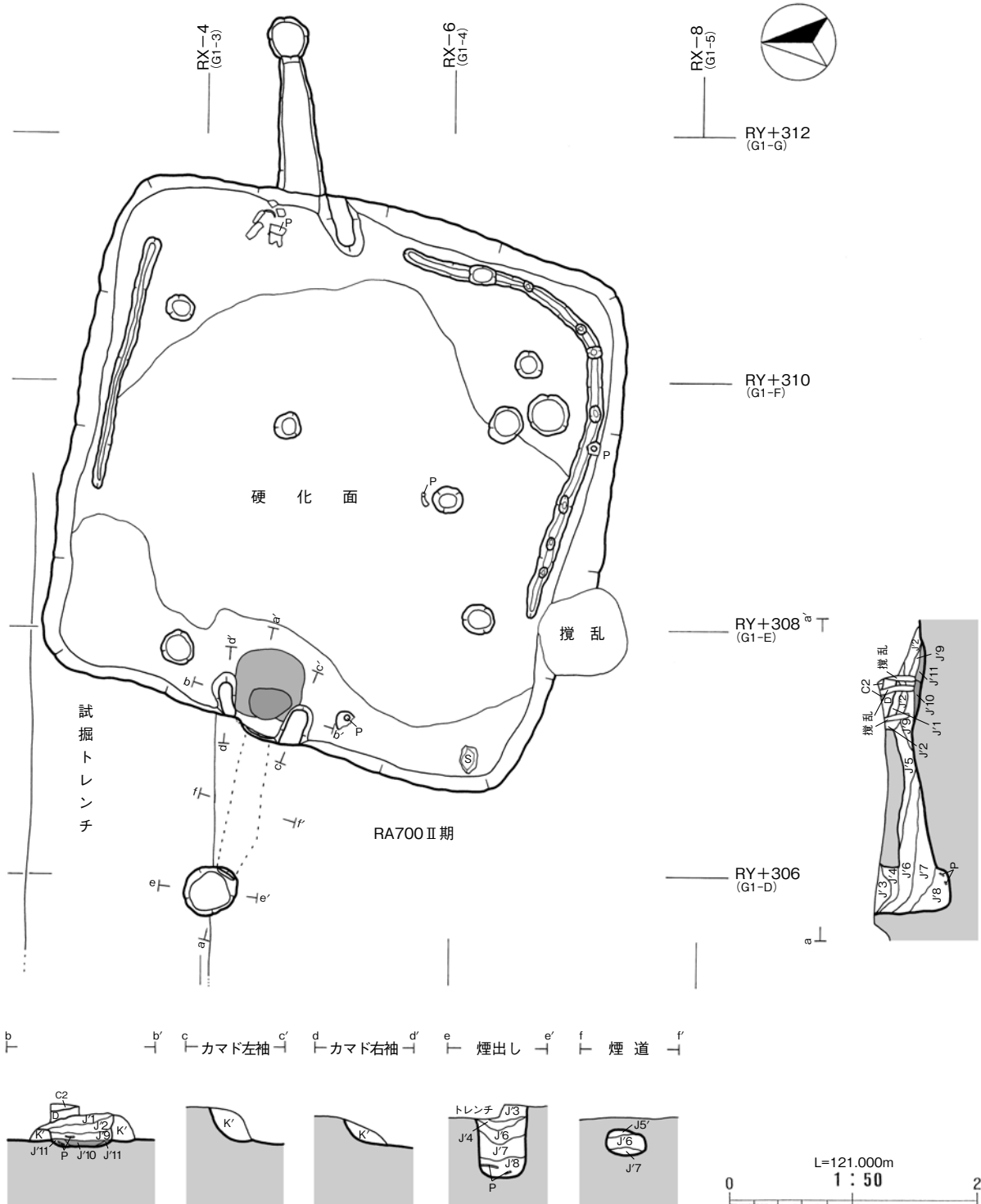
第27図 RA697・RA698 竪穴建物跡



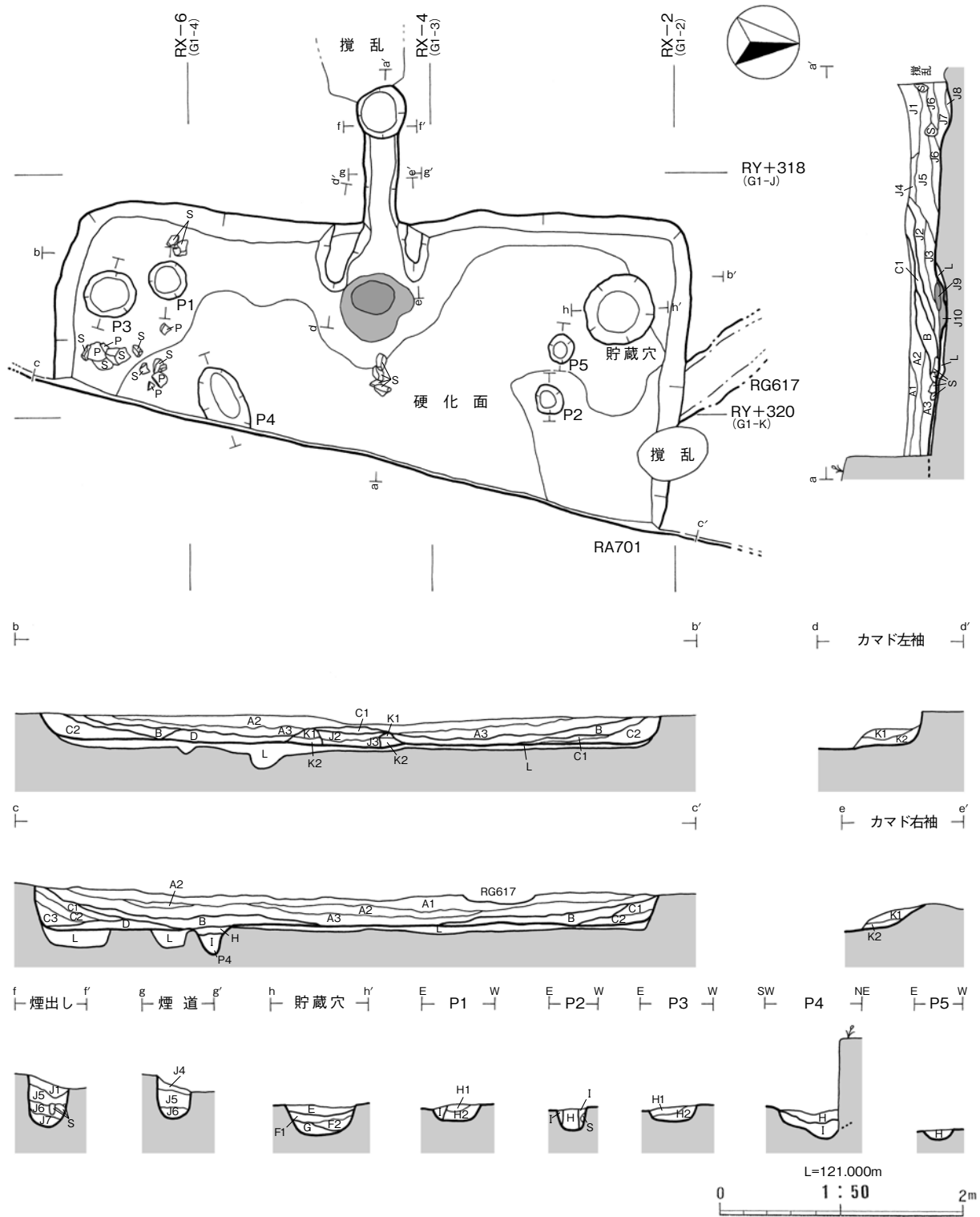
第28図 RA699 竪穴建物跡



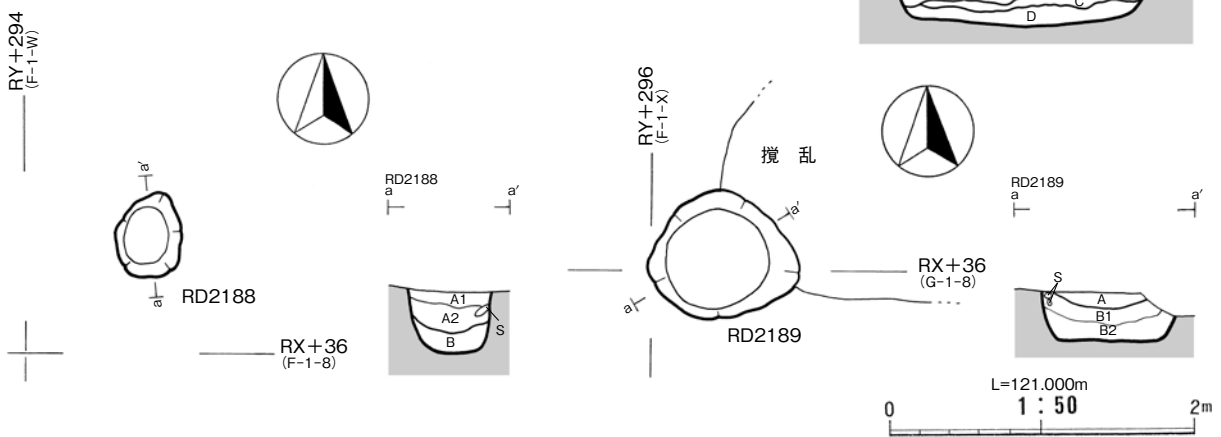
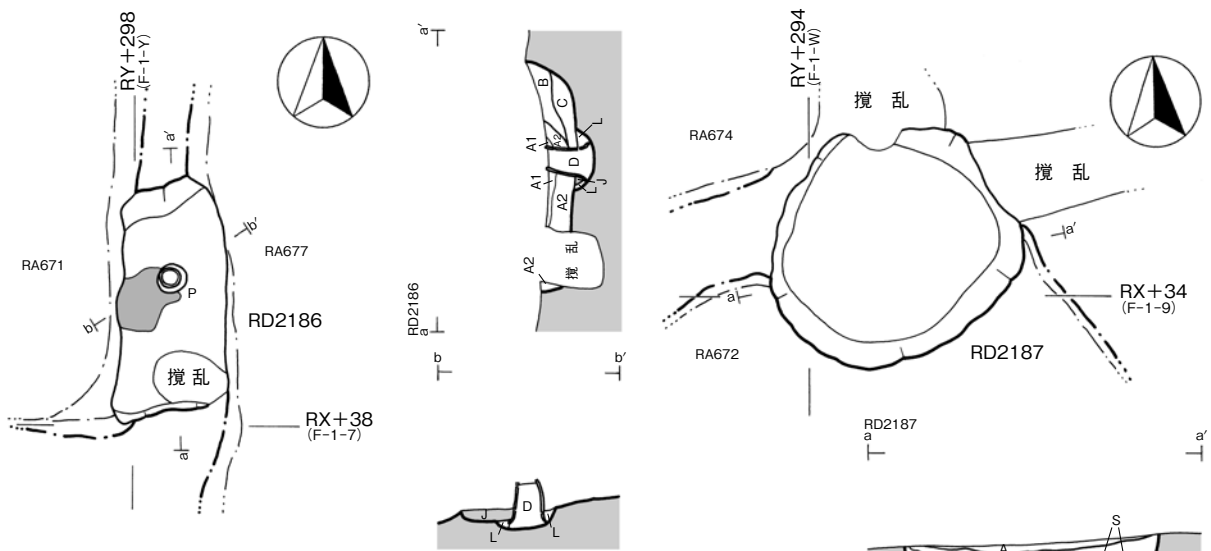
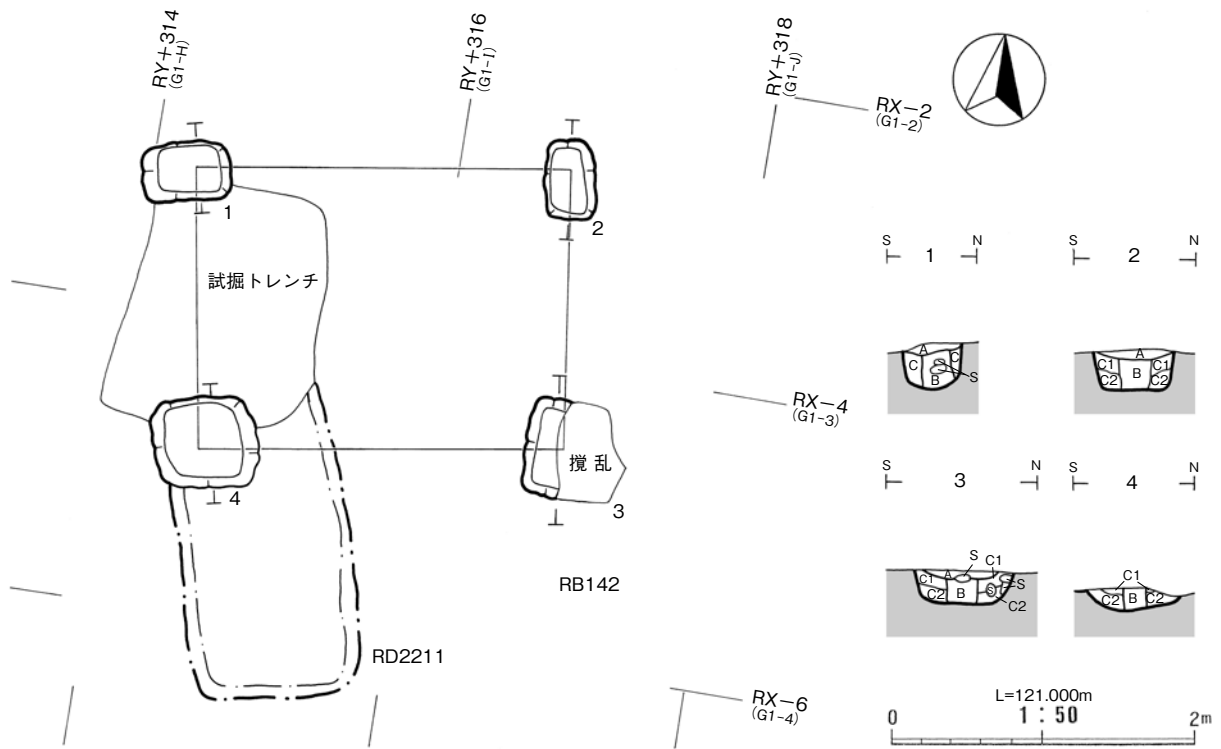
第29図 RA700 竪穴建物跡 (I期)



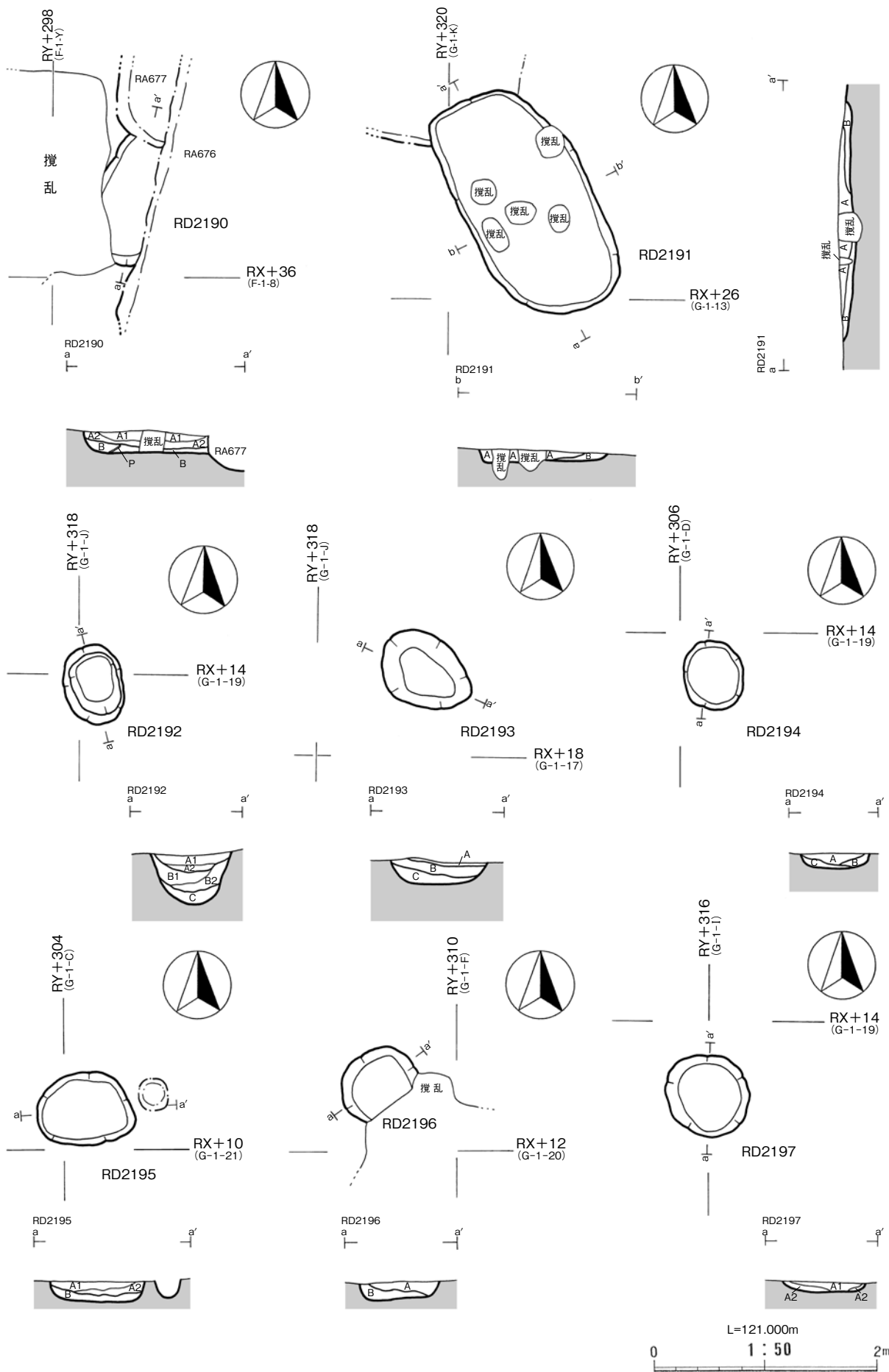
第30図 RA700 竪穴建物跡（II期）



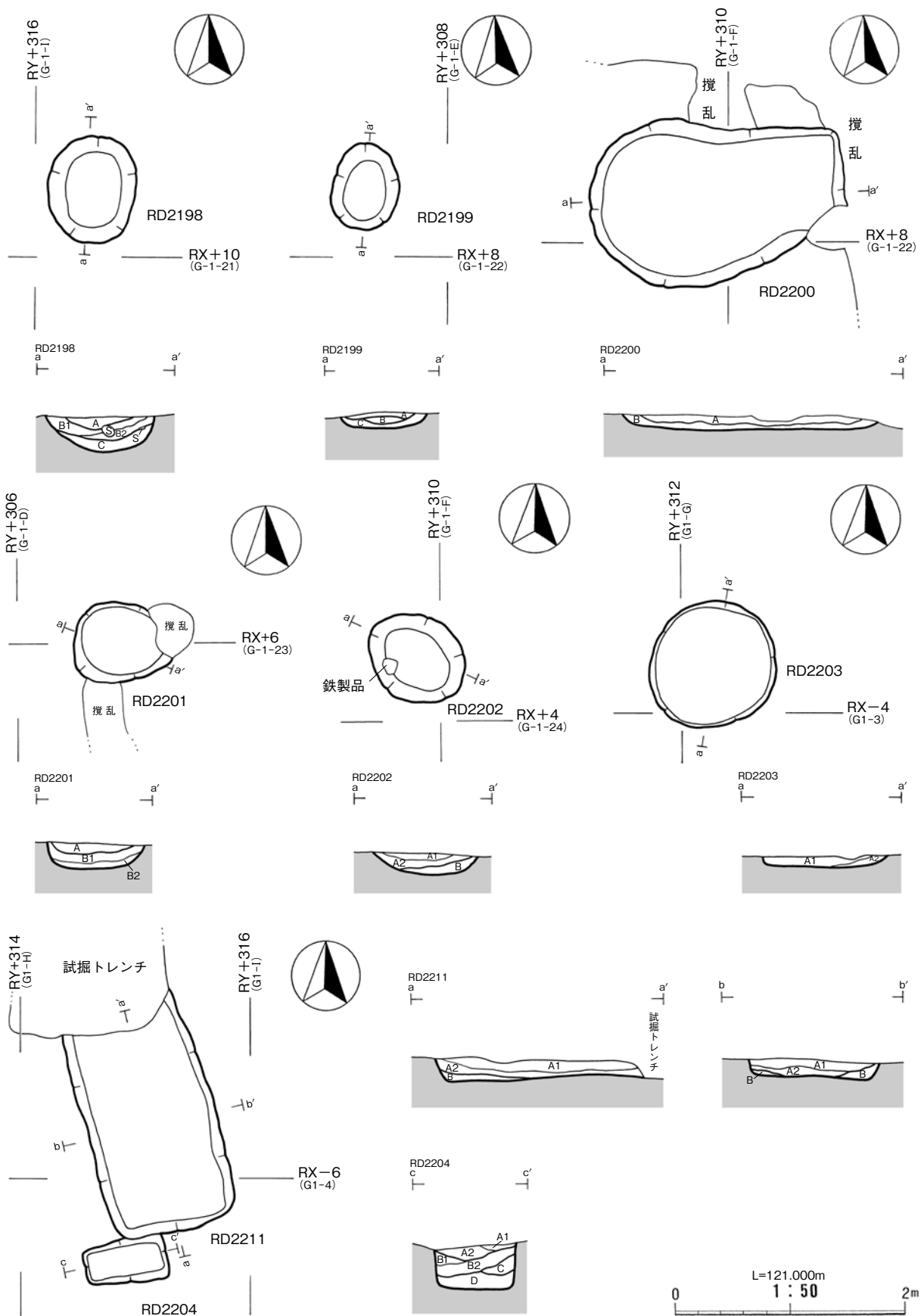
第31図 RA701 竪穴建物跡



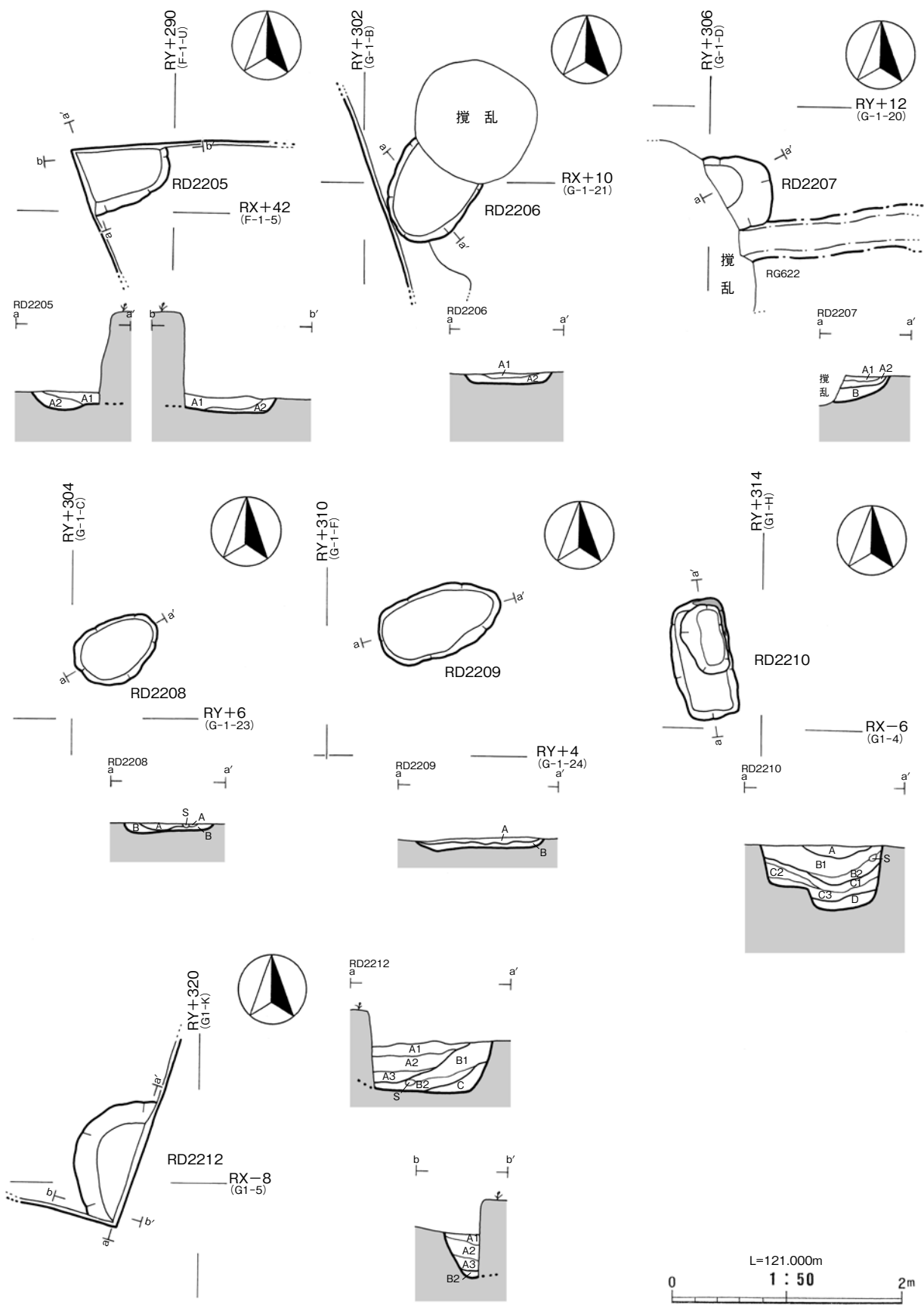
第32図 RB142 掘立柱建物跡, RD2186~2189 土坑



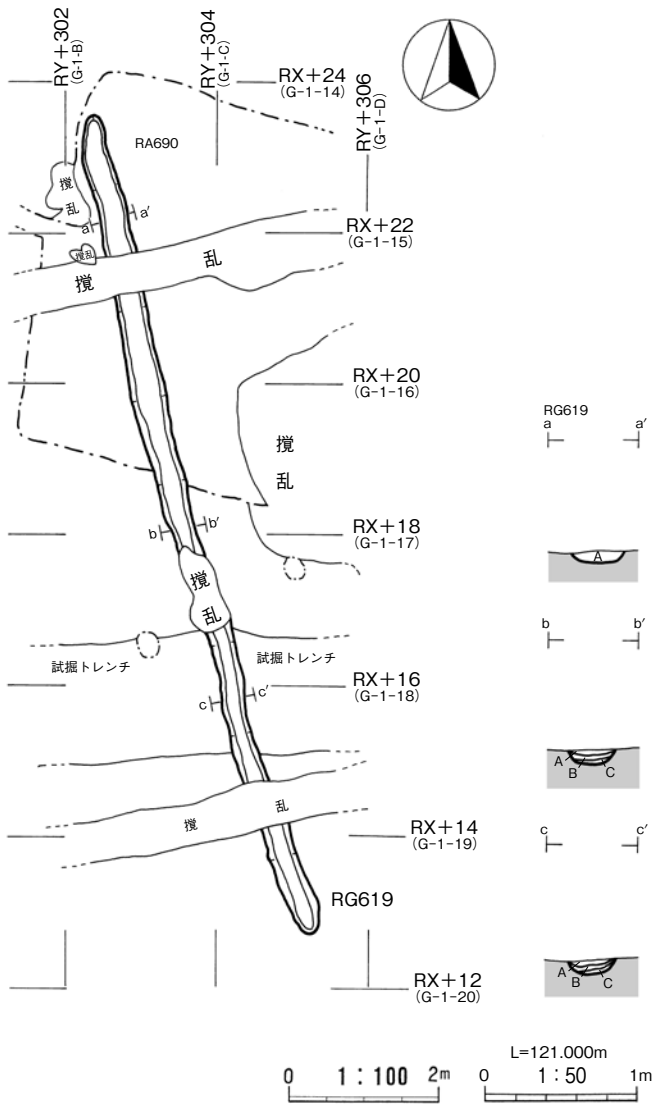
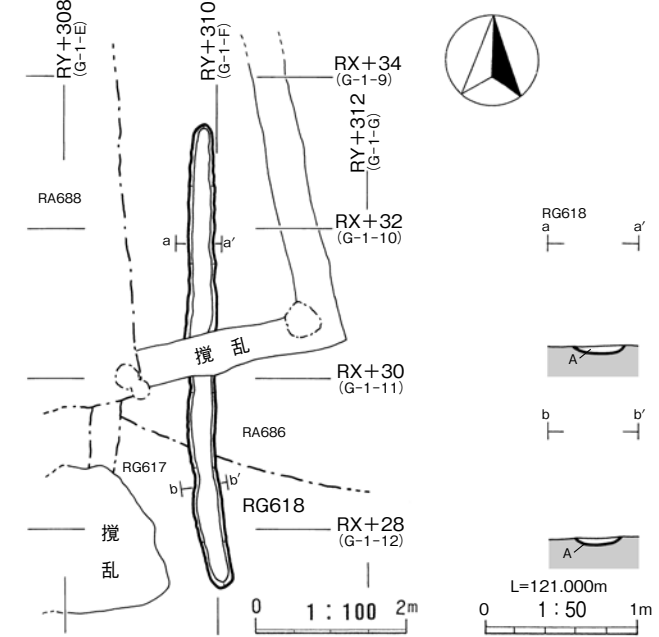
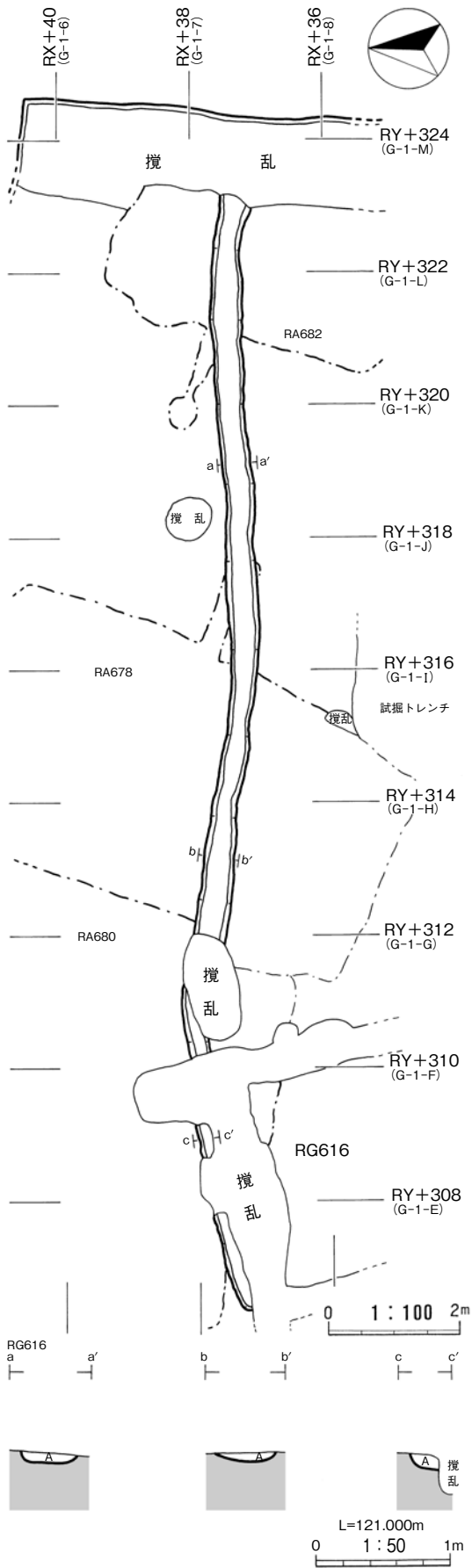
第33图 RD2190~2197 土坑



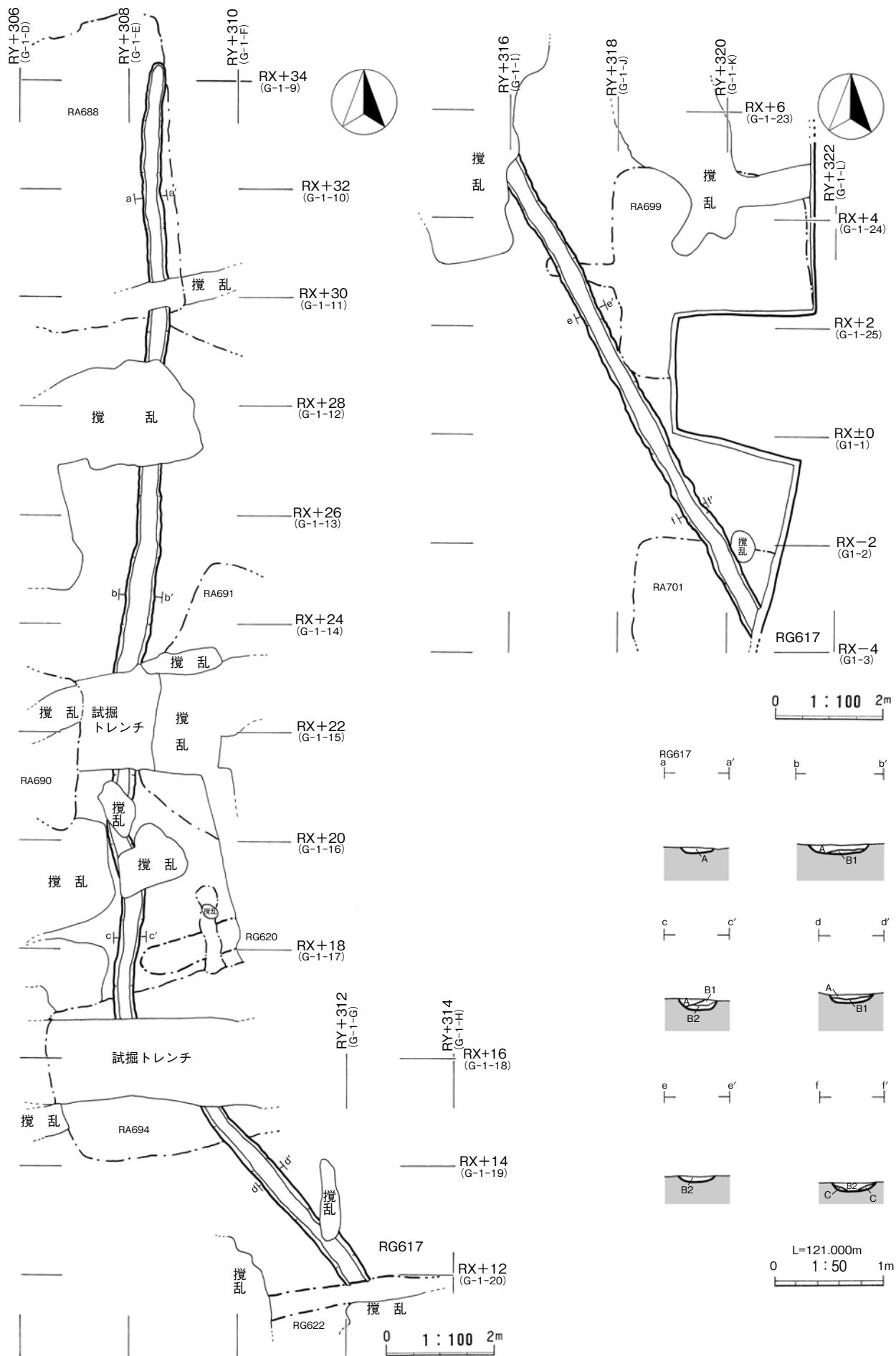
第34図 RD2198~2204・2211 土坑



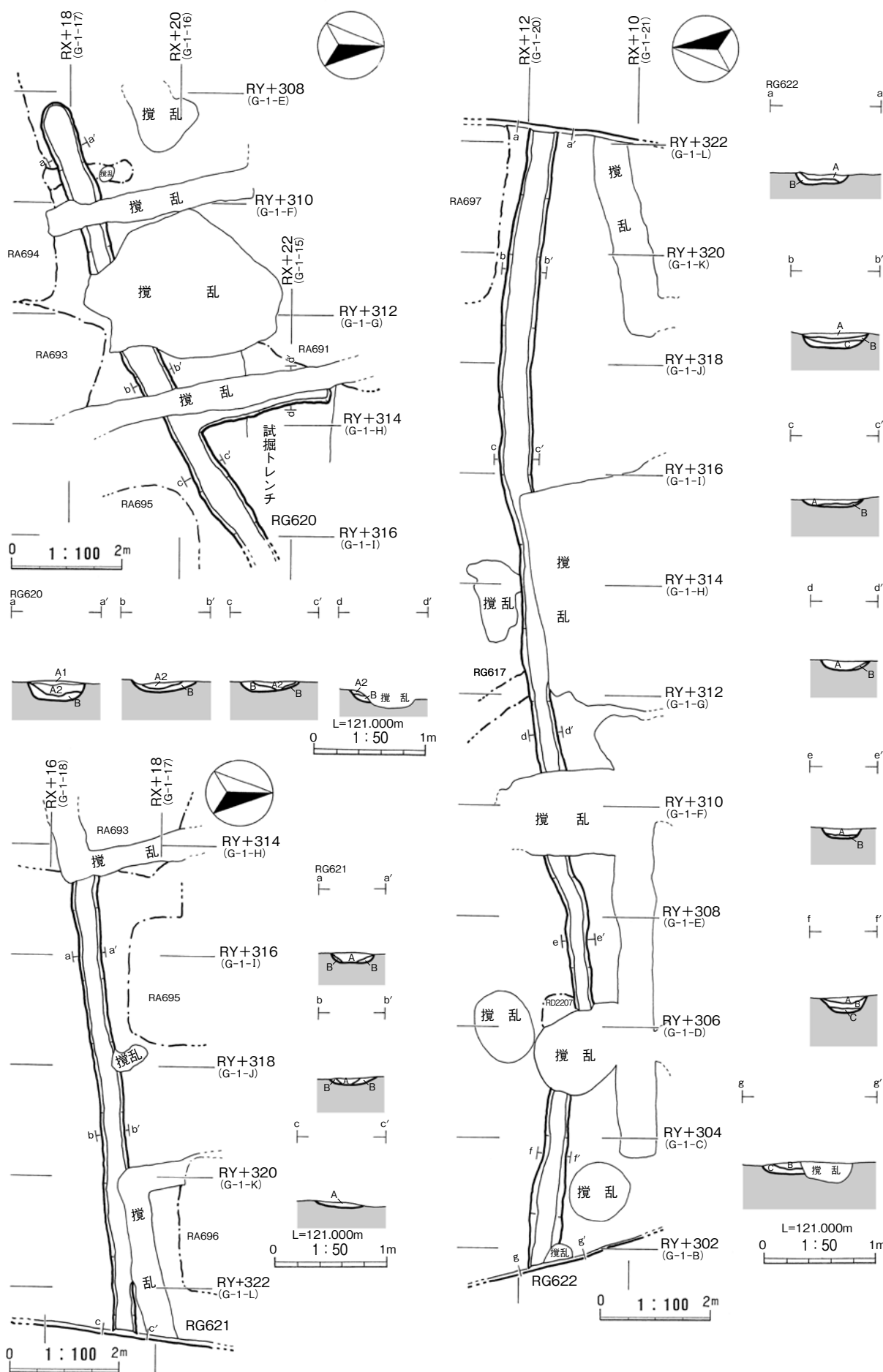
第35図 RD2205~2210・2212 土坑



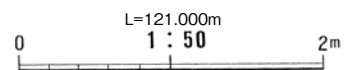
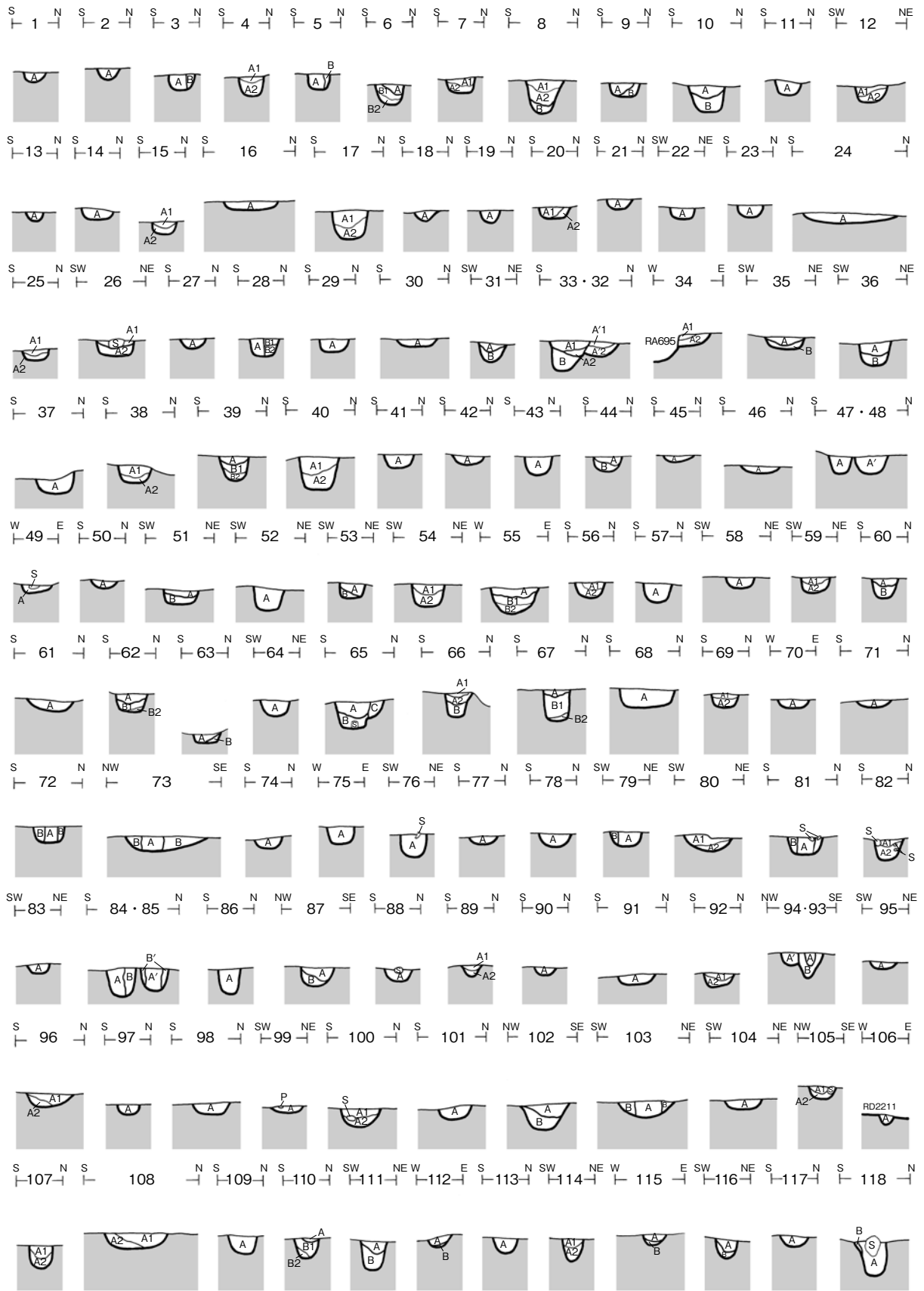
第36図 RG616・618・619 溝跡



第37図 RG617 溝跡

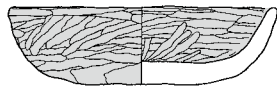


第38図 RG620~622 溝跡

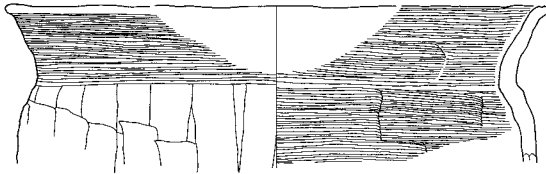


第39図 ピット土層断面

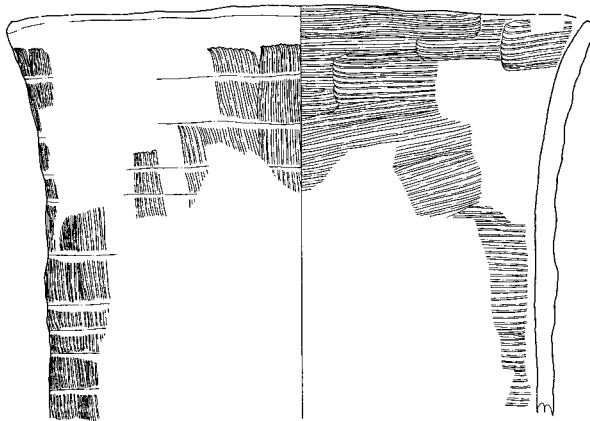
遺物 図 版



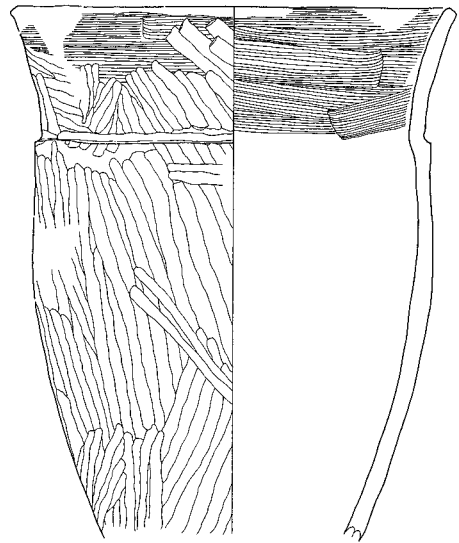
1 (RA671-F-1-X6-B層)



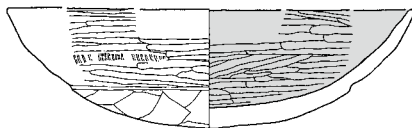
3 (RA672-F-1-V9-貯蔵穴-D層)



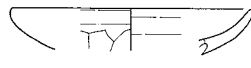
4 (RA672-F-1-W9-B層)



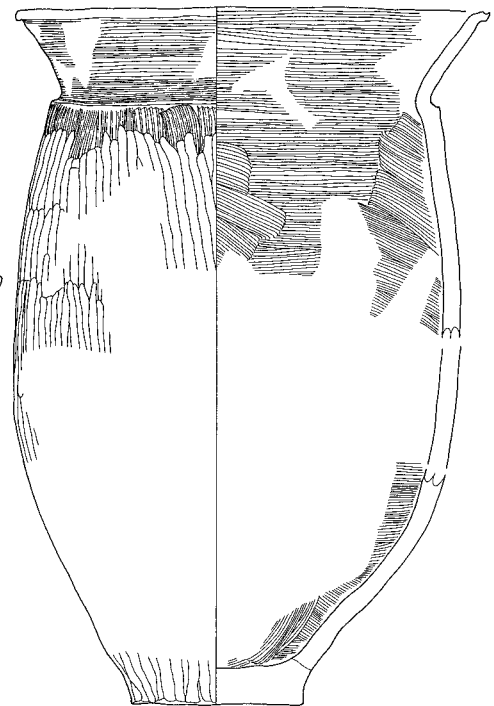
2 (RA671-F-1-X6-B層)



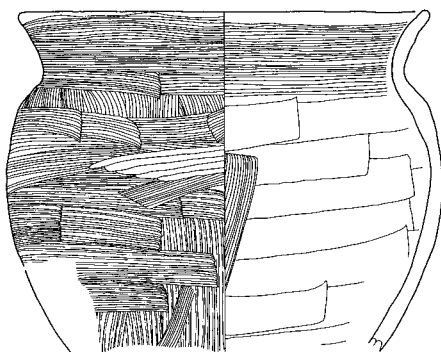
5 (RA673-G-1-I12-床面直上)



6 (RA673-G-1-I12-A層)



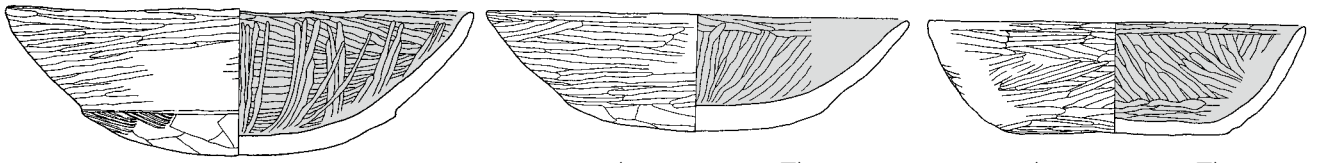
8 (RA673-G-1-I12-L層)



7 (RA673-G-1-H12-カマド左袖-K1層)



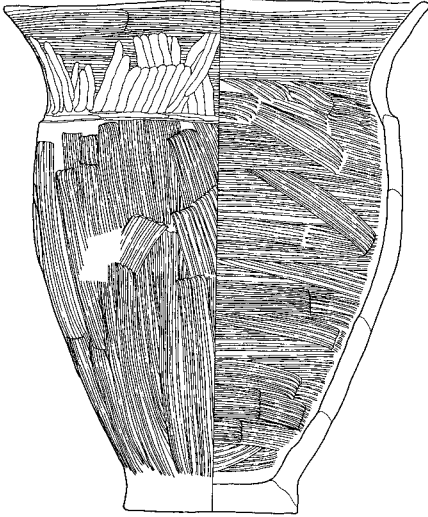
0 1 : 3 10cm



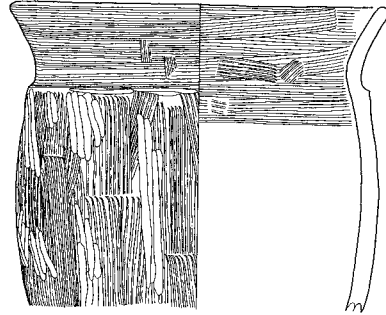
1 (RA679-G-1-D5-C層)

2 (RA679-G-1-C6-B層)

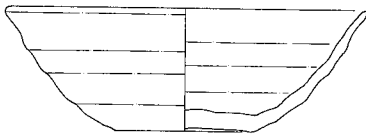
3 (RA679-G-1-D5-B層)



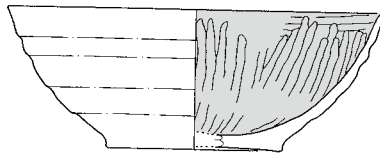
4 (RA679-G-1-C6-B層)



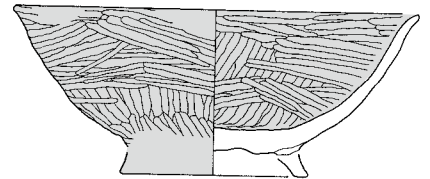
5 (RA679-G-1-D6-B層)



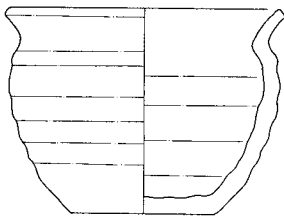
6 (RA674-F-1-V9-ピット2-埋土)



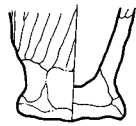
7 (RA674-F-1-W8-L層)



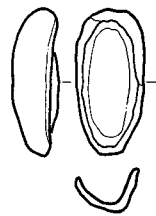
8 (RA674-F-1-V7-貯蔵穴-F層)



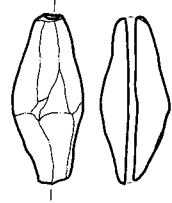
9 (RA674-F-1-V7-貯蔵穴-D層)



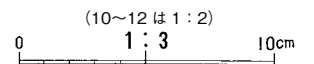
10 (RA674-F-1-V7-貯蔵穴-E層)



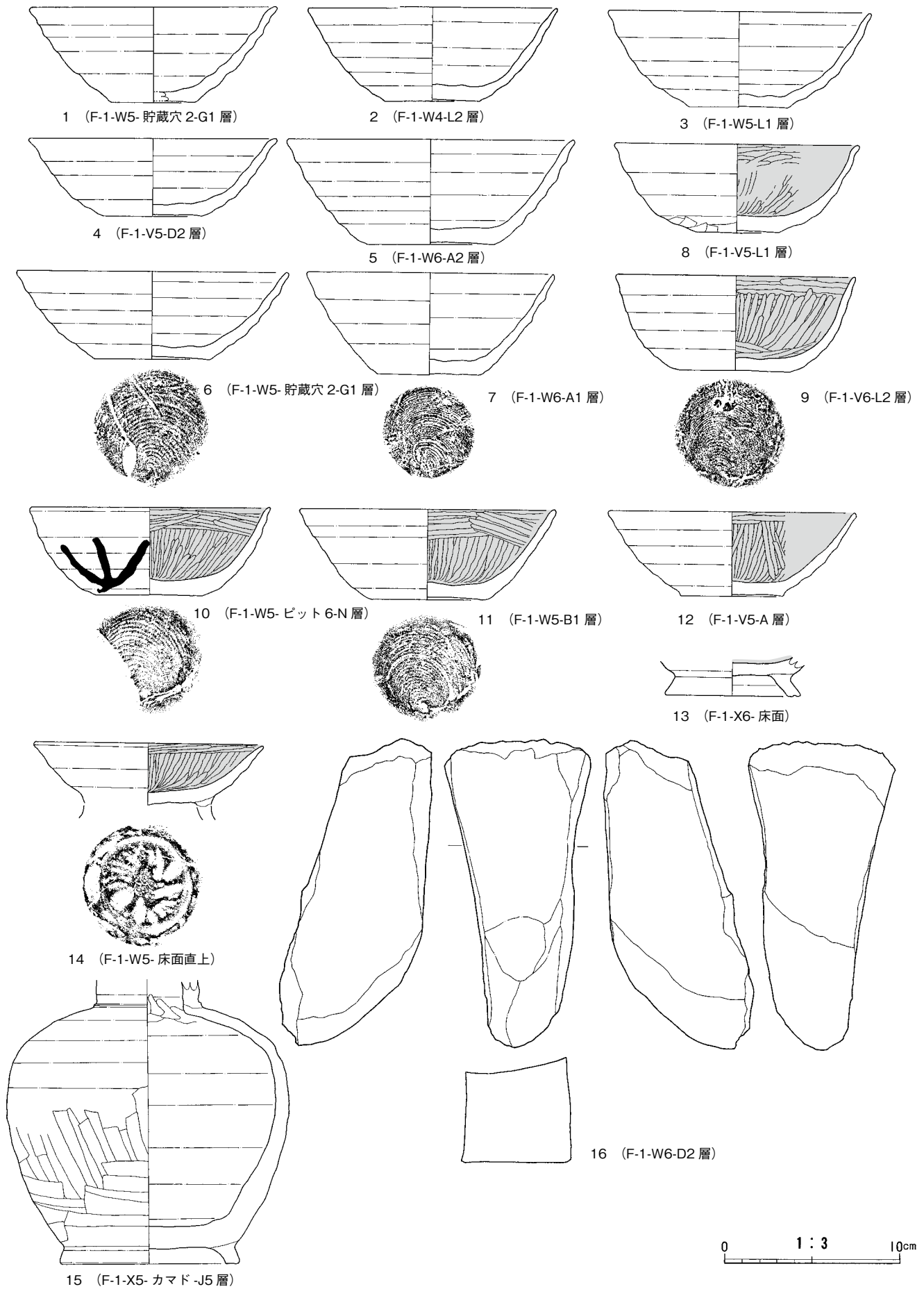
11 (RA674-F-1-V7-貯蔵穴-E層)



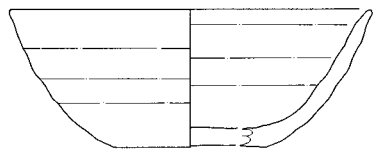
12 (RA674-F-1-V7-貯蔵穴-F層)



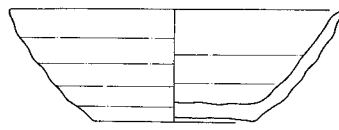
第41図 RA674・679 堅穴建物跡出土遺物



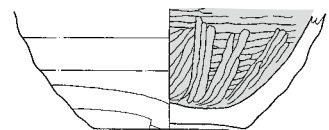
第42図 RA675 堅穴建物跡出土遺物



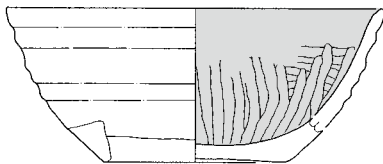
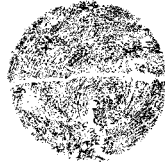
1 (G-1-C6-C層)



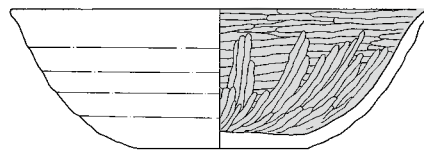
2 (G-1-A6-A層)



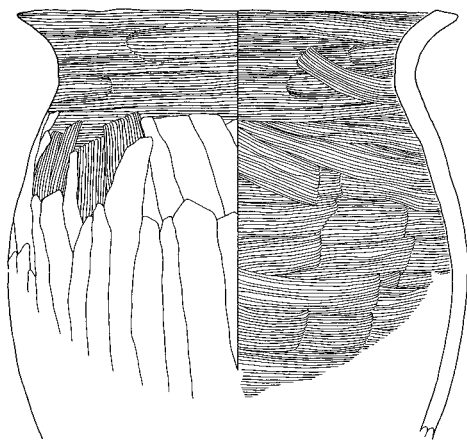
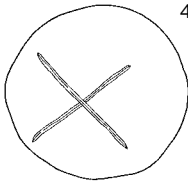
3 (F-1-Y6-床面1)



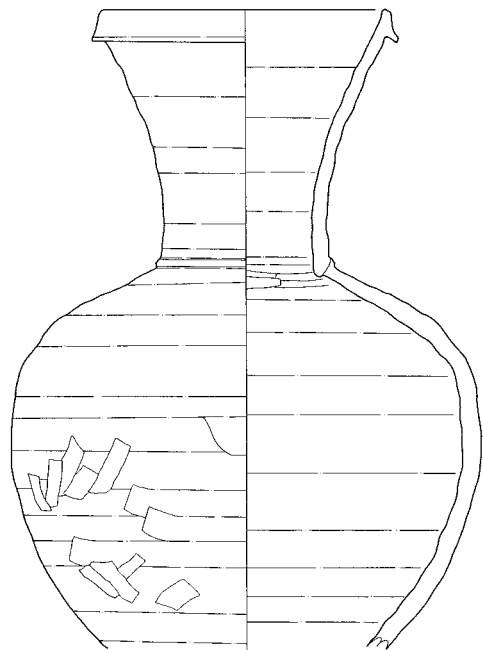
4 (G-1-A8-床面2)



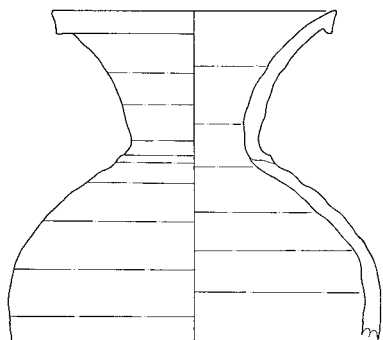
5 (G-1-B6-C層)



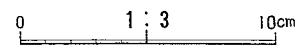
6 (G-1-A8-床面3)



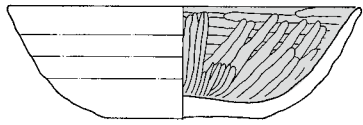
8 (F-1-Y8-ピット3-E2層)



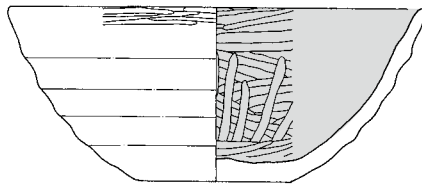
7 (G-1-C8-C層)



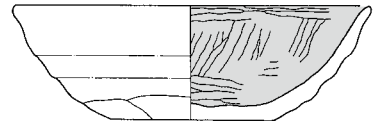
第43図 RA676 堅穴建物跡出土土器



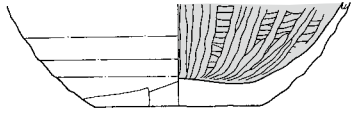
1 (G-1-B5-煙道-J2層)



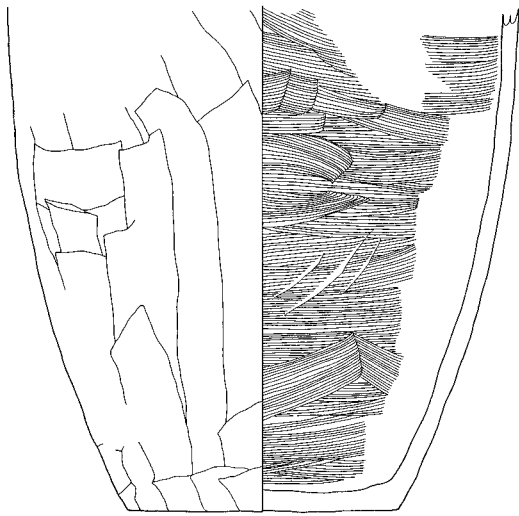
2 (G-1-B5-貯蔵穴1-C2層)



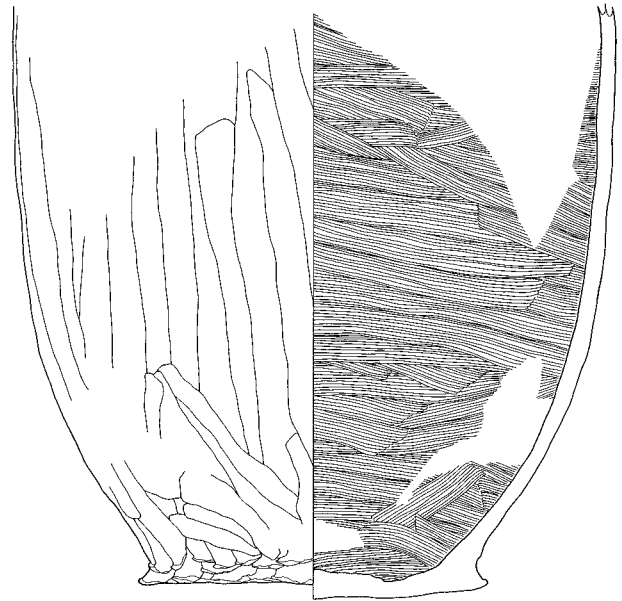
3 (G-1-B5-B層)



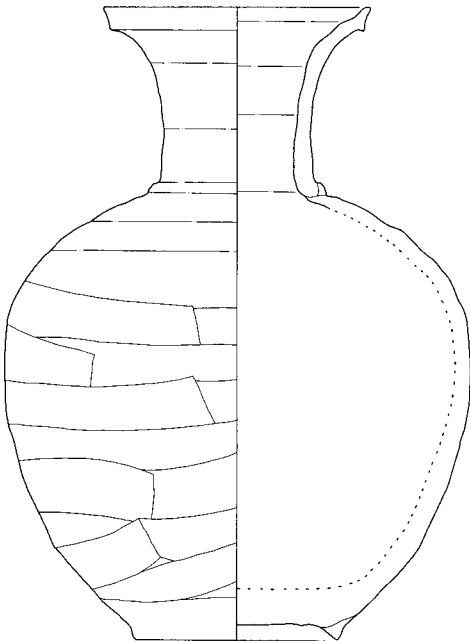
4 (G-1-B5-ピット1-E1層)



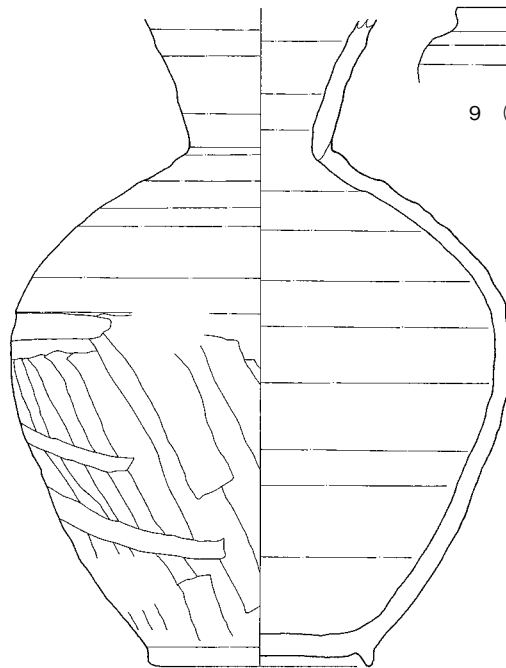
5 (G-1-C5-煙出し-J9層)



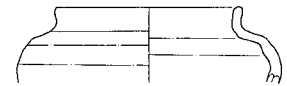
6 (G-1-C5-煙出し-J5層)



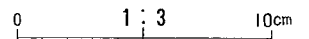
7 (G-1-B5-A層)

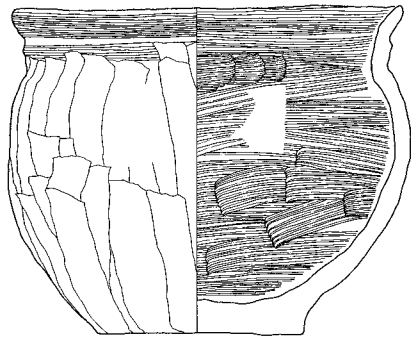


8 (G-1-B5-C層)

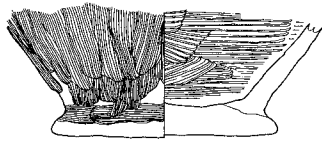


9 (F-1-Y-5-L層)

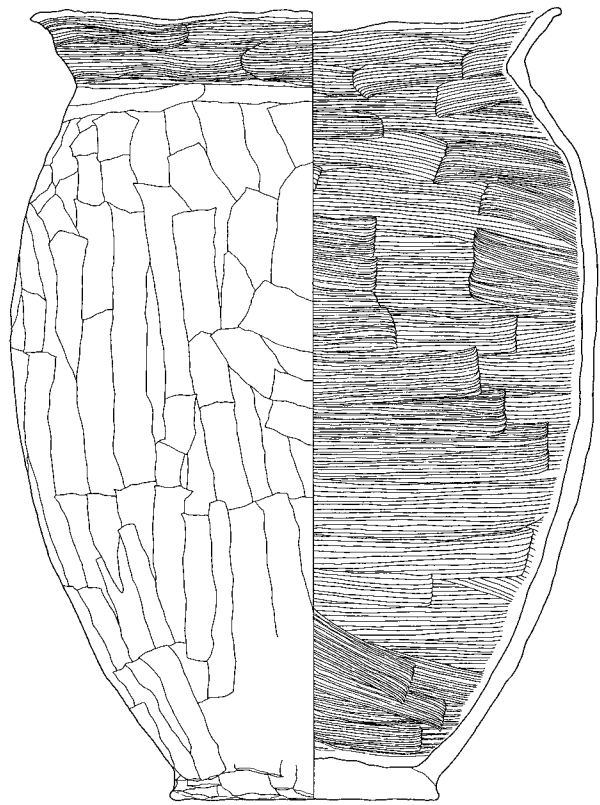




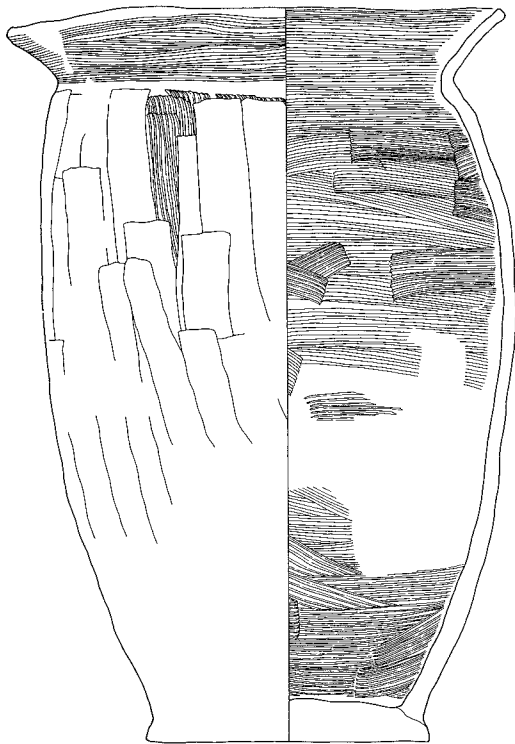
1 (G-1-I7-カマド支脚 1-J層)



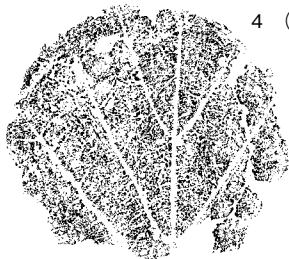
2 (G-1-I7-カマド支脚 2-J層)



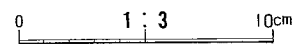
3 (G-1-H7-カマド-J3層)

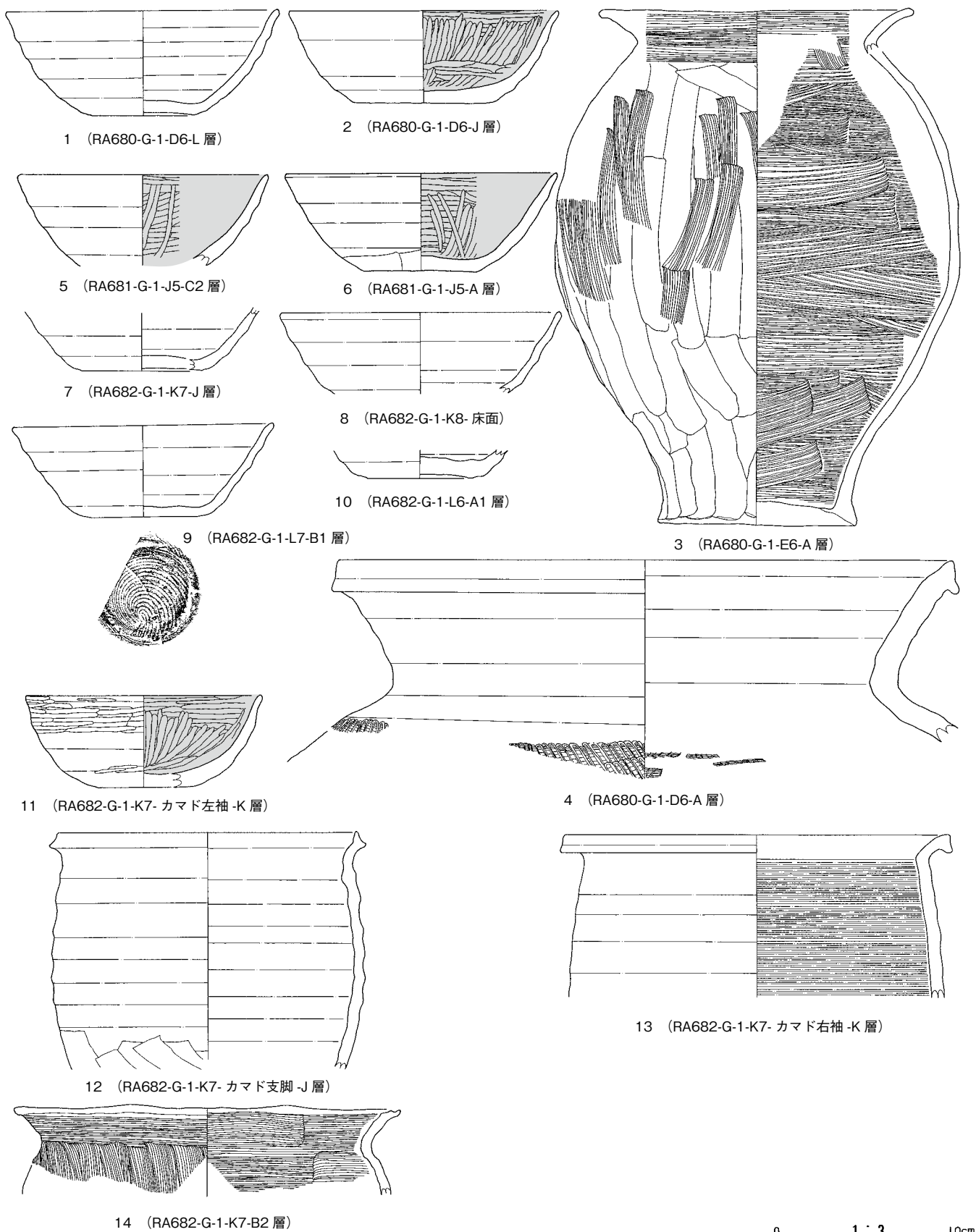


4 (G-1-H7-カマド-J3層)

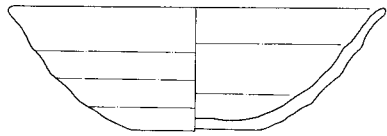


5 (G-1-I7-カマド右袖-K1層)

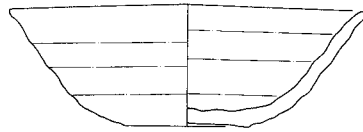




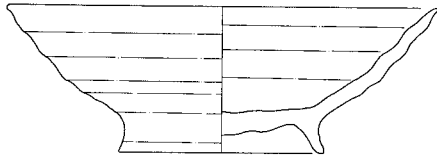
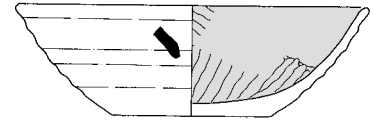
第46図 RA680~682 堅穴建物跡出土土器



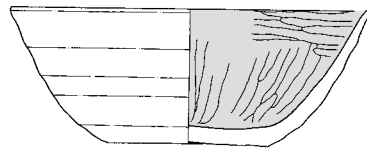
1 (RA683-F-1-Y9-ピット 4-G層)



2 (RA683-F-1-Y9-ピット 5-G層)



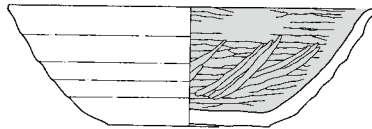
3 (RA683-G-1-A9-J層)



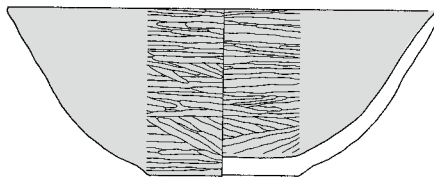
5 (RA683-G-1-A9-貯蔵穴-F層)



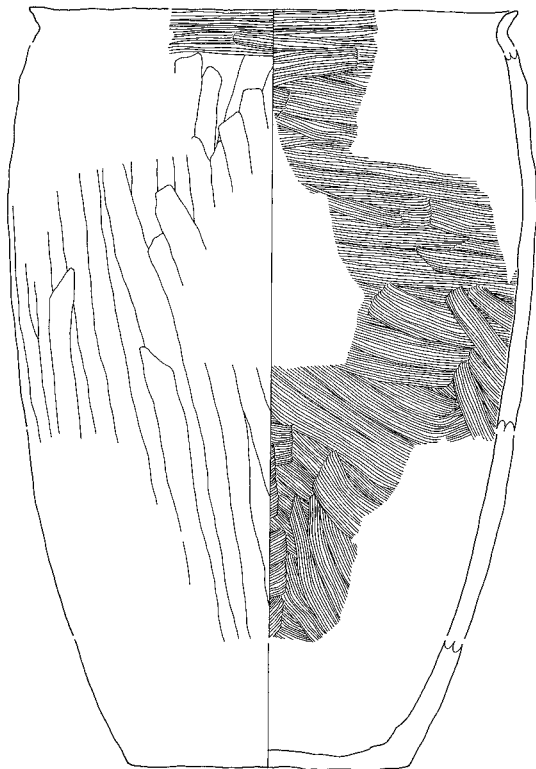
4 (RA683-G-1-A9-煙道-J7層)



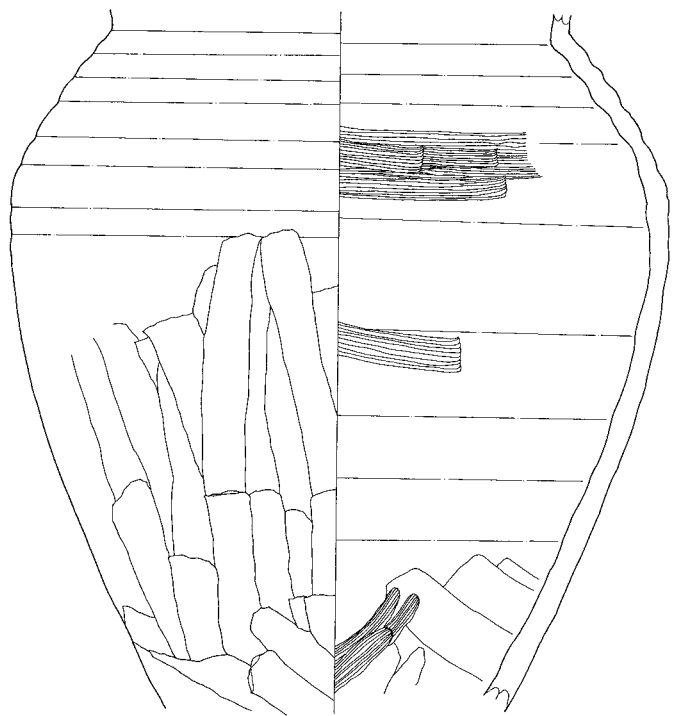
6 (RA683-F-1-Y9-E層)



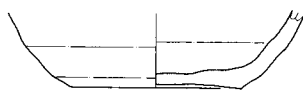
7 (RA683-G-1-A9-L層)



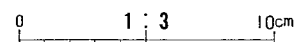
8 (RA683-G-1-A9-E層)



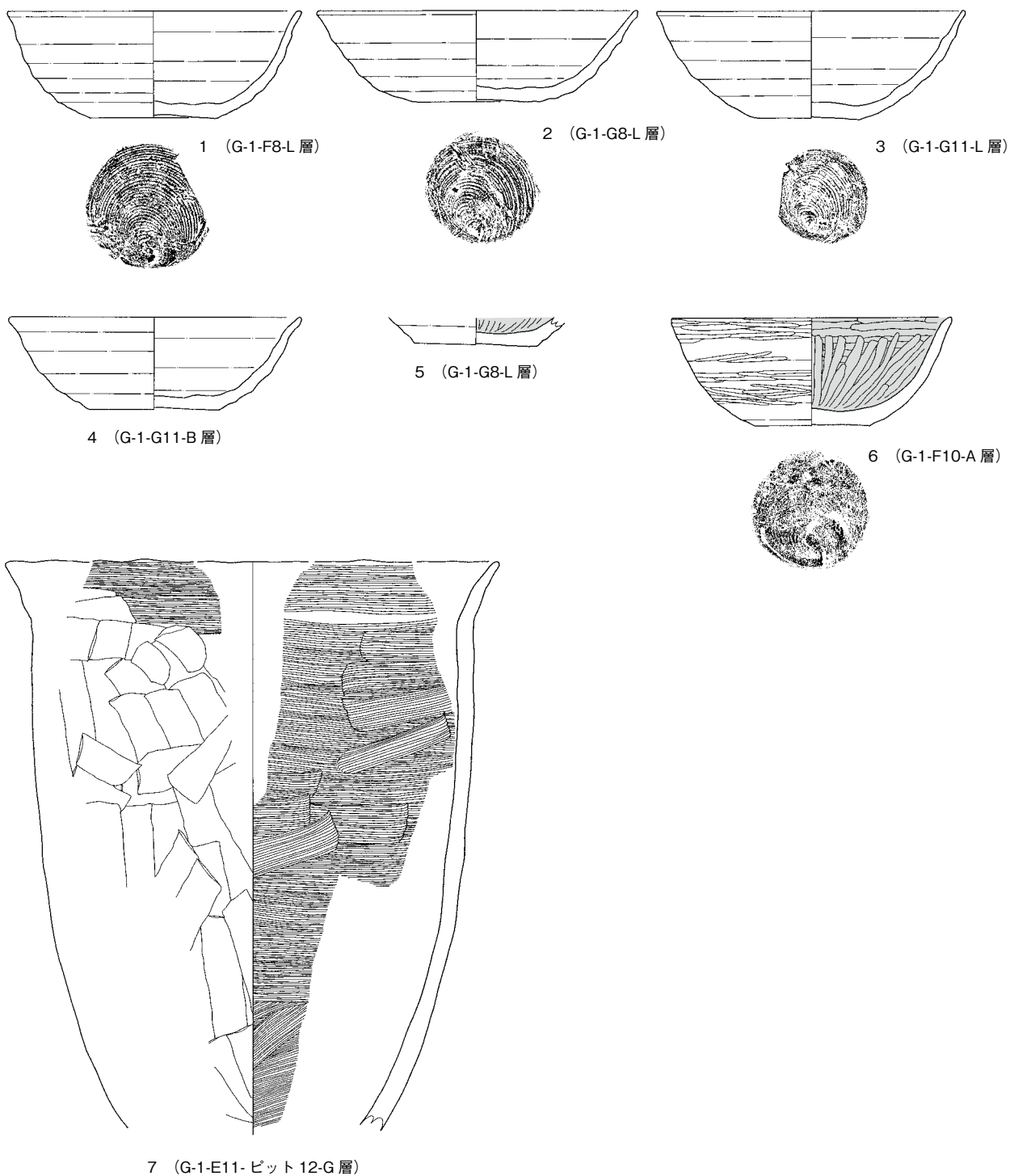
9 (RA683-G-1-A10-L層)



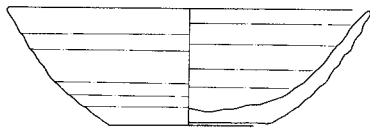
10 (RA685-F-1-C8-L層)



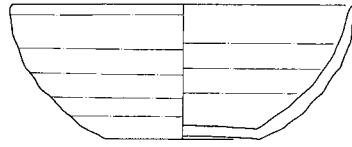
第47図 RA683・685 堅穴建物跡出土土器



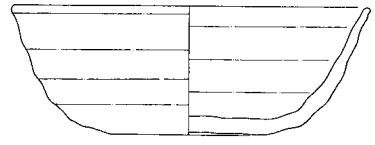
0 1 : 3 10cm



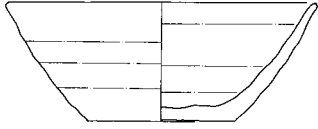
1 (RA687-G-1-H10- 攪乱)



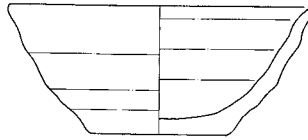
2 (RA687-G-1-K10-L層)



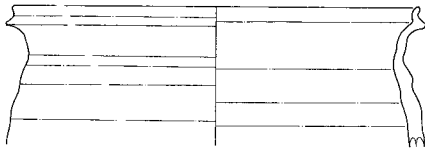
3 (RA687-G-1-J9-A2層)



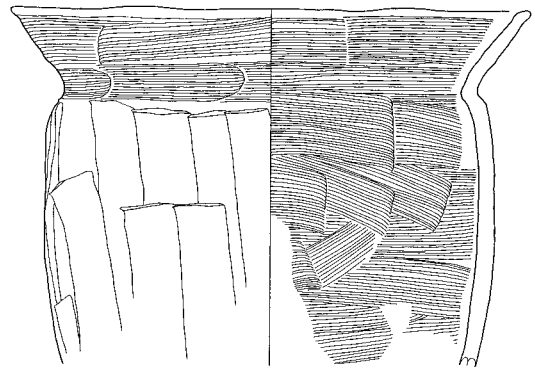
4 (RA687-G-1-K9-A2層)



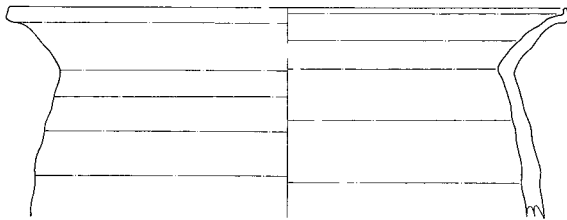
5 (RA687-G-1-J10-埋土)



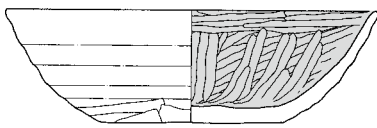
6 (RA687-G-1-J9-A2層)



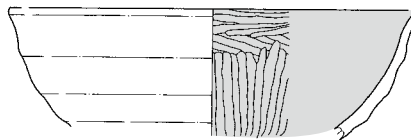
8 (RA687-G-1-J9-床面1)



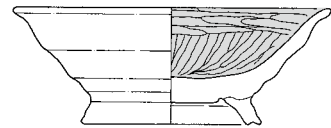
7 (RA687-G-1-K9-煙道-J6層)



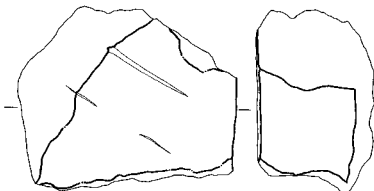
9 (RA688-G-1-E9-D2層)



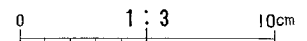
10 (RA688-G-1-C10-L層)

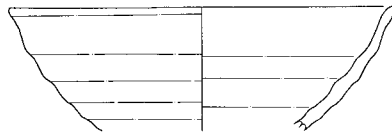
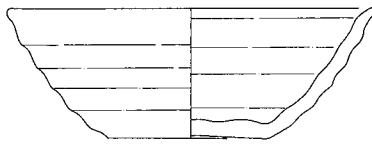


11 (RA688-G-1-D10-B2層)



12 (RA688-G-1-D9-B層)



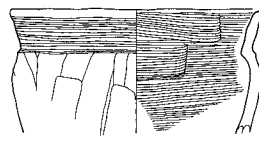
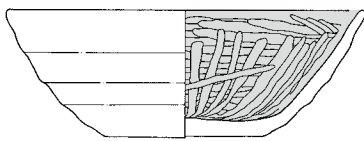


2 (RA690-G-1-B14-貯蔵穴-D層)

3 (RA690-G-1-A16-C層)

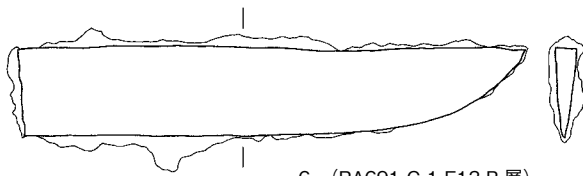


1 (RA690-G-1-B14-貯蔵穴-D層)

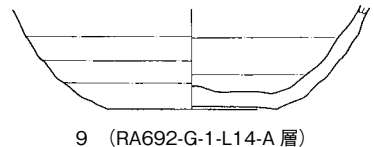
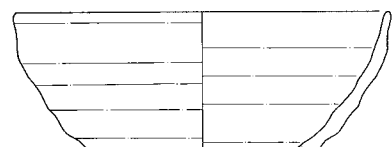
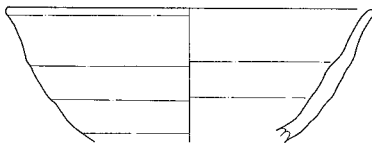


4 (RA690-G-1-B14-貯蔵穴-D層)

5 (RA690-G-1-B14-L層)



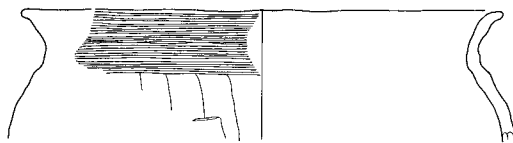
6 (RA691-G-1-F13-B層)



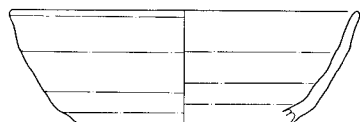
7 (RA692-G-1-L14-A層)

8 (RA692-G-1-L14-A層)

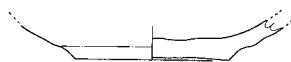
9 (RA692-G-1-L14-A層)



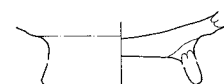
10 (RA692-G-1-L14-ピット2-D2層)



11 (RA693-G-1-G18-A層)

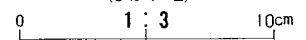


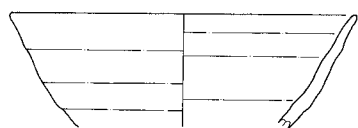
12 (RA694-G-1-E17-A2層)



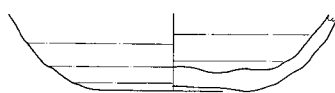
13 (RA694-G-1-F17-L層)

(6は1:2)





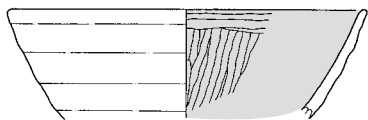
1 (RA695-G-1-H16-J3層)



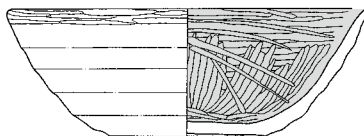
2 (RA695-G-1-I16-A1層)



3 (RA695-G-1-I16-B層)



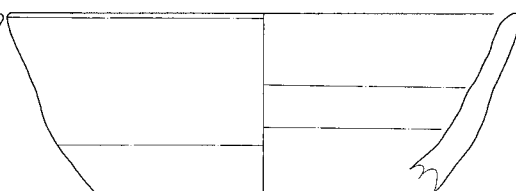
4 (RA695-G-1-I16-ピット1-F2層)



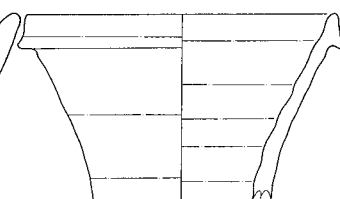
5 (RA695-G-1-I16-ピット4-F1層)



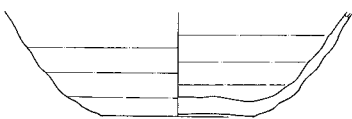
6 (RA696-G-1-K16-L層)



7 (RA696-G-1-K16-L層)



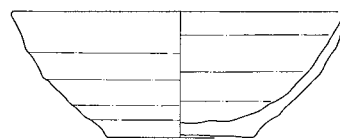
8 (RA696-G-1-K15-床下ピット-F層)



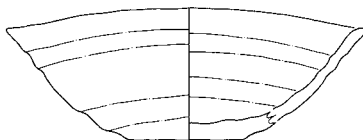
9 (RA697-G-1-K18-床面)



10 (RA697-G-1-K18-D2層)



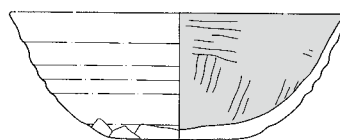
11 (RA697-G-1-L19-L層)



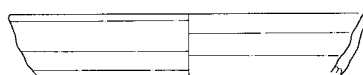
12 (RA697-G-1-L19-L層)



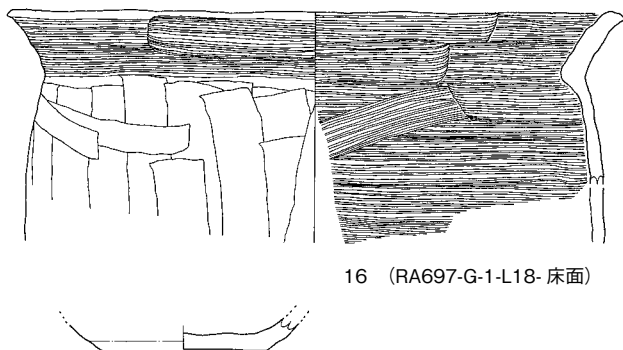
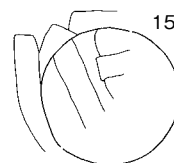
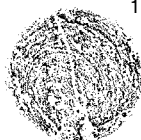
14 (RA697-G-1-K19-A層)



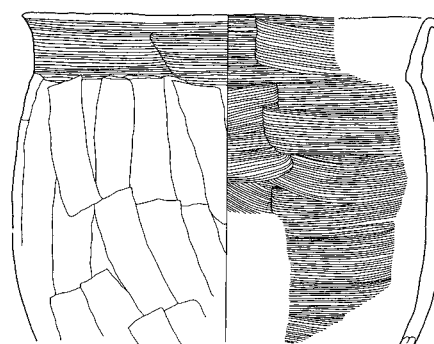
15 (RA697-G-1-K18-C層)



13 (RA697-G-1-J19-L層)

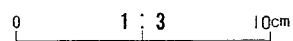


16 (RA697-G-1-L18-床面)

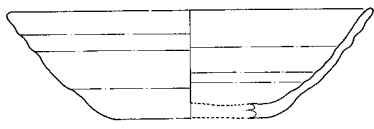


17 (RA697-G-1-L18-J層)

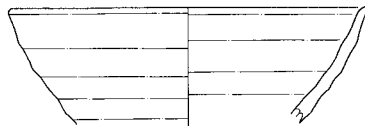
18 (RA698-G-1-B23-A2層)



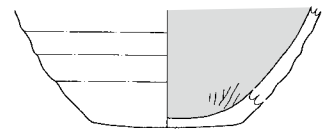
第51図 RA695~698 堅穴建物跡出土土器



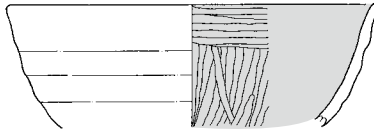
1 (RA699-G-1-J24-B層)



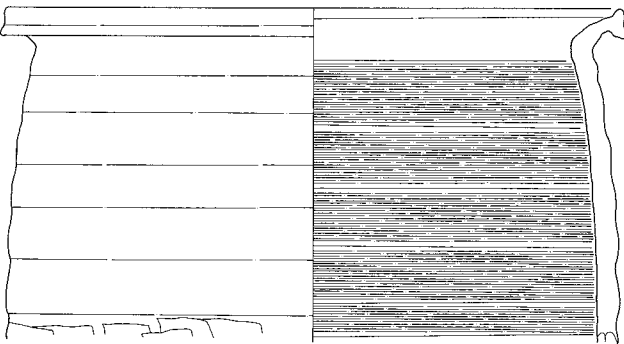
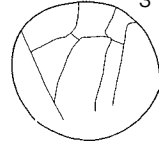
2 (RA699-G-1-K24-L層)



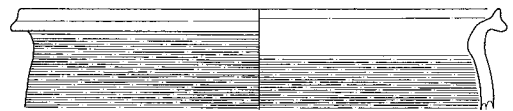
3 (RA699-G-1-K24-B層)



4 (RA699-G-1-K24-B層)



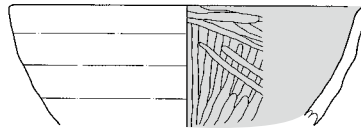
5 (RA699-G-1-K24-床面2)



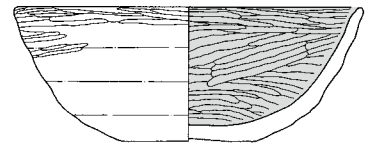
6 (RA699-G-1-K24-B層)



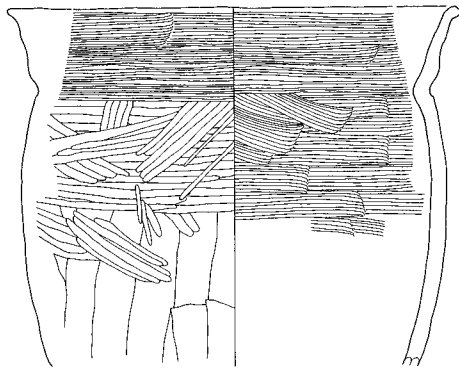
7 (RA701-G1-J2-B層)



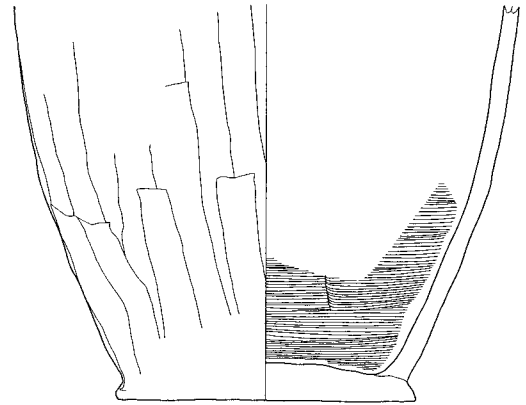
8 (RA701-G1-J3-J1層)



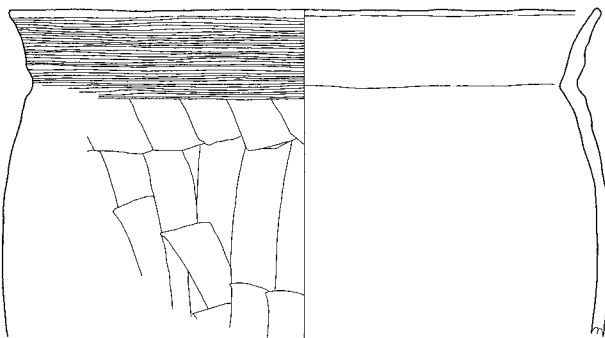
9 (RA701-G1-J2-貯蔵穴-E層)



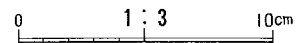
10 (RA701-G1-J5-ピット1-H1層)

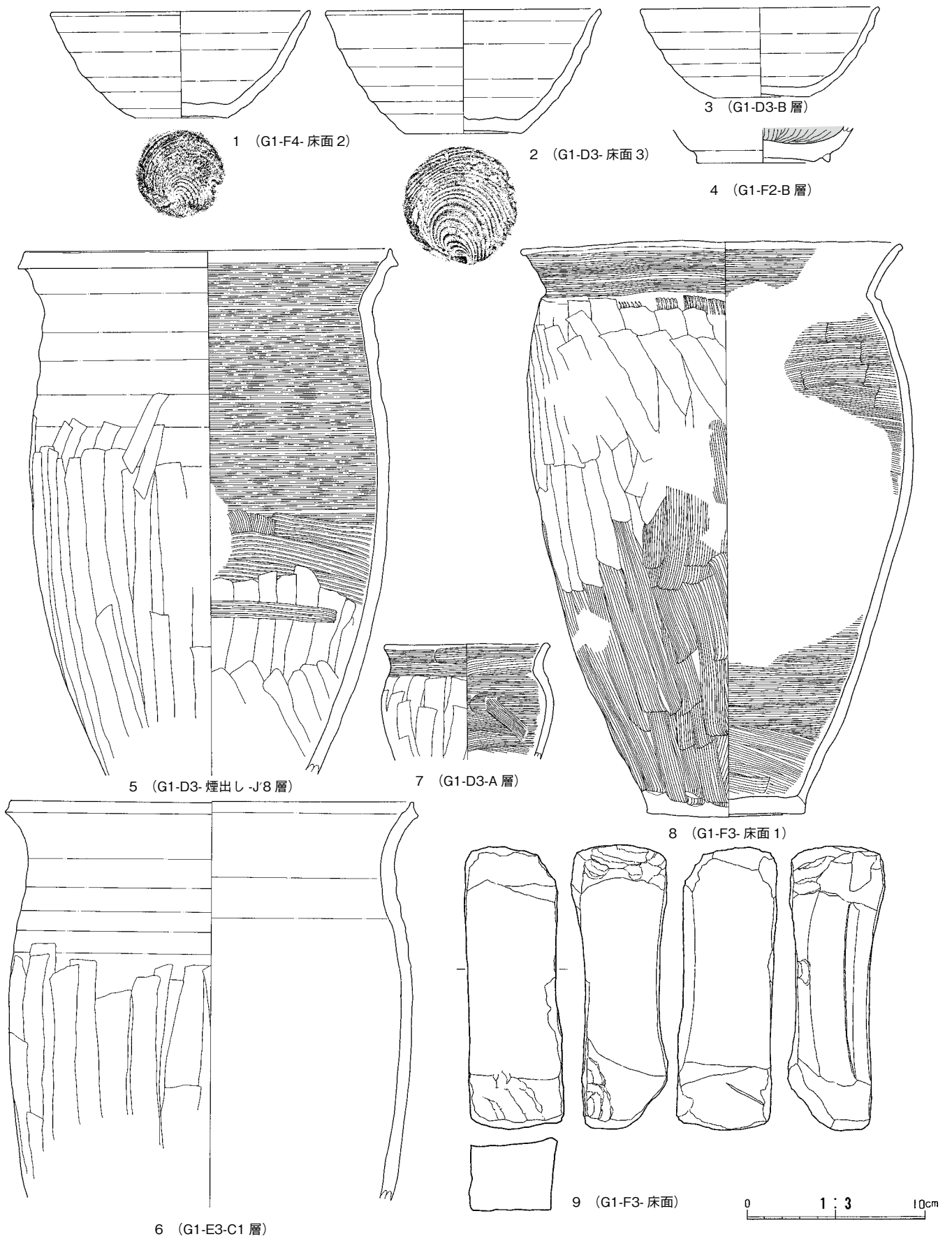


11 (RA701-G1-J4-カマド焼土-J層)

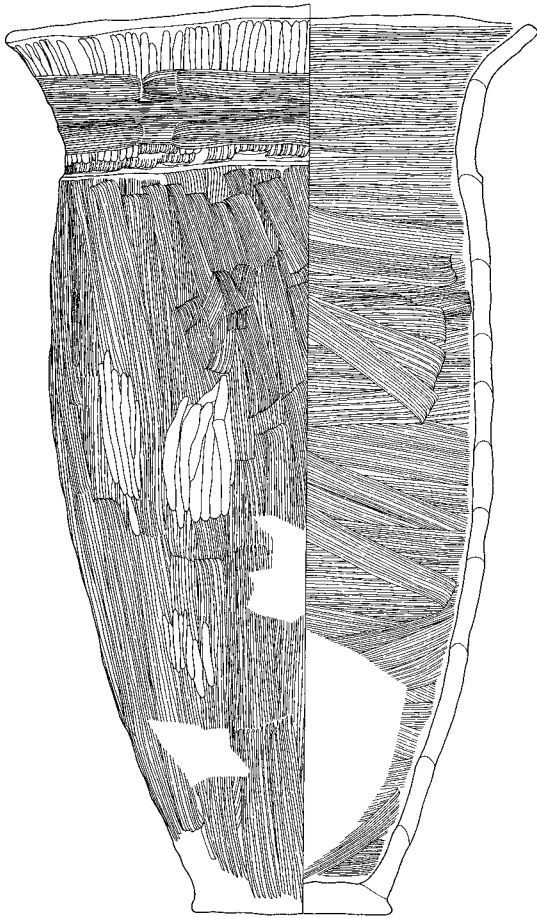


12 (RA701-G1-J4-D層)

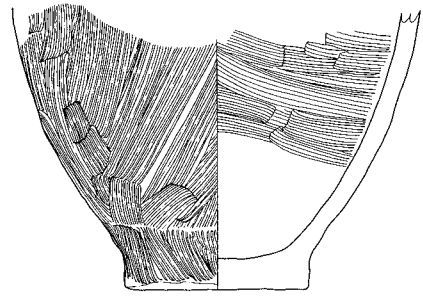




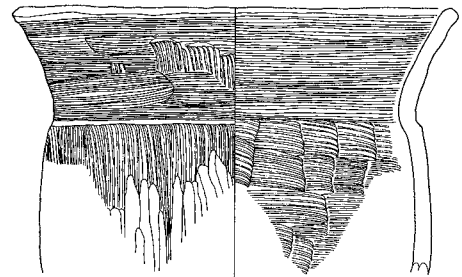
第53図 RA700 堅穴建物跡出土遺物



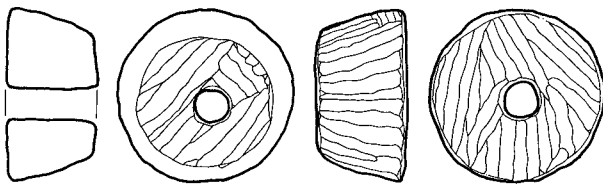
1 (RD2186-F-1-Y6-底面)



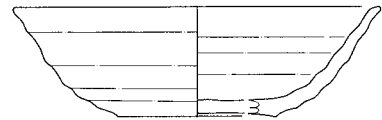
2 (RD2187-F-1-W8-D層)



3 (RD2187-F-1-W8-C層)



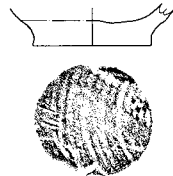
4 (RD2187-F-1-W8-A2層)



5 (RD2191-G-1-K12-B層)



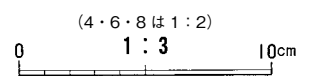
6 (RD2212-G1-J4-A2層)



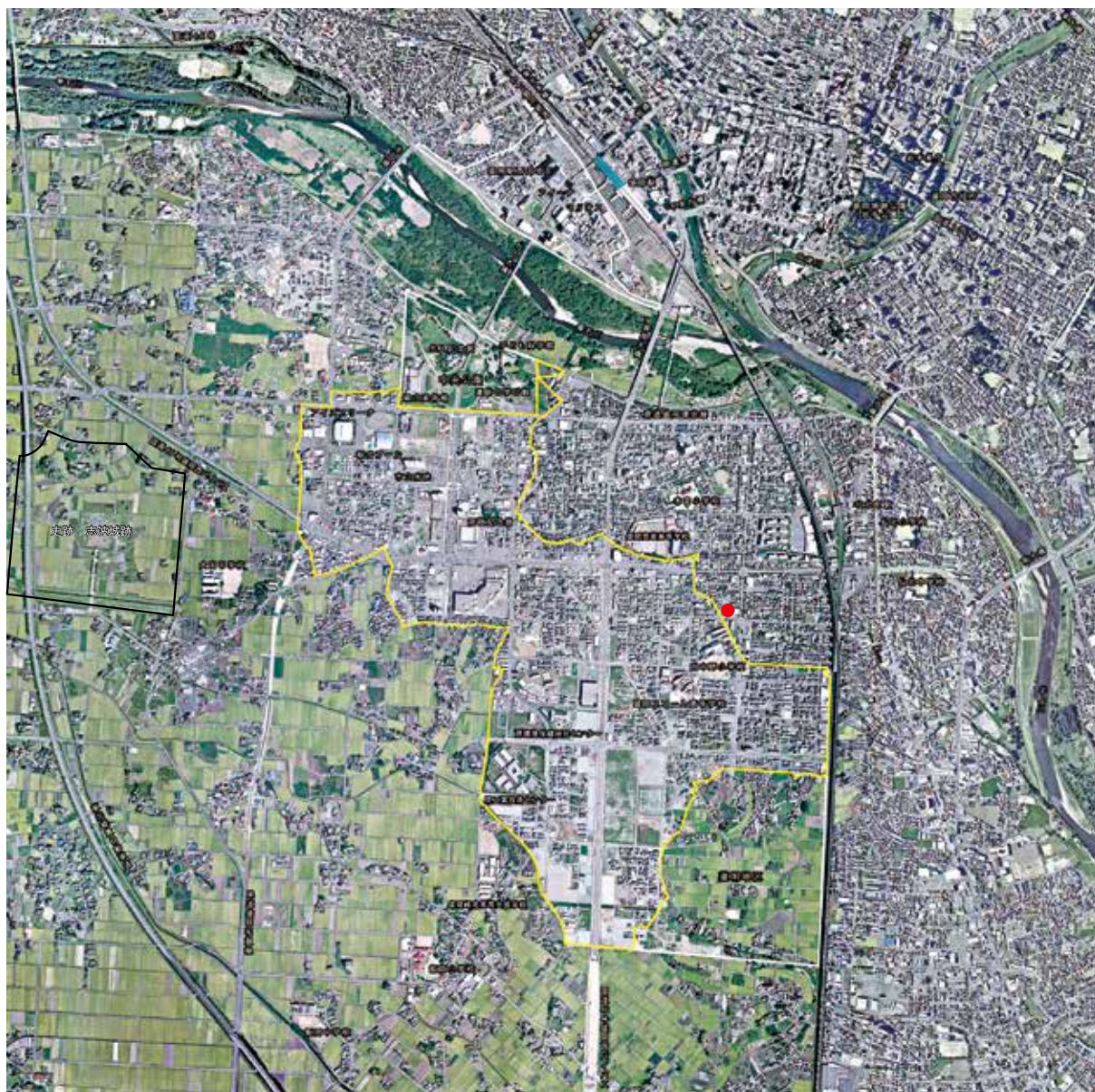
7 (RG621-G-1-F17-A層)



8 (F-1-Y10-C層)



写 真 图 版



盛南開発地区航空写真（2012年9月撮影）

●調査地点

提供 独立行政法人都市再生機構 岩手都市開発事務所

第2図版



第80次調査区南全景（北から）



第80次調査区北全景（南から）



RA671 竪穴建物跡全景（西から）



RA672 竪穴建物跡全景（北東から）



RA673 竪穴建物跡全景（南東から）



RA679 竪穴建物跡全景（東から）



RA674 竪穴建物跡全景（北西から）



RA674 竪穴建物跡 貯蔵穴遺物出土状況（西から）



RA675 竪穴建物跡全景（南から）



RA675 竪穴建物跡 柱材検出状況（北西から）

第4図版



RA676 竪穴建物跡全景（南東から）



RA677 竪穴建物跡全景（西から）



RA678 竪穴建物跡全景（北西から）



RA678 竪穴建物跡 カマド全景（南西から）



RA680 竪穴建物跡全景（南から）



RA681 竪穴建物跡全景（南から）



RA682 竪穴建物跡全景（南東から）



RA683 竪穴建物跡全景（南西から）



RA684 竪穴建物跡全景（北東から）



RA685 竪穴建物跡全景（南から）



RA686 竪穴建物跡全景（北西から）



RA687 竪穴建物跡全景（南から）



RA688 竪穴建物跡全景（東から）



RA689 竪穴建物跡全景（北東から）



RA690 竪穴建物跡全景（南東から）



RA691 竪穴建物跡全景（南西から）

第6図版



RA692 竪穴建物跡全景（西から）



RA693 竪穴建物跡全景（東から）



RA694 竪穴建物跡全景（南東から）



RA695 竪穴建物跡全景（東から）



RA696 竪穴建物跡全景（東から）



RA696 竪穴建物跡 床下ピット遺物出土状況（西から）



RA697 竪穴建物跡全景（西から）



RA698 竪穴建物跡全景（東から）



RA699 竪穴建物跡全景（北から）



RA700 竪穴建物跡 I・II 期全景（北東から）



RA700 竪穴建物跡 II 期 カマド全景（北から）



RA701 竪穴建物跡全景（北から）



RB142 掘立柱建物跡全景（南東から）



RD2186 土坑全景（西から）



RD2187 土坑全景（北から）



RD2188 土坑全景（東から）

第8図版



RD2189 土坑全景（南から）



RD2190 土坑全景（南東から）



RD2191 土坑全景（北東から）



RD2192 土坑全景（東から）



RD2193 土坑全景（南西から）



RD2194 土坑全景（東から）



RD2195 土坑全景（南から）



RD2196 土坑全景（南西から）



RD2197 土坑全景 (東から)



RD2198 土坑全景 (東から)



RD2199 土坑全景 (東から)



RD2200 土坑全景 (南から)



RD2201 土坑全景 (南西から)



RD2202 土坑全景 (南西から)



RD2203 土坑全景 (東から)



RD2204 土坑全景 (南から)

第10図版



RD2205 土坑全景（南東から）



RD2206 土坑全景（北東から）



RD2207 土坑全景（南東から）



RD2208 土坑全景（南東から）



RD2209 土坑全景（南東から）



RD2210 土坑全景（東から）



RD2211 土坑全景（東から）



RD2212 土坑全景（西から）



RG616 溝跡全景（東から）



RG617 溝跡北全景（北から）



RG617 溝跡南全景（北西から）



RG618 溝跡全景（北から）



RG619 溝跡北全景（南東から）



RG619 溝跡南全景（南東から）



RG620 溝跡全景（南西から）



RG621 溝跡全景（西から）



RG622 溝跡全景（東から）



RA671 豎穴建物跡出土土器



RA672 豎穴建物跡出土土器



RA673 豎穴建物跡出土土器



RA679 豎穴建物跡出土土器



RA674 豎穴建物跡出土土器・土製品



RA675 豎穴建物跡出土土器



RA675 豎穴建物跡出土土師器坏 墨書「木」



RA675 豎穴建物跡 ピット2 出土柱材



RA676 豎穴建物跡出土土器



RA676 豎穴建物跡出土土師器坏 刻書「+」



RA677 豎穴建物跡出土土器



RA678 豎穴建物跡出土土器



RA680 豎穴建物跡出土土器



RA681 豎穴建物跡出土土器



RA682 豎穴建物跡出土土器



RA683 豎穴建物跡出土土器

第14図版



RA686 豎穴建物跡出土土器



RA687 豎穴建物跡出土土器



RA688 豎穴建物跡出土土器



RA690 豎穴建物跡出土土器



RA691 豎穴建物跡出土小刀



RA692 豎穴建物跡出土土器



RA694 豎穴建物跡出土土器



RA695 豎穴建物跡出土土器



RA696 豎穴建物跡出土土器



RA697 豎穴建物跡出土土器



RA699 豎穴建物跡出土土器



RA700 豎穴建物跡出土土器



RA701 豎穴建物跡出土土器



RA673 豎穴建物跡, RD2191 土坑, RG621 溝跡出土土器



RA675・688・700 豎穴建物跡出土砥石



RD2186 土坑出土土器

第16図版



RD2187 土坑出土土器, 土製品



遺構外出土縄文土器



RD2212 土坑出土磁器 染付「別當塚」



調査風景



盛岡市立向中野小学校3年生見学会 (平成25年10月23日)

報告書抄録

ふりがな	だいたろういせき							
書名	台太郎遺跡							
副書名	「フローラルアベニュー向中野2丁目」宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ番号								
編著者名	花井正香							
編集機関	盛岡市教育委員会 盛岡市遺跡の学び館							
所在地	〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1 電話 019-635-6600 Fax 019-635-6605							
発行機関	徳清倉庫株式会社・盛岡市教育委員会							
発行年月日	2015年9月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	世界測地系				
だいたろういせき 台太郎遺跡 第80次	いわてけんもりおかし 岩手県盛岡市 むかいなかの 向中野二丁目 6番2	03201	LE16-2269	39° 40′ 45″	141° 08′ 38″	2013.07.22 ～ 2013.12.02	1,155 m ²	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
台太郎遺跡	集落	奈良時代 平安時代 古代以降	竪穴建物跡 4棟 土坑 2基 竪穴建物跡 27棟 掘立柱建物跡 1棟 土坑 5基 土坑 20基 溝跡 7条	須恵器, あかやき土器, 土師器, 土製品(紡錘車, ミニチュア土器), 石製品(砥石), 鉄製品(小刀), 磁器, 木製品(柱材)	平安時代の竪穴建物跡内から地鎮の可能性のあるピットと埋納された須恵器が出土。竪穴建物跡の柱穴に柱材が残存。			
要約	台太郎遺跡は大規模土地区画整理事業によって、遺跡西部から中央部が調査されており、古代の竪穴建物跡が約700棟確認される、北上川流域で最大規模の集落である。本調査では調査事例の少ない遺跡東部の集落の様相を明らかにすることができた。							

台 太 郎 遺 跡

—「フローラルアベニュー向中野2丁目」宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書—

2015年9月30日 発行

編集 盛岡市教育委員会 盛岡市遺跡の学び館

〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1

電話 019-635-6600 Fax 019-635-6605

発行 徳清倉庫株式会社 盛岡市教育委員会

印刷 株式会社 吉田印刷

〒020-0016 岩手県盛岡市名須川町23番地27号

電話 019-625-2323 Fax 019-622-1377